

2019（平成31）年度 事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

2019年度事業報告目次

	ページ
法 人	1
神戸聖隷歴史資料館	31
平生園	34
わらしべ	42
さくらの苑	49
恵生園	54
真生園	60
和生園	67
北但広域療育センター	76
エスポワールこじか	81
神戸聖生園	86
グループホームたいのはた東	92
グループホームしおや	96
グループホームせいれいやまて	
神戸愛生園	100
すま障害者地域生活支援センター	103
神戸聖隷総合相談センター	107
神戸友生園	110
グループホーム南落合	117
神戸光生園	119
グループホームみなみたもん	124
グループホームふくだ	127
神戸明生園	129
ケアホームきたすま	133
神戸市立ワークセンターひょうご	134
神戸市障害者就労推進センター	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者就職拡大推進事業	
ひょうご障害者地域生活支援センター	142
神戸市発達障害者中部相談窓口	
神戸市障害者基幹相談支援センター	
ひょうごデイサービスセンター	148
神戸市立自立センターひょうご	154
ワークセンターわかまつ	160
せいれいやさかだい	165
事業報告別表1（事業実績）	173
事業報告別表2（設備整備実績）	175

2019年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
理事長 水野 雄二

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマの信徒への手紙 12:15)

はじめに

2019年度も神の豊かな恵みの下、ご利用者、ご家族のご理解を受けて、また職員の献身的な働きによって、事業を遂行することができました。本年度も時代の変化、地域の変容に気を配りつつ、将来のビジョンに向かって引き続きしっかりとした歩みを進めることができました。しかし、2020年1月から顕著になった新型コロナウイルス感染拡大の影響は年度末に至って現れ、ご利用者支援方法の修正や職員研修や会議の中止など、通常とは異なる対応を迫られ、感染拡大防止に向けて法人を挙げて対策を講じることとなりました。

神戸聖隷福祉事業団は2017年度より第3期中期計画を実行しました。本年度は最終年となり、その成果が問われる時となりました。初年度から6つの中期事業目標に対応する部会、即ち理念理解定着部会、職員育成推進部会、QOL推進部会、経営強化推進部会、地域貢献推進部会、人事・労務・危機管理推進部会を構成し、具体的な取組を始めてきましたが、それぞれの目標達成に向けて1年の歩みを進めました。同様に各施設における第3期中期計画も最終年の試みが実施され、また、同時に社会福祉充実計画も継続され、3年目の計画が実行されました。それぞれに計画した全てを遂行できたわけではありませんが、今後は更に第4期中期計画(2020～2022年度)に引き継がれ、計画完遂を目指していきます。

地域共生社会の実現に向けた課題は、本年度も大きな課題として取り組みを継続しましたが、特に友が丘(神戸市須磨区)における新事業所建設、また竹田(朝来市和田山町)における新施設建設は着工を迎える準備が整い、次年度のビジョン実現へ大きなステップアップとなりました。また、本年度は新しいグループホーム3か所の開設が続き、ご利用者の地域での生活が豊かなものとなるように機会を提供することができました。

人口減少社会の中、福祉人材の確保の困難さが厳しさを増しています。本年度における新しい人材の採用状況は低調に終わり、更なる取組強化が求められます。また、「働き方改革」が叫ばれる中、職員が喜びをもって、働きやすい環境の下で業務を全うできるように、システム整備を進めることができました。

多様なご利用者お一人おひとり、そして多くの職員の一人ひとりが共に生きるしあわせを感じることができるように「共感の支援」のクオリティを高め、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くことができる場として、豊かな関係性を保つ法人としての歩みを刻む1年となりました。

第3期中期計画の3か年度目として

中期事業目標① 社会福祉法人の使命を果たすため、固く理念に立ちます

理念理解定着部担当

水野 雄二

2017年度から活動を開始した理念理解定着部会を推進役として、法人の基本理念の浸透と定着を目標に、2019年度も3か年目の事業を進めました。本年度は3か年の事業評価の年として、前年までの事業を発展的に継続しました。神戸聖隷に関係する多くの方々が基本理念に触れる機会を増やすと共に、職員に向けては理念の神髄に触れる機会としての研修の場を設定し、6月には神戸における先輩法人であるイエス団で、1月には浜松市の聖隷グループで他法人理念研修を行い、それぞれの参加職員にはインパクトのある大きな学びとなりました。また、理念研修としての特別講演会を開催しようと神戸市内の他法人と共に準備を行い、2月にカトリックの片柳弘史神父を迎えての講演会を実施することができました。これらを通して理念研修の質を上げる試みを続けてきました。未実施のこととして、職員の連帯意識醸成のための「職員の集い」の開催を検討してきましたが、多忙な職員への負荷を考慮して第3中計期間内実施は断念し、継続課題としました。

法人理念を考えるツールとして、従来から使用されてきた「基本理念Q&A」に替わる教材としての「神戸聖隷ハンドブック」を各施設で広く活用することができました。活用アンケートを参照した改訂作業を進め、3月末に第2版の改訂版を発売することができました。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を日常的に考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるように、第4期も法人全体として理念浸透に向けてのアプローチを続けていきます。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
所管常設部会の設置と運用	①「理念理解定着部会」の設置継続と運用 当事業目標達成のための方策検討と実施 担当	ア) 第15回～第21回を開催 イ) 小ミーティングを開催	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
価値観と出会う場の提供	①基本理念の唱和の機会堅持（各施設） ②年間聖句の選定と掲示（各施設） ③神戸聖隷歴史資料館のプログラム提案（但馬総合事務所との連動） ④「職員の集い」の企画検討（2019年度実施へ） ⑤理念につながる講演会の開催	① ア) 理念唱和を施設長会議で要請 ② ア) 年間聖句を各施設で掲示 ③ ア) 歴史資料館でクリスマスイベントを実施（12/7） ④ ア) 「職員の集い」に関しては職員への負荷を考慮して、継続協議とし、不実施 ⑤ ア) 片柳弘史神父講演会を3法人共催で開催し、150名が参加（2/7）	○
キリスト教福祉講座の見直し・理念研修のあり方検討（社会福祉充実計画 No. 3 及び No. 4）	①理念研修の実施（キリスト教福祉基礎研修・歴史資料館訪問を含む、職員育成推進部会との連動） ②キリスト教社会福祉事業の他法人理念研修（他施設見学）の実施（春に神戸にて、冬に浜松にて） ③基本理念をテーマとした職員の海外研修実施（タイ・チェンマイにて）	① ア) キリスト教福祉基礎研修を但馬、神戸で実施 ② ア) 第1回他法人訪問（6/19）はイエス団に14名が参加、第2回（1/27～28）は浜松聖隷グループに11名が参加 ③ ア) 第3回海外研修に6名が参加（11/24～30、タイ・チェンマイ）	◎
「基本理念 Q&A」冊子の改訂（再作成）	①「神戸聖隷ハンドブック」（2017年度作成）の活用促進	ア) 各施設で活用 イ) 改訂作業を行い、第2版を発刊・配布（3月）	◎
その他	①協力牧師との懇談会開催 ②職員報の作成と発行（理念、ビジョンの共有化） ③理念グッズの制作	① ア) 牧師懇談会を8/29に実施5名の牧師が参加 ② ア) 職員報第4号発刊 ③ ア) 法人マスコットキャラクターの募集・選考・決定	○

第3期中期計画の3か年度目として

中期事業目標③ 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

職員育成推進部担当

有川 洋司

福祉人材確保・2020 求人活動については上半期の実績を踏まえて、採用試験日を増やし、活動内容を強化し取り組みましたが、大きな受験者増には至りませんでした。結果、新卒者は9名、登用者は11名 合計20名となりました。目標達成には至りませんでした。2021 採用へ向けて大学の先生・授業を介した学生との繋がりや実習（インターンシップ・ボランティアも含む）を、強化ポイントを挙げて取り組みを継続します。

内部研修について、予定していた研修については講師等との調整のうえ、中止や変更がありましたが、実施できました。延期を余儀なくされた研修がありましたので、外部研修や研修コンサルタント会社と組んだ新研修と合わせて次年度の内部研修で実施します。年間の延べ研修参加職員数は356名でした。

Web 会議については Live On システムを継続利用しました。利用回数（年間94回）は、会議予約（42件）と合わせて増加しています。システム周辺機器の充実と拠点数の増加を図りながら、システムをより快適に使えるように継続していきます。

研修助成については社会福祉充実計画 No. ①の自主研修助成については15名、No. ②の介護福祉士、実務者研修については10名の研修費助成が完了しました。

「新型コロナウイルス感染防止対策」の為、係る2019年度の実施計画について中止、変更、延期等の対策を行いました。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
「神戸聖隷」が求める職員像の明示と浸透	①職員募集資料等の活用と就職活動との連動 ②見学会、実習、インターンシップ、アルバイト、ボランティア等の情報作成と連動 2019年2～12月	①・② ア)就職フェア、学校訪問、見学、実習、インターンシップ、アルバイト、ボランティア、準備協力（4～2月） ※3月以降については新型コロナウイルス感染防止対策の為、予定されていた就職フェア等は中止、大学訪問も受入れ中止となった。 イ)ハローワーク学卒等求人説明会出席（5月） ※ハローワークの大卒・高卒等の求人説明についても申請方法がWeb受付方式に変更：それぞれに対応（10月～3月）	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
人事考課 制度の継 続と浸透 (処遇反 映研修)	①体系に基づく研 修の実施 ②新研修体系の構 築 外部研修情報提供 (通年) 外部研修採り入れ 2019年4～9月	①② ア) 各研修の準備と実施(4～9月) イ) 研修関係情報の扱いについて再考(4月) ウ) 外部研修利用について、今年度は取入れ 中止決定(7月) エ) 第4期中計策定各 SWOT 分析を取り入れて 実施(10月～3月) オ) 新型コロナウイルス感染防止対策の為、 1部研修の中止・延期の実施(2月～3月)	○
福祉人材 の確保と 障害者雇 用の推進	①Web 就活サイトの 活用 ②学校訪問の充実 若手職員同行・見 学会、実習、イン ターンシップ、ア ルバイト、ボラン ティア等の情報 提供実施 ③障害者雇用に繋 がる研修会・勉強 会の実施 ④職員採用試験日 設定 ・2020 職員採用目 標 : 介護・支援員 20 名、看護師 3 名、 PT2 名 事務職 3 名	① ア) Web 就活サイトの活用準備(4月) イ) ホームページ内エントリーの作成準備 (10月～3月) ウ) 採用試験日の調整と実施(4月～3月) エ) 豊岡市求人活動への参加「豊岡市就活応援 ブック 2021」特集ページ 申込(11月) オ) 介護のおしごとフェア出展(12月) カ) 第2回福祉の就職フェア出展3/14→中止(2月) キ) 但馬合同企業説明会出展 3/12→中止(2月) ② ア) 学校(OBOG 同行・新規)訪問実施(6～9月) イ) 高校求人学校へ連絡(但馬・神戸) ウ) 後期学校訪問延べ9大学(10～11月) エ) 大学先生訪問3大学(10～11月) オ) 大学授業の発表準備2大学(11～12月) カ) 本年度の求人のお礼と次年度に向けて挨拶 訪問(3月はほぼ全校で中止) ③ ア) 研修会実施調整(9月)→講師都合中止 ④ ア) 採用試験日増設実施 2020年3回増 イ) 2021 採用計画組立(12～3月) ウ) Web 就活サイト 2021 採用分準備(11月～) エ) 2020 新規採用職員決定 ・新卒・既卒9名(男2・女7) 介護・支援職7名(但馬3.神戸4) 事務職2名(但馬1、神戸1) ・登用 11名(男4・女7) 介護・支援職10名(但馬2、神戸8) 事務職1名(但馬1、神戸0)	△

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
人事考課制度に対応した研修体系の構築	①新体系に基づく研修実施	ア)新規採用職員研修(4月)延べ36名/3日 イ)一般職員研修Ⅰ(利用者理解コミュニケーション)実施(6月)19名 ウ)中級一般職研修Ⅱ(フォローアップ)13名 エ)各研修会で女性活躍推進啓発実施 オ)上級一般職研修Ⅱ(1月)21名 カ)㈱SSTラーニング社と「リーダー職員育成」「施設長研修」について打合せ・見積もり(2020年度で実施継続検討) キ)新規採用職員フォローアップ研修(11月)延べ24名/2日 ク)中級一般職研修Ⅲ(3月):新型コロナウイルス感染防止対策の為2020年度へ延期	◎
管理職の育成	①体系に基づく研修実施 ②各部会協働研修を実施	① ア)主任副主任エキスパート研修(事例検討)(5月)17名 イ)主任副主任エキスパート研修(OJT基礎)(6月)13名 ウ)新副主任研修(7月)6名 エ)課長研修(11月)延べ42名/2日 オ)主任副主任エキスパート研修(12月)17名 カ)施設長研修(3月)新型コロナウイルス対策の為、2020年度へ延期 キ)課長研修フォロー実施2名(1月) ② ア)主任副主任エキスパート協働研修について今年度中止。他研修プログラムへ取入れ	◎
階層に捉われない総合的な人材育成	①研修目的別に4種の研修実施 2019年4月～12月 ②理念理解定着部と共同で理念関係研修を組入れ実施	① ア)一般職員研修(多部署連携)(7月)15名 イ)一般職員研修(ビジネスマナー)(5月)20名 ウ)総合職員研修実施(2月)延べ100名 エ)障害者雇用に関する研修(2月)も内部講師の都合合わず中止 ② ア)各研修のプログラムに取入れて実施 イ)理念理解部との合同会議実施(10月) ※2019年度研修参加 延べ総数 356名	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
I T 技術 (ネット 会議等)の 導入	①Web 会議利用環境 の整備実施 ②ネット会議利用 マニュアルの作 成 通年 ③システム利用管 理を J-motto 設備 予約で実施 通年	① ア)各会議・打合せ等で利用活用 ② ア)ネット会議システム・利用マニュアル更新 実施 (Live On 配信利用) ③ ア)システム利用予約履歴:23 件 (4~9 月) イ)システム利用予約履歴:7 件 (10~12 月) ウ)システム利用予約履歴:12 件 (1~3 月) 年度計:42 件 エ)Live On 入室履歴:64 回 (4~9 月) オ)Live On 入室履歴:13 回 (10~12 月) カ)Live On 入室履歴:17 回 (1~3 月) 年度計:94 回	○
I T 関連 企業への 協力要請 と活用	①Live On システム の活用、 ②Web 会議機器使用 マニュアルの整 備 (株)JMS へ相談 継続	① ア)Live On システム活用継続 イ)法人内施設の使用済み PC 利用検討 ウ)次年度でノート PC を購入する計画 ② ア) (株)JMS と協力継続	○
当法人在 籍職員を 対象に各 種外部研 修に参加 する費用 を補助す る。(No1)	①各種外部研修の ために 20 名の職 員に費用補助を 行う。 ②50 千円 (上限) × 20 名=1,000 千円	① ア) 2019 年度: 15 名 (3 名が次年度決済へ) ② ア) 15 名全員の助成完了	◎
当法人在 籍職員を 対象に介 護福祉士 国家試験 を受験す るための 実務者研 修の受講 費用を補 助する。 (No. 2)	①5 名の職員に実務 者研修の受講費 用を補助する ②100 千円 (上限) × 5 名 =500 千円	① ア) 2019 年度: 10 名 ② イ) 10 名に対して助成を実施	◎

第3期中期計画の3か年度目として

中期事業目標③ ひとり一人のQOL（生活の質）を生涯にわたって支えます

QOL推進部担当
種谷 啓太

第3期中期計画のQOL推進部の3か年の報告をいたします。

各事業所の利用者のQOLを高め、それを支えることを主眼としての3年間取り組みましたが、「QOLを生涯にわたって支えます」という次元はまだ先だと感じています。

職員不足という課題の中で、各施設の身動きがあまり取れなかった感があります。推進部からの取り組みはサービス提供にかかわる職員の態度・言動やQOLの向上のチェックに終わり、その集計から評価し各施設と共に考えるまでには至りませんでした。

第4期中期計画では各施設でPDCAサイクルを廻し、自ら気づき、自ら直し、自ら行動するシステムの構築を目指したいと思います。

以下、第3期中期計画QOL推進部の実施結果を報告します。

- ①全施設での第1期標準マニュアルに基づいた施設マニュアル(6項目)作成は出来ました。第2期上期・下期の各施設マニュアルは2020年度10月完成予定です。
- ②第三者評価の受審は、最終年度6施設が受審し3年間で全施設の受審が終了しました。
- ③虐待防止チェックリストは上期・下期の2回実施しました。集計結果を受けての施設訪問は出来ませんでした。虐待防止基準表・判定表の運用は上期に全施設での共通事例を用いての学習会を実施、下期に各施設での事例を用いての学習会を実施しました。
- ④2018年末に作成しました接遇ハンドブックにつきまして、年4回の接遇アップキャンペーンを実施しました。満足度調査は2018年度分の集計結果にQOL推進部より各施設にショートコメントをつけ回答しました。2019年度分については集計を行いました。
- ⑤事故・ヒヤリハット対応と高齢化・看取りにつきましてはあまり進展出来ませんでした。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
法人標準化マニュアル整備	①第2期分のマニュアル（面談、虐待防止、身体拘束、個人情報、苦情解決、感染症、防災、防犯）作成 ②各施設で標準マニュアルを基に全項目整備、確認 ③標準マニュアルの見直し	① ア) 第1期標準マニュアル（食事、排泄、入浴、服薬、移乗、送迎）完成し各施設整備（1月） ② ア) 第2期上期標準マニュアル（虐待防止、ノロウイルス、苦情解決、身体拘束、不審者対応、風水害）と下期（面談、個人情報、インフルエンザ、地震、車両、火災）は2020年度に整備予定 ③ ア) 更新マニュアル作成（1月）	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
第三者評価 の受審継続	①こじか、北但、友生園、 ワークひょうご、ワーク わかまつ、やさかだい、 すま支援センター受審 ②第4期計画の策定	① ア) 6 施設の受審終了 (すま障害者地域 生活センターの受審は不可) 3 施設の結果は公表 ② ア) 2020 年度から 6 年サイクルで年 3 施 設受審(2020 年度は和生園、真生園、 神戸光生園予定)	◎
虐待防止チ ェックリス ト実施継続	①新チェックリスト年 2 回運用継続	ア) 上期・下期分チェックリスト回収し 集計完了 推進部より面談希望は自 立センター、神戸愛生園、和生園だが 出来ず	○
虐待防止判 定基準表運 用	①虐待防止推進委員 (QO L 委員) 全体会実施 ②共通モデル事例を作成 し、全施設統一で各施設 の虐待防止推進委員を 中心に学習会実施 ③下期に各施設事例学習 会を虐待防止推進委員 が実施	① ア) 全体会 (共通事例学習会) 実施 (5 月) ② ア) 学習会 ひょうごデイ (7/4)、恵生 園 (7/10)、やさか (7/11)、わかまつ (7/16)、平生園 (7/18)、こじか・ワ ークひょうご (7/19)、聖生園 (7/30)、 友生園 (8/7)、光生園 (8/8)、自立セ ンター (8/9)、愛生園 (8/15)、和生 園 (8/23)、わらしべ (8/27)、明生園 (9/5)、北但 (9/13)、すま支援 (9/18)、真生園・さくら (9/25)、 総合相談 (9/27) 実施 ③ ア) 各施設での事例学習会の実施は未達 成	◎
接遇しおり のリニュー アルと運用	①接遇ハンドブックの運 用 ②接遇アップキャンペ ーンの実施	① ア) 各施設の接遇ハンドブック使用状況 を法人内月次報告で確認 ② ア) 「あいさつ」(6 月)「言葉使い」(9 月) 「表情・しぐさ」(12 月)「身だしなみ」 (3 月)でポスター作製し、啓発活動 実施	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
満足度調査の実施	<p>①2018年度の調査結果のまとめと事業運営への反映</p> <p>②満足度調査の実施推進</p>	<p>①</p> <p>ア) 2018年度満足度調査の結果集計し、各施設にショートコメントを発信</p> <p>②</p> <p>ア) 2019年度調査実施し回収 気になる施設への訪問出来ず</p>	◎
専門性の向上	虐待防止関係に吸収する	—	—
高齢化・看取りについて	①知的障害者の高齢化について検討	<p>ア) 但馬地区にて高齢化について法人内での順を追った継続利用方法のイメージ図作成</p> <p>イ) 2020年度に記録ソフト統計機能を使い高齢者支援について検討</p>	△
事故・ヒヤリハット対応	①特定施設の事故報告書の提供を求め、対策防止策について検討	ア) 恵生園、愛生園、光生園のヒヤリハット・事故報告収集	△

第3期中期計画の3か年度目として

中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

経営強化推進部担当

西山 充

利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成については、7月まで計画通り推移しましたが、8～10月の台風襲来、1月のインフルエンザ蔓延による臨時休業に加え、3月には新型コロナウイルス感染拡大による利用控えの影響等により、法人全体で利用者延人数は対目標値－1.3%（▲4,297人）、給付費収入も－0.2%（▲5,042千円）となりました。

昨年度マイクロバスを購入し運行を開始した送迎2ルートに加え、神戸市北区のご利用者を対象にもう1ルート増やす計画を進めましたが、追加整備する車種や対象利用者、また、それに伴うルートの選定など確定に至らず、2020年度に延期することとしました。

先進福祉機器導入については、さくらの苑に座位での入浴をアシストするホーミリフト・ご利用者の見守りを支援する眠りスキャン、神戸明生園に眠りスキャン・ペットロボット aibo、真生園に重度障害者入浴支援のためのシャワーバスを整備しました。また、ひょうごデイサービスセンターに整備したマッスルスーツ・重量1.8キロの超軽量パワーアシストスーツエアロバックに神戸市より補助金決定（補助率10/10）の内示がありました。

入所施設で多大な労力をかけ作成していた勤務表ですが、人事労務危機管理推進部と協働で整備した勤務表作成ソフトのAIと入力補助機能を活用することで、作成者が理想とする勤務表の5～7割程度を2～3分で作成出来るようになりました。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
新たな利用者の開拓	既存事業の稼働率向上 利用者延人数 ①年度目標値の達成 ②対前年1%増	①②共通 ア) 目標値達成月次チェックを実施（毎月） イ) 2016～2019年度4年間の利用延人数・給付費収入推移についてデータ配信（5月） ウ) 2019年度給付費収入に占める各種加算に関する調査実施、調査結果を中計実現会議にて報告（6月） エ) 4・5月実績が気になる施設（事業）を抽出し、ヒアリングシートを配信・回収、回答内容を確認し対応を検討（但馬6施設8事業、神戸4施設6事業）（6～8月）	◎
	新規事業等による事業収入拡大 給付費収入 ①年度目標値の達成 ②対前年1%増	オ) 施設訪問ヒアリングを実施（9月） カ) 2020年度予算ヒアリングシートを配信（1月） キ) 加算算定要件の確認調査を実施し、4調査結果を理事会にて報告（2月） ク) 2020年度目標値（利用延人数・給付費収入）入力シート配信・集計（3月）	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
利用者にとって魅力ある施設づくり	<p>神戸地区で独自の送迎サービスの実施</p> <p>①車いす対応車両追加購入</p> <p>②ルート追加走行</p>	<p>①②共通</p> <p>ア)神戸地区に車椅子対応の送迎ニーズ調査を実施 (6月)</p> <p>イ)対象施設から提出されたニーズ調査結果のまとめ実施 (7月)</p> <p>ウ)アンケートから見える各事業所の状況と今後のシステム利用について確認 (8月)</p> <p>エ)3台目の車両を想定したルート検討 (9月)</p> <p>オ)運業者ヤマトスタッフサプライにルート・車両に関する提案を依頼 (9月)</p> <p>カ)ルート及びエリアの検討結果から、ワゴンタイプの車両導入を検討 (11月)</p> <p>キ)車種をレジアスエースと仮定し、北区を対象としたコースでの運行委託料を含む概算見積り依頼 (1月)</p> <p>ク)計画実現を2020年度に延期し、概算費用を2020年度予算に計上 (2月)</p>	△
利用者にとって魅力ある施設づくり	<p>アメニティー向上への取り組み</p> <p>①バリアフリー対応状況を含む施設改修予定調査実施</p>	<p>ア)年間スケジュールを確認 (5月)</p> <p>11月にアンケート実施し、1月に各施設バリアフリー化対応等公表予定</p> <p>イ)アメニティー向上についてのアンケート調査票配信・集計 (11~12月)</p> <p>ウ)アメニティー向上アンケート調査結果配信 (1月)</p>	◎
	<p>先進福祉機器の導入による利用者ケアの充実</p> <p>①介護用ロボットの追加導入</p> <p>②重度化による入浴支援充実のためのシャワーバスの設置 (真生園)</p>	<p>①</p> <p>ア)さくらの苑:ホーミリフト1台整備 (8月)</p> <p>イ)神戸明生園:眠りスキャン3台整備 (7月)、ペットロボット aibo1 台整備 (8月)</p> <p>ウ)平生園:マッスルスーツ追加整備を検討するも、整備見送りを決定 (9月)</p> <p>エ)ひょうごデイ:マッスルスーツ Every1 台・エアパック2台の補助金を神戸市に申請 (1月) 補助金採択の内示あり (3月)</p>	◎
		<p>②</p> <p>ア)入札実施、業者決定 (7月)</p> <p>イ)浴室改修工事着手 (8月)、完了 (10月)</p> <p>ウ)人材確保等支援助成金 (介護機器コース) 計画申請提出 (8月)、助成金支給申請提出 (2月)</p>	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
計画的な積立金の計上	<p>予算ヒアリング時において地区毎の目標額を計上する</p> <p>①積立目標金額 1.6 億円</p>	<p>ア)当初予算の積立金計上額 1.49 億円 (但馬地区 0.51 億円、神戸地区 0.98 億円)</p> <p>イ)3月最終補正積立見込額 2.78 億円 (但馬地区 1.07 億円、神戸地区 1.71 億円)</p>	◎
システム (障害者支援等)の法人内統合による支出の効率化	①神戸地区(チャンネル)障害者支援システム(ほのぼのmore)クラウド化完了	<p>①</p> <p>ア)ほのぼのmoreクラウド化の業者説明会を実施し手順を確認(6月)</p> <p>イ)クラウド化実施、操作説明会開催(8月)</p> <p>ウ)順次データ移行し、チャンネル全施設クラウド版にて請求完了(3月)</p>	◎
	②支援記録システムの通所事業所での運用拡大	<p>②</p> <p>ア)通所施設は整備希望なし</p> <p>イ)さくらの苑:クライアント1台追加(5月)</p> <p>ウ)わらしべ:クライアント追加見送り(7月)</p>	◎
	③支援記録システムの効果的な運用・発展的な活用	<p>③</p> <p>ア)支援記録システム活用推進責任者会議を開催し、学習会のあり方を検討(7月)</p> <p>イ)地区別支援記録システム活用推進責任者会議を開催し学習会の課題を検討(8月)</p> <p>ウ)ほのぼのmore支援記録システムマスタ関連バージョンアップフォロー実施(NDソフトウェア)(8月)</p> <p>エ)ほのぼのmoreの障害者施設個別訪問学習会は年度内調整困難なため中止決定(12月)</p> <p>オ)ほのぼのNEXTの高齢者施設合同学習会実施(2月)</p>	○
	④人事・労務・危機管理推進部と合同中で、勤怠管理システムと連携した勤務表作成ソフトを整備する	<p>④</p> <p>ア)業者説明会開催し整備対象施設を決定、ライセンス数の調査実施(6~7月)</p> <p>イ)理事会提案・承認、発注、ソフト納品(9月)</p> <p>ウ)勤務表作成ソフトの専用サーバー設置、セットアップ(10月)、各施設(恵生園・真生園・平生園・さくらの苑・神戸愛生園・神戸明生園)のクライアント権設定(11月)</p> <p>エ)但馬・神戸各地区で集合研修実施(12月)</p> <p>オ)サポート訪問実施(神戸地区1月、但馬地区2月)</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
法人一括契約等による支出の効率化	燃料費 ①再精査を行い、メリットのある施設については契約する	ア)各施設の2018年度燃料費実績データを集計し、オリックス自動車株式会社、株式会社イチネンにガソリン給油カードの再提案を依頼（6月） イ)株式会社イチネンからガソリン給油カードの提案書の提出あり（7月） ウ)「支出の効率化（燃料費）」に関する取り組みについて中計実現会議にて報告（9月） エ)株式会社イチネンとのガソリンカード契約締結について常任理事会に提案・承認（10月） オ)各施設ガソリンカード給油開始（12月）	◎
	携帯電話 ①再精査を行い、希望施設に業者の紹介を行う	ア)中計実現会議で au (KDDI) 法人向割引プランを案内（6月） イ)北但広域療育センターへ au (KDDI) を紹介し、2台契約（7月） ウ)恵生園へ au (KDDI) を紹介し、1台契約（7月）	◎
	損害保険（自動車、火災） ①必要に応じ見直し	ア)自動車保険契約に関し見積合せの結果、東京海上日動火災保険㈱（代理店：日通商事株式会社）と契約（4月） イ)自動車保険契約条件の車両管理システムサービス、リスクマネジメントサービス（オリジナルな安全運転教材（DVD）作成）への取り組み着手（6月） ウ)完成した安全運転教材（DVD）を使用した業者説明会を開催（9月） エ)「ドライブレコーダーの映像を活用した交通安全講習」の取り組みについて中計実現会議にて報告（9月） エ)自動車保険について、2社（日通商事㈱、日本カーソリューションズ㈱）に対して見積書の提出を依頼 オ)自動車保険、火災保険とも東京海上日動火災保険㈱（代理店：日通商事株式会社）を提案・承認（3月）	◎

第3期中期計画の3か年度目として

中期事業目標⑤ 安心して暮らせる地域の実現に努めます

地域貢献推進部担当

加藤 成久

今年度予定していた福祉避難所の備蓄品の整備や「せいいい介護者のつどい」の開催、ホームページへの各施設の空き情報の掲載など概ね計画通り実施することが出来ました。また、地域の独居高齢者への自宅の清掃や昼食提供など新たな取り組みも実施しました。しかし、反面留学生の支援に関する計画などほとんど取り組むことが出来ず第4期にむけて継続もしくは更なる内容の再検討の必要性を残すものもありました。また、「友が丘総合事業計画」は仕様変更やグループホームの設置要件について再調整が必要となり、工事業者は決定したもののすぐには着工できず、2020年5月の着工と大幅にずれ込んでしまいました。しかし、完成後は地域との共生拠点となるよう第4期において準備を進めていきたいと思えます。

第3期全体の振り返りとして「地域における公益的な取組」のなかで交流行事や福祉教育などについては施設や地区が地道に取り組んできている実績があることを再認識することができました。そのうえで今後はそれらに加え、地域のなかで生きづらさを抱えたおひとりお一人に対する視点を持って第4期に繋げていきたいと思えます。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域との連携・ネットワークへ積極的に参画	<p>① 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）等既存のネットワークに積極的参加</p> <p>② 上記活動などへの施設との連携体制について検討</p>	<p>①</p> <p>ア) ほっとかへんネットについては神戸地区を中心に各区の活動に参加継続</p> <p>イ) 但馬地区においては自立支援協議会の活動に参加継続</p> <p>②</p> <p>ア) 施設との連携のあり方について検討を行うが、部会に取り込むことは難しく従来通りの活動を基本とし、施設からの協力要請等があった場合に連携するに留まる</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>行政と連携し、福祉避難所への備え等、地域住民の安全・安心な生活確保に向けた取り組みの実施</p>	<p>①福祉避難所の体制整備（緊急物資、備蓄品等の整備） ②災害時の受け入れマニュアルの作成</p>	<p>① ア)福祉避難所用備蓄品の整備にむけて各施設で整備予定備品の購入実施 ② ア)神戸市のマニュアルについて入手 イ)マニュアル作成</p>	○
<p>介護予防のための体操教室や低料金のカフェなどを出店し、地域住民に開放するスペースを提供</p>	<p>①せいい介護者つどいの実施（年6回・奇数月） ②さくらの苑を活用した介護予防のための体操実施 ③ワークセンターわかまつのカフェ新設</p>	<p>① ア)第5回実施 12名参加（5月） 「排泄用品の使用方法について」 第6回実施 13名参加（7月） 「認知症について」 第7回実施 11名参加（9月） 「栄養について」 第8回実施 15名参加（11月） 「感染症について」 第9回実施 14名参加（1月） 3B体操 3月に予定していた第10回目は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止 ② ア)上町区老人会による体操実施のため毎週火曜日に場所を提供 ③ ア)大正筋商店街の空き店舗を活用し、10月にカフェ「まっぼっくり」をオープン</p>	○
<p>友が丘での高齢者や障害者、子ども地域住民等の共生の場づくり</p>	<p>①友が丘総合事業会議の開催 ②工事着工</p>	<p>① ア)会議開催（4, 8, 11月） その他工事費見直しのため設計事務所と仕様変更等の協議を随時実施 ② ア)12月に入札による工事業者は決定したが、GHの進入路確保調整のため、着工が2020年5月に延期</p>	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
児童・障害・高齡の一体的な相談支援を担う人材を育成	①育成プログラムの運用 ②研修カリキュラムの内容検討	① ア) 育成プログラム運用 ② ア) 未着手	△
神戸聖隷総合相談センターの体制拡充	①相談員増員による体制拡充 ②現スタッフの育成研修	① ア) 4月1名、9月1名の計2名新規に採用 ② ア) OJT 育成を実施	○
地域の社会福祉と援助ニーズにたいする公益的・包括的取り組みの実施 (地域課題を踏まえた障害者の職場づくり)	①地域交流・福祉教育の実施 ②民生委員との定期的な情報共有 ③さくらの苑居宅介護支援事業所を拠点として地域住民の困り事への対応(独居高齡者の安否確認などを含む)	① ア) 但馬地区 ・神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会開催 地域住民65名参加 ・神戸聖隷感謝祭開催 ・朝来市内小・中・高校へ福祉体験学習実施 イ) 須磨区竜が台7丁目自治会よりクリーンステーションの清掃業務の依頼を受け、実施 ② ア) さくらの苑、わらしべ各運営協議会にて民生委員と情報共有(5, 7, 9, 11, 1月) 3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 イ) 板宿地区民生委員見学受け入れ(6月) ③ ア) 朝来市の依頼を受け、独居高齡者宅の清掃に職員4名派遣 イ) 8月以降給食サービスが休みとなる地域在住高齡者にさくらの苑にて昼食を提供	○
低所得者に配慮した制度の創設を検討	①介護保険における低所得者への負担軽減制度の活用	ア) 事案なし	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
成年後見制度推進窓口の設置	①成年後見制度推進窓口の運営継続（但馬） ②地域住民向けの講演会の開催（両地区）	① ア)但馬地区「よろず福祉相談所」にて運営継続 ② ア)今年度は地域住民向けの講演会は開催せず	△
地域住民のアクセス改善と憩いの場に資する施設周辺の環境整備	①用地取得 ②整備計画	① ア)当初計画のうち一部取得（6月） 残りの土地については所有者と価格について折り合わず交渉断念 ② ア)進入路の整備を優先する計画に変更し、3月工事着工	○
利用調整機関（居宅介護支援事業所・障害者地域生活支援センター等）への情報発信を強化	①各相談支援事業所等へ定期的に巡回訪問継続 ②ホームページを活用した情報発信	① ア)定期的な訪問を継続 ② ア)ホームページの各施設のページに空き情報を掲載するため、担当者に説明会実施（8月） 10月より各施設の空き情報を公表	○
ホームページを定期的に更新することをルール化する。また、機関紙については各事業所で定期的に発行	①各施設のホームページの定期更新	ア)各施設のトップページの連絡先更新について依頼と更新実施の確認 イ)空き情報掲載のための準備と担当者への説明会実施（8月） 10月より各施設の空き情報を公表	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
新聞社・ケーブルテレビ等、マスコミに積極的に情報提供	①各施設のイベント等について適宜情報発信 ②各施設のイベント関連計画の情報収集	① ア) 第 2 和生園ミラクルラボサイエンスショー (7 月)、さくらの苑と竹田小学校の交流会 (2 月) について新聞社による取材と CATV にて放映 ② ア) 年度当初に実施	○
法人広報委員会の設置	①委員会の定期開催	ア) 第 4 回広報委員会開催 (6 月)	○
ボランティアの受け入れから育成までのシステムを確立	①ボランティア育成と活動支援	ア) ボランティア受け入れマニュアルについて内容見直し	△
留学生に対し、住居などの生活面・就労面での支援	①介護福祉士養成施設 (専門学校) へのアプローチ ②介護福祉士養成施設に係る費用の一部を補助 ③アルバイト先としての就労の場の提供	①、②、③ 未着手	×

第3期中期計画の3か年度目として

中期事業目標⑥ 働きやすく誇りを感じられるカンパニー（共同体）へ

人事・労務・危機管理推進部担当

吉田 和夫

人事考課制度全体は、目標達成度評価結果の期末賞与への反映と共に定着してきたと認識します。わかりやすさが信頼度と考え、人事評価段階を「模範・優秀・良好・要努力・問題」から「優秀・優良・良好・可・要努力」に変更しました。自己評価と上司評価のズレを小さくすることにつながり、その分、評価者の負荷も軽減しました。

国の働き方改革の考え方では、正規職員の職場や職種が異動することを前提にして非正規職員との賃金格差は是認されるものであることが明確になり、そのうえでの「均衡待遇」に必要な特別休暇の整備を行い、また求められる賃金格差の説明書の作成を推進しました。

社会福祉充実計画による非正規職員の賃金改善、正規職員給与表のベースアップ、課長職手当の増額方策を具体的に検討しましたが、本年度は人員増傾向と共に、特に法人全体のご利用者数の伸び悩み傾向の出現で、充実残額以後の人件費原資に不安が伴い、見送りました。

ワークライフバランスの取組みも続けてきましたが、サービス残業の排除につながった一方で全体的な生産性向上の意思が伴わず、職制者や特定職種の者がむしろ長時間化しているくらいがあり課題です。人件費の上昇が悪いわけではありませんが、生産性を強く考える風土が必要です。有給休暇の消化も進んではいますが、職制者の低調と職員間の偏在が課題です。

危機管理面では、2019年度は新たな重大なトラブルの発生はありませんでした。一方で非常に重大な積年の事案が解決に向かっています。多くの人の手をくぐってきた事案が意味するのは、事案を施設任せにすることなく法人全体の強い当事者意識で解決への道筋を考え、そのいわば「工程表」に沿って丁寧に対応を積み重ねていくことの重要性であったと痛感します。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
公平な人事評価を実現し、処遇に反映する道をひらく	<p>①評価項目の検証と改善</p> <p>②目標達成度を期末手当へ反映するルール作り</p> <p>③処遇改善手当の適正な支給方法の検討</p>	<p>①</p> <p>ア) 共通要素評価の評価項目を改良 (4月)</p> <p>イ) 目標達成度評価「到達点」の明記 (4月)</p> <p>ウ) 評価ランクを「模範・優秀・良好・要努力・問題」から「優秀・優良・良好・可・要努力」に変更運用(4月)</p> <p>②</p> <p>ア) 目標達成度採点枠を「優劣明瞭型」へ改訂「50~45~37.5~32.5~27.5~22.5~15~10」から「50~45~37.5~22.5~15~10」へ (10月)</p> <p>イ) 人事考課規程改訂 (①のウ及び②のア)</p> <p>③</p> <p>ア) 特定処遇改善加算 (10月以降) の配分方法を決定 (7月)</p> <p>イ) 経験及び技能に加え夜勤業務負担度を考慮</p>	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
ひとり一人の職員が目標をもって働く仕組みを確立する	<p>①達成度評価結果の分析による評価基準の検討</p> <p>②評価者研修実施方法の検討</p>	<p>①</p> <p>ア) 部会による目標設定チェック会議 (5月)</p> <p>②</p> <p>ア) 地区別評価審議会実施 (1月)</p> <p>イ) 目標設定評価検討会 (5月)</p>	○
臨時職員及びパート職員の賃金単価の改善 (社会福祉充実計画No.5)	<p>①現状評価・分析、新制度検討⇒2020年度制度化の諸手続き</p> <p>②処遇改善加算の活用</p>	<p>①</p> <p>ア) 非正規職員の「正規化」人件費試算 (9月)</p> <p>イ) 増加人件費「1億3千万円」→困難と判断</p> <p>ウ) 特殊な職種など個別対応検討方針</p> <p>②</p> <p>ア) 従来処遇改善手当の対象外職員支給額を時給・日給単価に組込むことで活用する試案を構築 (2月)</p> <p>イ) 格差是正は別の方法が必要</p>	△
正規職員に給与表のベースアップを実施する (社会福祉充実計画No.6)	<p>①現状評価・分析、新制度検討⇒2020年度制度化の諸手続き</p> <p>②処遇改善加算の活用</p>	<p>①</p> <p>ア) 社会保険労務士指導 (4・6・8・12月)</p> <p>イ) 人件費率水準の見極め (3月)</p> <p>ウ) 2020年度人件費率急上昇で検討中断</p> <p>②</p> <p>ア) 従来処遇改善手当の対象外職員支給分の能力給アップ試案を構築 (2月)</p>	△
課長職手当の創設 (社会福祉充実計画No.7)	<p>①制度設計⇒制度周知</p>	<p>①</p> <p>ア) 月額2万円アップ案の評価等 (4・6・8・12月)</p> <p>イ) 将来人件費圧迫要因となるため決定できず</p>	△
時間外労働の改善、有給休暇利用促進に向けて取り組む	<p>①サービス残業ゼロへの取り組み</p> <p>②各事業所の実情にあったWLBの取組支援</p> <p>③職場環境改善の手引きの作成</p>	<p>①</p> <p>ア) 自発居残り基準設定 (勤怠管理システム)</p> <p>②</p> <p>ア) 長時間残業職員へメッセージ面談 (9月～)</p> <p>イ) 36協定特別条項導入 (3月～)</p> <p>③</p> <p>ア) 厚労省発行「業務改善の手引」が秀逸であったため各施設と共有。独自には作成せず。</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
時間外労働の改善、有給休暇利用促進に向けて取り組む	④時間外労働長時間職員の実態管理 ⑤有給休暇取得実績分析 ⑥2019 年度 65%取得を目指す取組み	④ ｱ) 月次実績分析実施 (通年) ｲ) 内部監査で実態調査(事後手続き横行) ⑤ ｱ) 月次実績分析実施 (通年) ⑥ ｱ) 「5 日間の時季指定制度」の活用推進 ｲ) 内部監査結果に基づく個別施設指導 ｳ) 2019 年度有休取得率 67.68%	○
支援記録等の IT システムによる効率化による生産性向上	①勤怠管理システムの導入後の給与事務省力化効果検証	① ｱ) 2019 年 8 月給与処理から勤怠管理システム情報との連携を開始。93 件の問い合わせに対応済み。勤怠管理システム移行の障害となっている事案解消に向け、情報収集と課題の整理・対応策の検討を継続	○
問題発生の感知機能の強化と常任理事会の対応能力の強化を図る	①施設の未解決トラブルを本部側から定時フォローアップ ②常任理事会、理事会でのトラブル改善方策審議、指導の仕組み ③施設第三者委員との連携	① ｱ) 但馬地区 1 件 (相談支援事業への苦情) ｲ) 神戸地区 1 件 (前利用法人での虐待通報) ② ｱ) 神戸地区で運営統括担当理事を置いて家族会の対法人不信を融和・軽減 (通年) ③ ｱ) 支援方法の希望が受け入れられず虐待通報に発展した件、第三者委員による利用者・家族・職員へのアンケート調査と家族会説明に協力 (~7 月)	○
コンプライアンス対応のデータ化を行う	①行政からの調査、弁護士への相談、保険請求等の場面に使える記録方法を作り上げる ②トラブル情報に関わる内部監査の実施	① ｱ) 「事象」「経過」「原因」「対処」「総括」「知識化」の観点でデータベース化 ② ｱ) 内部監査で継続中のトラブル事案の有無を聴き取り	○

2. 主な式典

(1) 辞令交付式

2019年4月1日(月)10:00から舞子ビラ神戸・六甲の間にて、新採用職員12名(うち大卒3名、短大卒1名、高校卒3名、登用者5名)、昇任者14名(うち施設長5名(男4女1)、課長4名(男3女1)、主任3名(男1女2)、副主任6名(男3女3)、異動10名(部長1名、施設長5名、課長4名))に辞令を交付しました。

開会礼拝では、和田山地の塩伝道所小西直人牧師よりメッセージをいただきました。

(2) 創業44年記念式典

2019年6月21日(金)10:00から幸徳殿(朝来市和田山町)にて記念式典を開催することができました。記念礼拝では和田山地の塩伝道所小西直人牧師から「感謝と賛美の信仰」との題でメッセージをいただき、永眠者追悼式では2018年4月2日から2019年4月1日までに召天された42名に哀悼の意を表しました。

永年勤続表彰では、今年度より準職員の方も対象とし、勤続10年55名、勤続20年15名、勤続30年1名、勤続40年1名と多くの職員に賞状と記念品を授与しました。

3. 主要会議

(1) 評議員会

ア) 第128回定時評議員会(2019年6月15日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③次期(2019年6月～2021年6月)役員を選出の件、④役員報酬規程改定の承認の件、⑤地域生活支援事業を定款に掲載することによる定款一部変更の件、報告①2018年度事業報告の件、②2018年度計算関係書類及び財産目録の報告の件、③2018年度計算関係書類に係る独立監査人の監査報告書の報告の件、④2018年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の報告の件、⑤2018年度期中監事監査の記録の件、⑥2019年度会計監査人による監査計画等の件、⑦2019年度役員賠償責任保険加入の件、⑧2018年度第三者評価受審報告

(2) 理事会

ア) 第200回理事会(2019年5月31日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③定時評議員会に報告する2018年度事業報告(案)の承認の件、④定時評議員会で承認を求める2018年度計算関係書類及び財産目録の承認の件、⑤定時評議員会に報告する2018年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の承認の件、⑥定時評議員会で承認を求める次期(2019年6月～2021年6月)役員を選出及び次期監事選任に関する監事同意の件、⑦定時評議員会で承認を求める役員報酬規程改定の件、⑧定時評議員会で承認を求める2019年度会計監査人選任と監事同意の件、⑨定時評議員会で承認を求める社会福祉充実計画の件、⑩定時評議員会で承認を求める地域生活支援事業を定款に掲載することによる定款一部変更の件、⑪定時評議員会の招集事項の決定の件、⑫2019年度施設整備計画の件【a. 恵生園(外壁改修・消防設備・外構工事:入札参加資格条件) b. 真生園(浴室改修工事:入札参加資格条件) c. 和生園(製袋機作業場改修工事:入札参加資格条件)】、⑬ワークセンターわかまつによる新長田南地区でのカフェ出店の件(実施設計、見積り合せ業者3社選定)、報告①財務辞令発令について、②2018年度第三者評価受審報告、③2018年度虐待防止取組報告、④平成30年度書面監査結果について(神戸愛生園、神戸明生園)、⑤寄付金受入れ報告

イ) 第201回理事会(2019年6月15日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③理事長の選任の件、④業務執行理事の選任の件、⑤2019年度真生園浴室改修工事の入札参加業者選定及び入札予定価格決定の件、⑥2019年度真生園特殊浴槽整備に係る予定価格決定の件（a. シャワー式特殊浴槽導入工事 b. 「座位式特殊浴槽」及び「ストレッチャー式特殊浴槽」更新工事）、⑦2019年度施設整備計画（グループホーム南落合）改修工事業者決定の件、⑧北但広域療育センター実地指導監査結果及び是正報告の件、⑨海外出張旅費規程改訂の件、⑩社会福祉充実計画No.20による用地買収実施の件、⑪地域大学との包括連携に関する協定締結の件

ウ) 第202回理事会（2019年7月12日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2019年度真生園浴室改修工事等入札結果の件（1. 2019年度真生園浴室改修工事入札結果の件、2. 真生園シャワー式特殊浴槽入札結果の件、3. 真生園「座位式特殊浴槽」及び「ストレッチャー式特殊浴槽」入札結果の件、④グループホーム南落合2019年度事業計画・予算について、⑤ワークセンターわかまつによる新長田南地区でのカフェ出店の件（見積り合せ業者決定について）、⑥社会福祉施設等施設整備費補助金内示に伴う事前着手承認申請書提出と工事着手について、⑦2019年度資金運用の件、報告①2019年度第1四半期事業推進報告

エ) 第203回理事会（2019年8月6日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③恵生園外壁改修・消防設備・外構工事の入札参加業者選定及び予定価格決定の件、④2019年度和生園製袋作業場改修工事の指名競争入札業者と予定価格決定の件、⑤神戸友生園定員変更の件、⑥社会福祉充実計画 No. 8による神戸地区グループホーム増設（就労障害者・軽度者の自立生活のための）に供する民間アパート一括借上げに関する件、⑦社会福祉充実計画 No. 20によるさくらの苑正面進入路設置工事の実施の件、⑧2019年度第一次補正予算案の件、報告①神戸明生園新館大規模修繕工事の施設整備補助金内示の件について

オ) 第204回理事会（2019年9月4日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③準職員（臨時職員・パート職員）給与一覧表改訂の件、④神戸光生園改修工事にかかる指名競争入札参加業者ならびに予定価格決定の件、⑤令和元年度地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金内示による高齢者グループホームわらしべ空調設備改修工事实施の件、⑤-2 高齢者グループホームわらしべ空調設備改修工事の入札参加資格条件決定の件、⑥さくらの苑正面進入路設置工事にかかる指名競争入札参加業者の件【社会福祉充実計画 No. 20】、⑦平生園・わらしべの防犯設備整備に係る補助金申請の件、⑧グループホーム「アリエッタ北須磨」の開設について【社会福祉充実計画 No. 8】、⑨勤務表作成ソフト整備の件、⑩平生園の階段上屋根防水修繕工事の件、⑪第二次補正予算について、⑫但馬地区新規事業「めぐみ」（障害者グループホーム・放課後等児童デイサービス）の工期予定について【社会福祉充実計画 No. 9、No. 11】、⑬神戸地区グループホーム増設に供する民間アパート一括借上げに関する契約書の件、報告①2019年度 恵生園改修工事の入札結果の件、報告②2019年度 和生園製袋作業場改修工事入札結果について

カ) 第205回理事会（2019年10月17日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③高齢者グループホームわらしべ空調設備改修工事に係る入札に関する公告内容変更及び財源の件、④平生園・わらしべの防犯設備整備に係る工事業者決定の件、⑤第三次補正予算の件、⑥グループホームせいれいやまで定員変更の件、⑦友が丘総合事業整備工事に係る公告内容の件【社会福祉充実計画 No. 14】、

- ⑧グループホームアリエッタ北須磨の消防設備改修工事の件【社会福祉充実計画 No. 8】、報告①2019年度神戸光生園改修工事入札結果の件、報告②第2四半期事業報告
- キ) 第206回理事会（2019年11月19日開催）
- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③高齢者グループホームわらしべ空調設備改修工事にかかる入札参加業者承認ならびに予定価格決定の件、④友が丘総合事業所増築工事にかかる入札参加業者承認ならびに予定価格決定の件、⑤放課後等デイサービス・共同生活援助建築工事の公告内容について、⑥人事考課規程一部改訂の件、報告①2019年度上半期事業報告、報告②2019年度中間決算報告
- ク) 第207回理事会（2019年12月19日開催）
- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③高齢者グループホームわらしべ空調設備改修工事にかかる一般競争入札結果並びに工事請負業者契約締結の件、④第4次補正予算の件、⑤1月に65歳に到達する職員である理事の、職員の退職について、報告①友が丘総合事業所増築工事にかかる一般競争入札結果並びに工事請負業者契約締結の件、報告②評議員・役員懇親会の開催について
- コ) 第208回理事会（2020年1月18日開催）
- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2019年度恵生園改修工事変更契約締結の件、④さくらの苑正面進入路整備工事の詳細と入札予定価額の承認の件、⑤1. 多機能型施設めぐみ新築工事に係る入札参加業者選定ならびに入札予定価格決定の件、2. 第5号に係る入札参加業者に対する工事概要等の説明事項の件、⑥神戸市実地指導監査報告（神戸明生園、神戸聖生園、神戸愛生園、神戸友生園）、⑦平生園指定介護保険サービス事業所に対する兵庫県実地指導による是正・改善報告の件、⑧神戸聖生園の多機能型施設から生活介護単独事業への転換の件、⑨恵生園スプリンクラー消火水槽入替工事に関する補助金申請の件、⑩神戸明生園新館大規模修繕工事の入札参加資格の件について、報告①1. さくらの苑介護保険サービス事業所に対する兵庫県実地指導による報告の件、2. 恵生園指定障害福祉サービス事業所に対する兵庫県実地指導による報告の件、太陽有限責任監査法人・監事・理事情報交換
- サ) 第209回理事会（2020年2月3日開催）
- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2019年度神戸明生園新館大規模修繕工事入札参加業者及び予定価格決定の件、④多機能型施設めぐみ新築工事に係る入札予定価格変更の件
- シ) 第210回理事会（2020年2月20日開催）
- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③多機能型施設めぐみ新築工事に係る入札結果並びに工事請負業者契約の件、④さくらの苑正面進入路整備工事入札結果ならびに工事請負業者契約の件、⑤兵庫県によるグループホームもみの木・かしの木実地指導指摘事項と改善報告の件
- セ) 第211回理事会（2020年3月23日開催）
- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2019年度第5次補正予算案の件、④就業規則の一部改訂（特別休暇）の件、⑤2020年度施設長人事案の件、⑥4月に60歳に到達する施設長の嘱託施設長契約締結について、⑦神戸聖隷福祉事業団 第4期中期計画（2020～2022年度）の承認の件、⑧2020年度事業計画案の件、⑨2020年度施設整備計画の件 社会福祉充実計画 2020年度事業の件、⑩多機能型施設めぐみ新築工事に係る会計区分（準備室サービス区分）の設置の件、⑪2020年度予算案の件、⑫恵生園スプリンクラー消火水

槽補助更新工事に係る業者選定の件、⑬2019年度神戸明生園新館大規模修繕工事入札結果並びに工事請負業者契約締結の件、⑭2020年度役員賠償責任保険加入の件、⑮友が丘総合事業所増築工事にかかる追加工事並びに工事請負業者との契約締結の件、⑯神戸市によるすま障害者地域生活支援センター実地指導指摘事項と改善報告の件、報告①2019年度期中監事監査報告、報告②2019年度第4回理事の業務執行状況報告、報告③神戸市令和元年度指導監査結果報告について、報告④2020年度主要会議開催予定

(3) 第3期中期計画実現会議

ア) 第9回実現会議 (2019年6月25日開催)

①各施設推進状況報告(和生園・平生園・神戸光生園・せいれいやさかだい) ②推進部会推進状況報告(6部会) ③第4期中期計画策定方針について

イ) 第10回実現会議 (2019年9月26日開催)

①施設推進状況報告(但馬2施設、神戸3施設)、②各推進部報告、③戦略課題ヒアリングについて

ウ) 第11回実現会議 (2019年12月26日開催)

①施設推進状況報告(但馬2施設、神戸2施設)、②各推進部報告、③第4期の戦略課題・実行計画発表(全推進部・全施設)

エ) 第12回実現会議 (2020年3月26日開催予定)

新型コロナウイルス感染拡大の為中止

4. 成年後見制度活用推進

(1) 活用推進委員会活動状況

ア) みまもり通信第20号発行(8月)、第21号発行(1月)

イ) 研修会開催

今年度も、基礎研修・実務研修との枠組みにとらわれず、但馬地区、神戸地区で各1回ずつ研修会を実施予定していましたが、但馬地区については新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、神戸地区のみの開催となりました。神戸地区では、これまでと趣向を変えて、「ワールドカフェ」という手法を用いた参加型の研修としました。参加者は異なる職種や経験年数の職員が集まり、それぞれの立場から「成年後見制度」に対する意見や疑問点を出してもらいました。法人内の成年後見制度の認知度の再確認ができたとともに、今後の活用推進委員会の活動を考える上での良い参考となりました。

① 神戸地区「成年後見制度研修会 ワールドカフェで話し合おう」

2019年12月3日(火) 場所：神戸聖生園 食堂

(参加者) 神戸聖隷福祉事業団職員 42名

② 但馬地区「但馬地区成年後見制度基礎研修」・・新型コロナウイルス感染により中止
(計画内容)

2020年3月19日(木) 場所：但馬総合事務所

講師：聖泉社会福祉士事務所 社会福祉士 高橋理恵氏

研修内容：

- ・実際の事例を通して「福祉の視点から実践する、成年後見制度の利用」を学ぶ
- ・グループワークを通じ、権利擁護(後見制度)に係る意識を高めていく

対象者：各施設より2~3名の出席(職種、経験年数は不問)、ご家族、朝来市内・養父市内の相談支援専門員、ケアマネージャー

(2) 成年後見制度活用推進状況

2019年度 神戸聖隷福祉事業団 成年後見制度推進活動実績調査

【神戸地区】

調査実施日 2020年3月

No.	事業所名	担当者	2019年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況）						成年後見の必要性（職員見立て）		
			利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2020年3月31日の状況					2019年4月～2020年3月に後見等が終了した人数	制度活用の必要性がある方	特に緊急性を要する人	
									利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見				合計
1	神戸聖生園（GH含む）	岩城 州吾	68	4	0	0	0	4	64	4	0	0	0	4	0	1	1
2	せいいいやさかだい	北場 恒彦	40	5	1	0	0	6	38	5	1	0	0	6	0	5	4
3	神戸愛生園	山崎 浩司	50	16	0	0	4	20	48	16	2	0	4	22	1	11	1
4	神戸友生園	津々木謙一	43	1	0	0	0	1	44	1	0	0	0	1	0	4	1
5	神戸光生園（GH含む）	大川 博啓	101	8	1	0	0	9	100	9	1	0	0	10	0	18	8
6	神戸明生園（GH含む）	濱田 聖士	84	22	0	0	0	22	81	23	0	0	0	23	1	9	2
7	ワークセンターひょうご	岩本 康則	17	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	1	0
8	自立センターひょうご	佐原 義人	65	4	1	0	0	6	65	4	1	0	0	6	0	11	3
9	多機能型デイセンターひょうご	宮本裕佳子	88	3	2	1	0	6	88	4	2	1	0	7	0	11	3
	インクルージョンひょうご	猪原 明美	21	1	0	0	0	0	21	2	0	0	0	2	0	1	0
10	ワークセンターわかまつ	服部まゆみ	35	1	0	1	0		37	2	0	1	0	3	0	6	2
11	すま障害者地域生活支援センター	三木 卓也	871	14	7	1	1	23	602	14	7	1	1	23	1	15	3
12	神戸聖隷総合相談センター	三木 卓也	274	4	2	1	0	7	282	4	2	1	0	7	0	5	2
13	ひょうご障害者地域生活支援センター	桜間 悦子	767	2	4	5	0	11	909	3	4	5	0	12	0	2	0

※支援センターは相談内容から必要と思われる数を挙げる

【但馬地区】

No.	事業所名	担当者	2019年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況）						成年後見の必要性（職員見立て）		
			利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2020年3月31日の状況					2019年4月～2020年3月に後見等が終了した人数	制度活用の必要性がある方	特に緊急性を要する人	
									利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見				合計
13	恵生園	中島 竜太	62	9	5	0	3	17	60	7	7	0	3	17	0	11	2
14	真生園	嵯峨山泰弘	60	7	0	0	0	7	60	7	0	0	0	7	1	3	1
15	和生園（GH含む）	山根 由夫	49	0	0	1	0	1	48	0	1	0	1	2	2	9	2
16	平生園	奥田 勝	59	3	0	0	0	3	60	3	0	0	0	3	0	1	0
17	さくらの苑	小山 哲也	184	1	0	1	0	2	204	0	0	0	0	0	2	0	0
18	グループホームわらしべ	近藤 咲美	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0
19	北但広域療育センター	稲津 慎也	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【両地区合計】		2,968	105	23	11	8	145	2,851	108	28	9	9	155	8	124	35
---------	--	-------	-----	----	----	---	-----	-------	-----	----	---	---	-----	---	-----	----

制度活用の必要性のある方とは

- ①ご本人の判断能力が不十分で下記の状況にある方
 - ・擁護者（親、兄弟、子等）或いは周囲から権利侵害を受けている
 - ・親の判断能力が低下している、或いは高齢・病気がち等で且つ兄弟・姉妹がいない或いは疎遠
- ②ご本人が必要とお考えの方

緊急性を要するとは

直ちに制度活用しなければ権利侵害に至る可能性が高い方

5. 出来た事案

2019年度に出来た法人本部が危機管理上関与すべき事柄は以下の通りでした。

- (1) 虐待が疑われる支援行為事案：なし
- (2) 利用者事故事案：なし
- (3) 利用者間トラブル：なし
- (4) 支援体制への苦情継続：1件

ア) 神戸地区事案：人事異動を発端とした施設・職員批判が昂じて職員が極度に疲弊していた事案（前年度報告）への対応をめぐる家族会からの法人の対処に対する不信感問題

① 第三者委員による「虐待調査」結果の家族会への報告に関する問題

さらなる職員のメンタル不調を予防するために、家族の意向を受けて2019年1月から当事業所の前に利用されていた法人内他施設で受け入れることにしたが、施設第三者委員がその意向確認を行った際に、「虐待がよくある」との発言が出たため、第三者委員による実態調査が全利用者・ご家族、職員に対して実施された。家族会ではこの虐待通報に不快感を示し、あわせて施設長のメンタルダウンの発生により諸々の法人対応への不信感が増高したため、理事長、常務理事、運営統括理事が5月家族会に出席して説明に努めた。

6月に家族会から、当該問題とより広範な法人運営事項に関して2度にわたり「質問・意見・要望」が提出されたので、福祉サービス現場での個々の職員の苦労に対して経営者の立場から寄り添って適切な運営に引き続き努めることをご理解願いたいことと共に、神戸聖隷らしい法人経営の独自性についても了解願いたいことをお伝えした。

その後、家族会との連絡を継続することにより、一定の理解を得たものとして終息した。

② 神戸市の事業運営に関する指導

上記の虐待通報に基づいた神戸市による調査が2019年1月29日に実施され、その結果の通知が同年8月14日付で届いた。指導内容は、当該施設での支援上の合意形成過程に着目して、「事業所は利用者の家族に対し個別支援計画案作成に必要な相談援助ができていなかったと思われる」と結論付けた。

これを受けて、当該施設では「支援計画策定の流れ」を改訂して、モニタリングの役割をしっかりイメージできるものにした。改訂版について2019年10月の職員会議、同3日の家族会で説明し、正しい活用をスタートした。

③ 関係職員の労災申請

職員本人が事業所を通じて3月に行った労災申請については、労働基準監督署の指示に基づいて7月12日に報告書（精神障害事案）を作成、提出した。書面上の総括的な事業主意見の記載を求められる個所には、「生身」で行われる福祉サービスのトラブルの重大化を日々に抑止すべく活動する管理者の重責を共有、対処すべき理事者の責務における不十分さが当該問題を複雑化させ、特定利用者のご利用環境の改善だけで終わらない、サービス提供側（管理者）の心を支えきれなかった痛恨を記させていただいた。

2020年3月17日、神戸西労働基準監督署で、申請に関係する者として吉田常務理事が出頭して監督官の聴聞を受けた。その前、2月19日、2月25日にもそれぞれ当時の課長と主任が聴聞（現場の状況確認）を受けている。

- (5) パワハラ通報事案：なし

- (6) 苦情事案1件

① 但馬事案：相談支援事業の支援範囲について

当該申し出ご利用者は自身の不自由さを相談支援従事者がどれほど分かってくれて

いるのかに強い関心があり、専門的な訓練なしに事業所を管理するようなことは最も不適切なことと訴えられる方。今回は、相談支援従事者が未経験の通所事業所を紹介した際に自身で訪問するよう促したことに、「自分は車で行けるが、自分で行くことができない人にも『自分で行ってください』と言うのか」とのご質問が法人本部に届いた。

(7) 利用者金銭にかかわる事件・事案：なし

6. 地域貢献・交流

(1) 社会福祉充実計画地域協議会

(但馬地区) 2019年5月30日(木) さくらの苑 参加者 11名

(神戸地区) 2019年6月11日(火) 本部会議室 参加者 10名

(2) 福祉体験学習(点字指導・手話指導等)・ボランティア養成講座実践

・点字講座(恵生園)

・認知症サポーター養成講座(平生園・わらしべ・さくらの苑)

(3) オープン療育(エスポワールこじか)

(4) 「第7回神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会」(但馬地区)

・2019年5月28日(火)、筒江農村広場、参加者84名(うち地域の方65名)

(5) 老人クラブ・地域の学校等との交流会

・竹田地区上町ミニデイとの交流会、竹田小学校との交流会(さくらの苑)

・竹田こども園との交流会(平生園)

・東河小学校3年生との交流会(わらしべ)

・明親小学校との交流イベント開催 2回(ワークセンターひょうご)

・夏祭り開催。近隣児童館より児童・家族・関係者を招待(せいれいやさかだい)

・長田小学校体験受け入れ(ワークセンターわかまつ)

・独居高齢者への支援：自宅の片づけ支援、昼食提供(さくらの苑)

(6) 自立支援協議会・ほっとかへんネット等への参加

・高齢者合同連絡会(平生園・さくらの苑)

・南但馬自立支援協議会(恵生園・真生園・和生園・エスポワールこじか)

・豊岡市障害者自立支援協議会(北但広域療育センター)

・新温泉町障害者自立支援協議会(北但広域療育センター)

・香美町障害者自立支援協議会(北但広域療育センター・エスポワールこじか)

・ほっとかへんネット豊岡(北但広域療育センター)

・兵庫区、長田区、須磨区、北区、垂水区各自立支援協議会・各部会(神戸地区各施設)

・ほっとかへんネット兵庫、ほっとかへんネット長田、ほっとかへんネット須磨、ほっとかへんネットたるみの各活動に参加(神戸地区各施設)

(7) 自治会参加・地域イベント開催・地域イベントへの協賛出店、参加

ア) 恵生園(あったかプラザ)：オセロ・かるた大会・ミニ縁日・お抹茶教室・折り紙教室
手話教室・点字教室・クリスマスコンサート、あったか定食 地域清掃

イ) 和生園：竹田駅周辺ゴミ拾い・施設周辺地域草刈り・地区自治会、管理組合会議参加
資源回収・秋葉台夏祭り参加

ウ) 神戸聖生園：北須磨団地自治会館「寿喫茶」、太極拳教室参加

エ) 神戸愛生園：花火大会・北須磨団地A棟協力夜間想定避難訓練

オ) 神戸友生園：あどあど市

- カ) 神戸光生園：地域公園管理会と合同公園清掃参加・ミニバザー・神戸学院大オープンカレッジ参加・明舞まちづくり委員会参加
- キ) 神戸明生園：しあわせの村祭り出店・村のお店（カウンターショップ）：月1回
- ク) ケアホームきたすま：自治会清掃に参加
- ケ) ワークセンターひょうご：神戸学院大オープンカレッジ参加
- コ) ひょうごデイサービスセンター：センター前清掃
- サ) 自立センターひょうご：兵庫駅前清掃（月1回）・第4・5回よつば寄席（地域落語会）
- シ) せいれいやさかだい：サロン活動（月1回）・公園除草
- ス) ワークセンターわかまつ：大正筋商店街縁日参加・クリスチャンフェスティバル参加
ワンコイン商店街参加・一七市拡大版参加・地域清掃

○但馬地区感謝祭（但馬地区施設）

○芋煮会（但馬地区施設）

○せいれい介護者のつどい（恵生園・真生園・平生園・わらしべ・さくらの苑）6回

○北須磨団地自治会ふる里祭り参加（神戸聖生園・神戸友生園・せいれいやさかだい）

(8) 地域住民の作品展示スペース提供

○あったかプラザ

① さるぼぼ展：2019. 4. 2～5. 12・関朝子さん

② 絵手紙・空箱展：2019. 5. 21～6. 30・松浦恵美子さん

③ 絵画展：2019. 6. 30～7. 31・船田實さん

④ 作品展：2019. 8. 6～9. 1・恵生園利用者さん

⑤ 書道展：2019. 9. 5～10. 22・風信書道会さん

⑥ 作品展「山野草」：2019. 10. 22～11. 1

⑦ 作品展「ペーパーフラワー」：2019. 11. 1～

7. 広報他

(1) 洗足発行

ア) 第22号（2019年8月16日）

①新規採用職員紹介、②新任施設長・事務長紹介、③学校法人玉田学園神戸常盤大学と包括連携協定の締結、④常務理事エッセイ、⑤事業報告、⑥決算報告、⑦尾堂牧師メッセージ「何事にも時があり 天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」

イ) 第23号（2019年12月6日）

①避難所としての歴史資料館、②カフェ「まつぼっくり」がオープン、③グループホーム南落合 オープン、④「グループホームせいれいやまて」を開設、⑤第3回感謝祭、⑥常務理事エッセイ、⑦社会福祉充実計画について、⑧尾堂牧師メッセージ「光は暗闇の中に輝いている。」

ウ) 第24号（2020年3月6日）

①理事長あいさつ「先人に倣う」、②神戸愛生園EPA 事業開始、③第3期中期計画の報告(全6部)、④常務理事エッセイ、⑤「創業50年に向けた第4期中計を策定」、⑥社会福祉充実計画が進行中②、⑦尾堂牧師メッセージ「確かに未来はある。」

(2) フェイスブックによる施設情報発信

「私のモットー」を中心に、2019年度に114回の投稿を実施。登録者数429人。

以上

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸聖隷歴史資料館
 管理者 吉田 和夫

第3期中期計画の最終年度でしたが、計画していたことは概ね進めました。今年度、広報活動に課題を残したものの、計画外の地域の避難所に関することを進めることができました。

広報活動では、法人利用者の活動を発信することを目的に、上半期に真生園利用者の作品展示（絵画）を行い、近隣住民・家族会・職員等多くの方々ที่作品を鑑賞されました。下半期には神戸明生園利用者の作品展示を予定しておりましたが、実施には至りませんでした。地域住民のギャラリーの利用については、リピーターが多くなってきており、4つの個人・団体に作品展示をして頂きました。他法人施設の利用者が観覧されたり、展示者による「作品を語ろう会」なども開催されました。一方で展示物の破損の問題が発生した為、今後への課題です。理念部会主催で例年実施しておりますキッズクリスマス会は、毎回参加して下さる方々もあり、歴史資料館の認知度向上に繋がっています。

学習機会の提供では、神戸地区施設に学習の場を提供することが多くなってきております。神戸友生園・神戸光生園の日帰り旅行にて利用者・職員が資料館を訪問され、また、せいれいやさかだい職員研修では越智顧問による法人の歴史勉強会を開催されました。又、但馬地区職員を対象に小西牧師によるキリスト教基礎研修が計3回開催されました。

地域社会との連携では、災害時における一次避難所として民間施設を利用することについて、朝来市・竹田中町区・法人の三者にて協議を進めた結果、神戸聖隷歴史資料館を竹田中町区の災害時における「指定緊急避難場所」とする三者協定を2019年9月に締結しました。今年度の朝来市一斉避難訓練では竹田中町区が民間施設を利用する唯一のケースとして訓練が実施されました。竹田中町区とは資料館使用同意に関する協定も締結し、入退館マニュアルを作成して、鍵類の貸出を行っております。主に使用する会議室にはテレビ設備を整備し、災害情報を知ることができるようにするなど避難所としての環境を整えました。

但馬よろず福祉相談所については、在宅障害者のリフォーム相談や神戸地区施設の見学の相談、施設利用者家族からの苦情の対応も行うなど、地道ですが、意味ある窓口にしていけます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットを設置、広告を掲示するなどの宣伝を行う	ア) 歴史資料館の展示に関する広告をあったかプラザに掲示 イ) あったかプラザの展示に関する広告を歴史資料館に掲示	○
	①両施設の担当者が情報を共有できる仕組みを作る	ア) あったかプラザの展示予定を確認	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
法人主催行事の開催	①行事の開催・協力	ア)第3回キッズクリスマス会を開催(12月)参加者25名	○
ギャラリーの利用促進	①関係機関に広告を掲示する ②神戸明生園作品展を開催	① ア)竹田駅等に広告を掲示 イ)4つの個人・団体がギャラリーにて作品展示 ウ)展示者による「作品を語ろう会」を開催 ② ア)真生園利用者の作品展(絵画)を開催(4~5月)。神戸明生園利用者の作品展は未実施	○
インターネットを活用した広報活動	①ホームページを細かく更新し、タイムラグなしに情報を発信する	ア)ギャラリーの展示案内を発信	○
試供(物販)の充実	①試食・試供品の種類の増加	ア)試食・試供品の種類は増えていないが、新しい商品の追加にて売上増となる。	△
映像コーナーに新しい映像を追加	①施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加 ②職安作成の法人(但馬地区)紹介映像を追加	① ア)未実施 ② ア)職安に確認中	×
資料の一元的管理	①資料を法人本部より歴史資料館に移管	ア)本部事務所新設に伴い、本部資料を旧さくらの苑に移動(3月~)	○
法人の歴史勉強会の開催	①歴史勉強会の開催の場を提供	ア)神戸友生園・神戸光生園の日帰り旅行にて利用者・職員が歴史資料館を観覧(6月・12月) イ)せいれいやさかだいで職員研修にて越智顧問による歴史勉強会を開催(7月) ウ)小西牧師による但馬地区キリスト教基礎研修を計3回開催(9~11月)	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
「但馬よろず福祉相談所」の利用促進	①相談体制（事業所間連携・相談バックアップ等）の構築 ②地域住民への広報活動の実施	① ア)施設利用者家族の苦情等に対応 イ)在宅障害者のリフォーム相談 ウ)神戸地区施設の見学の相談 ② ア)未実施	△

2. 出来した事案
特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 平生園
 施設長 太田 敦子

第3期中期計画のビジョン「地域拠点として在宅介護サービスに積極的に取り組む」に2019年度も積極的に取り組み、認知症サポーター養成講座の開講、竹田地区の他施設との共同で在宅介護者を対象とした「せいれい介護者のつどい」など地域へ向けて活動を継続。施設内においては、地域からの訪問としてボランティアの受け入れを積極的に行いました。下半期後半は感染症の関係でお断りする状況もありましたが、定期的な来園が可能となり笑顔あふれる時間の提供ができました。

利用状況については、上半期は長期入院と毎月数名の退所の状況が続きましたが、下半期は落ち着き例年通りとなっています。しかし空床を活用しての短期利用が少なかったこと、新規入居者受入れに日数を要したことは今後の課題となっています。

人材育成として、介護福祉士や社会福祉主事の資格取得のため、法人の研修費用補助を受け5名の資格取得が実現しました。又、QOLの部分では、ノーリフティングケアとして年間を通して外部、内部の研修を継続し、ご利用者の安心安全と職員の介護負担軽減に結びました。

設備面では、雨漏りによる屋上防水の部分修繕や朝来市からの補助金にて110番直結通報装置、防犯用センサーライトを設置完了し、より安心な施設環境を整えることができました。平生園は2021年に30年を迎えます。給排水等の不具合や施設内の個室化、特殊浴槽の更新や浴室改修など老朽化した施設の改修・修繕のための委員会を立ち上げ、再来年度の改修に向けて取り組み始めました。より良い環境で生活いただけるよう次年度についても継続いたします。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
ボランティア受け入れから育成までのシステムを確立	①新規ボランティアの開拓 ②ボランティア育成と活動支援	① ア) オカリナ演奏 (7月) イ) すずらん一座来園 (8・12月) ウ) 津軽三味線演奏 (8月) ② ア) 朝来市高齢者施設合同連絡会にて、「ボランティア感謝の集い」を計画 (5・6・7・8月会議出席)・開催 (11月) イ) 民生委員清掃ボランティア (7月) 自治協清掃ボランティア (9月) 家族会清掃ボランティア (10月) ウ) 夏祭り行事に和田山中学校・和田山高校・生野高校各2名の受入れ (8月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域とのつながりの充実	①地域行事に利用者、職員が積極的参加	ア) 藤公園外出 (5月) イ) 神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会参加 (5月) ウ) 竹田秋祭り見学 (9月) エ) 竹田芋煮会参加 (10月)	○
	①行事内容の検討・実施	ア) 行事を計画し実施 花見会 (4月)・スイーツバイキング (7月)・夏祭り (8月)・運動会 (10月) クリスマス祝会 (12月)・お正月 (1月) 節分、寿司バイキング (2月) 雛祭り (3月) の実施 イ) 竹田こども園交流会実施 (11月) ウ) 赤ちゃん先生ボランティア来園 (11月)	◎
地域包括ケアシステムを学び知識を身につける	①地域包括ケアシステムの研修受講 ②知識を活かした計画の立案 ③市内各医療機関、福祉事業サービス事業所、行政と連携し情報共有及び支援の実施	① ア) さくらの苑居宅介護支援事業所管理者を講師に招き、学習会実施 (8月) ② ア) 未実施 ③ ア) 朝来市防災訓練に参加。福祉避難所協定に基づき、高年福祉課からの要請にて要援護者の受入れ訓練に参加 (9月) イ) 市内各医療機関、福祉サービス事業所、行政と情報共有実施 (10月)	○
家庭介護者交流事業への参加	①「せいいい介護者のつどい」の充実	ア) せいいい介護者の集い参加 (5・7・9・11・1月) イ) せいいい介護者の集いへ講師派遣 (管理栄養士:9月)	◎
認知症サポーター養成	①キャラバンメイト連絡会参加・活動への参加 ②認知症サポーター養成講座開講	① ア) 2019 年度キッズサポーター養成講座内容打合せ職員派遣 (5・10・11月) イ) キャラバンメイト連絡会職員派遣 (7月) ② ア) 認知症サポーター養成講座 5 回開講 (地域住民対象 4 回、施設内 1 回) イ) キッズサポーター養成講座に職員派遣 中川小学校 (7 月)・竹田小学校・枚田小学校 (11 月)・東河小学校 (12 月)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
福祉避難所の整備	①要援護者の受入れマニュアル作成 ②備品の整備	① ア)未実施 ② ア)備品リストの作成及び業者へ見積依頼 イ)備品整備実施（簡易ベッド、発電機等）	○
事業所特長やサービス内容をわかりやすく伝えるパンフレットの作成・配布	①パンフレットの更新 ②機関紙の発行（年2回）	① ア)未実施 ② ア)機関誌「ひなたぼっこ 79号」原案作成（9月発行） 機関誌「ひなたぼっこ 80号」原案作成	○
Facebook 施設見学の柔軟な受入と施設案内の実施	①ホームページ・フェイスブックの更新	ア)ホームページ作成学習会参加（3名:8月） イ)フェイスブック6回更新（4・7・9・11・1・3月）	○
施設見学の柔軟な受入と施設案内の実施	①マニュアルの運用	ア)法人施設見学マニュアルと施設見学マニュアルの比較検討 イ)入居希望者家族、入職希望者等の見学案内の実施（随時）	○
修繕箇所の確認と計画	①大規模修繕に向け施設改修検討委員会を設置 ②修繕計画箇所再考、立案	① ア)施設改修検討委員会を設置（4月） イ)バリアフリー展見学（4月） ウ)修繕箇所の確認（6月） エ)特浴機更新の商談に、メーカー2社商談に来園。 ② ア)緊急性のある修繕箇所及び大規模修繕について黒田建築設計事務所と情報共有 イ)黒田建築設計事務所を交えた修繕箇所の優先順位、修繕案等の意見交換実施（1～3月 計5回） ウ)専門業者による建物診断調査実施（2月）	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
旧短期入所事業の空き部屋の活用方法の検討	①計画・検討・事業立案（個室、2人部屋、夫婦部屋など）	ア) 部署連絡会にて意見交換、検討実施	○
目標値に沿った積立金確保	①積立金の確保	ア) 当初予算 250 万に加え 650 万の積立を実施	◎
安定した収入の確保	①空床期間の短縮 ②居宅介護支援事業所、医療機関、行政との連携、情報収集の実施 ③口腔ケアの実施による肺炎予防、センサーマット、センサーベッドを活用した見守りによる転倒事故減、体調不良者確認時の早期受診対応による入院者減 ④空床発生時の積極的な短期入所利用者の受入れ ⑤先進福祉機器（介護ロボット）を導入し、職員の負担軽減に努め、離職を防ぎ、安定したサービスを提供	① ア) 入所判定委員会の実施（17回） イ) 入所希望者面談 24 名実施（永眠者 13 名） ② ア) 市内居宅介護支援事業所、医療機関、行政等に、利用者の動向について確認 ③ ア) 毎月歯科衛生士の訪問指導受講。指導内容に基づいた口腔ケアを実施。肺炎による入院者無し ④ ア) 空床情報を市内居宅介護支援事業所へ連絡及びショートステイ利用依頼実施 イ) 短期入所利用延べ 120 日 ⑤ ア) 業務分担にて使用担当者を決め、積極的に活用 イ) 腰痛を訴える職員減	△
経費削減	①業務内容の精査 ②職員への意識づけ ③超過勤務労働の削減および有給休暇の効率的な消化の推進 ④厨房業務委託業者の検討	① ア) 各ユニット会議にて業務内容見直し ② ア) 消耗品の各種サンプルを取り寄せ、検討実施 イ) おむつ、パッドの見直し実施 ③ ア) 超過勤務を必要としない勤務表作成 イ) 有給休暇取得率 42.52%	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
経費削減	④厨房業務委託業者の検討	④プロポーザルを検討するも、サービス内容が安定している為、見送りで決定	○
各種マニュアルの更新および作成	①標準化マニュアルに沿った16項目の施設独自のマニュアルの更新・作成 ②記録支援ソフトの申し送り機能の活用により情報を共有化	① ア)服薬、排泄、送迎、移乗、入浴、食事、風水害対策マニュアルの作成 イ)虐待防止、身体拘束、ノロ、マニュアル更新、苦情解決、不審者対応マニュアルの作成 ② ア)全職員へID付与 イ)申し送り機能のマニュアル作成 ウ)申し送り機能の活用開始(11月)	◎
先進施設の取り組みを学ぶ	①ノーリフティングケアを導入している施設を見学 ②先進福祉機器の導入による利用者ケアの充実(腰補助ロボットマッスルスーツ、床走行リフト)	① ア)ノーリフティングケア研修会派遣(4名:9月) イ)ノーリフティングケア推進委員会設置を検討 ② ア)使用状況のアンケート実施及び検証 イ)マッスルスーツ、床走行リフトの追加導入見送り決定 ウ)移乗用ボード(ラクラックス)2枚導入(3月)	○
アセスメントを実施し、個々を知り、個々のニーズを把握した支援の実施	①ほのぼのNextの包括的自立支援プログラムについての学習会開催 ②ほのぼのNextの包括的自立支援プログラムを活用したアセスメントの実施 ③ケアプランを周知した個別支援の実施 ④サービス担当者会議の定期開催(年間計画に基づき)	① ア)未実施 ② ア)検討中 ③ ア)ケアプラン作成、各担当へ配布し周知 イ)過去情報(生活歴/アセスメント)シートの使用開始(6月) ④ ア)ユニット会議にて介護員、看護師参加し実施(1回/月) イ)年2回のケアプランの更新と更新時に各担当への意見照会を実施	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
担当介護員によるオンリーワン支援の充実	①ニーズ調査（アセスメント）から年間計画を作成 ②年間計画に基づいた支援の実施 ③顧客満足度調査の実施	① ア) オンリーワン支援のニーズ調査を実施（6月） ② ア) ニーズに沿ったオンリーワン支援の実施（13回） ③ ア) 満足度調査実施（9月）	○
虐待・不適切ケアへの取り組み	①虐待防止チェックリストの運用を年2回実施 ②虐待防止基準表・判定表を活用した学習会の実施および、不適切ケアの改善 ③接遇ハンドブックを活用した学習会を実施 ④身体拘束廃止の研修会開催（年2回）	① ア) 虐待防止チェックリストの実施（9・11月） ② ア) 虐待不適切ケア判定基準表学習会へ参加（5月） イ) 虐待防止基準表・判定基準表勉強会の実施（7・11月） ウ) 虐待防止学習会の実施（9・3月） ③ ア) 接遇ハンドブック勉強会の実施（4月） イ) 接遇アップキャンペーンの実施（6・9・12・3月） ④ ア) 身体拘束廃止の研修会開催（4・6・2月） イ) 身体拘束解除検討会議開催（6・9・1・3月） ウ) 身体拘束解除1名（9・1月）	◎
計画的な研修の実施	①年間計画 ②現在の課題を把握し、研修の参加者決定 ③各種資格取得、研修会に職員派遣 ④研修後の伝達研修を実施	① ア) 年間計画表を作成 ② ア) 職制にて検討し研修参加者を選定 ③ ア) 介護職員によるたん吸引等の研修（1名）、介護福祉士実習指導者講習に職員派遣（1名）、介護福祉士実務者研修6名、社会福祉主事（2名）防火管理者講習会（1名）受講 ④ ア) ノーリフティングケア等伝達研修実施（9月）	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
実習生の受入れ及び、福祉体験学習への講師派遣	①介護福祉士養成校、各大学、特別支援学校、トライ・やる等の実習生の受入れ ②市内各小中高の福祉体験学習等へ講師派遣	① ア)日高高校介護科実習生受け入れ (2年生2名・3年生3名・1年生2名) イ)介護等体験実習生受入(佛教大学:1名) ウ)和田山特別支援学校3年生実習受入(延べ2名) ② ア)福祉体験学習へ講師派遣(朝来中学校、梁瀬中学校、和田山中学校)	○
人事考課制度の継続、浸透	①人事考課制度の継続	ア)人事考課制度について説明 イ)目標管理制度の個人目標の作成と、上司による個別面談の実施 ウ)人事考課結果を踏まえた個別面談の実施	◎
エルダー制度の活用	①職員育成到達目標およびモニタリング表の活用 ②エルダー報告書の活用 ③エルダー制度実施の中でエルダーと主任、課長・新人とエルダーとの相談時間を設ける(毎月勤務表に反映)	① ア)新任職員へ1、3、6か月シートを配布 イ)新任職員1名:全勤務形態の業務遂行完了(12月) ② ア)毎月報告書止まりで、活用までに至らず ③ ア)エルダーと職制者との面談実施 イ)エルダー制度の課題が判明 ウ)エルダー制度再構築のための会議開催(3月)	△
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉講座への職員派遣 ②朝礼及び職員会議時に牧師による礼拝の実施 ③朝礼時の基本理念唱和	① ア)キリスト教福祉講座へ職員派遣(2名:9・10・11月) ② ア)職員会議前に礼拝実施(4月～3月) ③ ア)基本理念を唱和(月～金)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
法人基本理念を学び、理解を深める	①理念に沿った支援の実施 ②理念研修会への職員派遣 ③神戸聖隷ハンドブック活用	① ア) 新任職員オリエンテーションにてキリスト教理念に基づいた利用者主体の支援について説明 ② ア) 他法人理念研修会への派遣職員決定 (4月/各1名) イ) 他法人理念研修会に職員派遣 (6・1月) ウ) 理念研修会に職員4名派遣 (2月) エ) 小西牧師を講師に招き理念学習会を開催 (8・9・10・11・1月) ③ ア) 新任職員オリエンテーションにて活用	◎

2. 出来した事案

(1) 要介護認定更新手続き未実施による介護給付費国保連請求3割分を施設負担とした件

2019年6月6日、入居者の要介護認定の更新が未実施であることが判明。朝来市へ確認し、介護保険者証の有効期限が切れた日から、新規申請日迄の請求については、全額ご本人様の自己負担との返答がありました。しかし、今回のような入所中の認定更新手続きについては、入所されている施設が行うことが重要事項説明書、契約書に記されており、責任は確認業務を怠った平生園にあることから、加入している三井住友海上火災保険(株)に対応可能か確認。その結果、7割が保険対応とすることができ、3割分を施設負担としました。ご家族には説明し、介護保険者証の有効期限が切れる前の4月末の介護度(要介護4)で利用者負担額をご負担いただくことで了承いただき対応いたしました。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 わらしべ
 施設長 太田 敦子

「一人ひとりが役割と生きがいを持ち 地域と共に暮らす生活の実現」というビジョンのもと、日中生活支援の充実に積極的に取組みました。個別的には、カンファレンスを定期的かつ確実に実施できたことで、ニーズの掘り起こしから統一した支援、個々の望む暮らしに応じた家族と協働によるプランの実現ができました。また、「素人名人会」と題し、ご利用者の自己アピールの場として開催した会ですが、ひとつの目標に向かい毎日練習を積み重ねる事で「職員は与えるばかりではない。ご利用者も与えるばかりではない。嬉しさも楽しさも、そして苦勞も、一緒に手を取り分かち合える。私達の役割とは、個々の個性を見極めできる事を引き出すこと。職員は、ご利用者の言葉にできない気持ちに寄り添う、黒子のような存在でありたい。」という総合研修発表の言葉ですが、この大切な思いへの気づきと実践は大きな成果です。ただ、今年度の取組みの中で、看取りの対象者がなかったことから「わらしべ版看取りガイドライン」が実現できておらず、第4期計画に継続します。

ご利用者の安心・安全については、朝来市に土砂災害に関する避難確保計画を提出し、毎月の防災等の訓練の継続と非常食を使つての実食体験等を実施し、継続の必要性や試食の重要性を学びました。また、朝来市の防犯に関する補助金を活用し110番直結通報装置・防犯用センサーライトを設置しました。設備に関しては、社会福祉事業補助金(地域介護・福祉空間整備等施設整備事業)にて全ての空調設備改修工事が完了いたしました。これにより想像以上に快適で不安のない生活の提供ができています。しかし新たに給湯設備の故障という不安も残し、次年度も修繕に悩まされる状況となっています。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
パンフレットの見直しと更新 Facebookの更新と機関紙発行	①パンフレットの更新 ②ホームページ・Facebookの更新 ③機関紙の発行(年2回)	① ア わらしべパンフレット更新(記載内容・写真変更) ② ア ホームページのトップページ更新(6月) イ 施設の空き情報入力(9月) ウ フェイスブック投稿(1月) ③ ア 機関紙「ひなたぼっこ」編集会議(6・8・12月) イ 原稿作成・提出(8・3月) ウ 「ひなたぼっこ」第79号発行(10月)	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域活動への参加	①キャラバンメイト連絡会参加・活動への参加 ②サポーター養成講座・キャラバンメイト養成研修への参加	① ア) 朝来市キャラバンメイト連絡会出席 (7月) ② ア) 認知症サポーター養成講座へキャラバンメイトとして参加 (5・6・11・12・2月)	○
関係機関との連携強化(情報共有)による収入確保	年度目標値の達成 ①居宅介護支援事業所等への情報提供と共有による空床利用の推進 ②次期入所候補者の早期確定	① ア) さかもと医院居宅介護支援事業所との連携により空床利用者1名あり (7・1月) ② ア) 待機者の正確な把握のための入所申込者への意向確認調査実施 (5月～7月) イ) 次期入所者の早期確定に向けた調整 (2月)	△
入所申込者の情報調査	①入所申込者の情報確認	ア) 入所申込者への意向確認調査 (5月～7月) イ) 申し込みファイルの更新 (毎月) ウ) 新規申込み時の家族への面談実施	○
事務員による経費に関する説明会の実施	①職員会議にて収支に関する説明(経営進捗状況報告) ②毎月グラフ掲示(水道光熱費) ③半期毎の振り返り	① ア) 職員会議にて職員へ2018年度決算を報告 (5月) イ) 毎月の職員会議時に経営進捗状況を報告 ウ) 職員へ補正予算についての説明 (2月) ② ア) 毎月事務員による水道光熱費のグラフ化と報告 ③ ア) 前期収支状況の報告 (11月)	○
無駄の排除と価格見直し	①消耗品等の価格見直し ②毎月の消耗品等の使用量確認・周知	① ア) たのめーる利用によるコストダウン イ) 日用消耗品の価格調査と仕入れ物品の見直し (6月) ② ア) 毎月消耗品等の使用量集計と職員への周知による意識付け	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
各ユニットでの取り組み・両ユニット協働による支援の実践	①ユニット毎の計画 (雅・泰)	① ア) 年間計画表に基づいた各ユニットの計画の確実な実践 イ) グループホーム連絡会風船バレーボール大会参加 (5月) ウ) 東河小学校3年生交流会実施 (6月) エ) 清掃奉仕作業と家族交流会実施 (9月) オ) 第1回「素人名人会」開催 (11月)	◎
活動メニューの選択肢を増やす	①個別支援の取り組み実践 ②選択肢を増やし希望のサービスを提供(雅・泰)	① ア) ケアカンファレンスの実施 (全員) イ) ケアプランに基づいた個別支援、個別外出の実施 (16名) ② ア) 誕生日希望メニューの提供 イ) 毎月2~3回希望者による調理・おやつ作りの実践	○
	①日中活動を充実させる共有スペースでの過ごし方の検討 ②「掘こたつユニット」の購入・設置と活用	① ア) 委員会実施 (5・6・8・11月) イ) 日中活動プログラムと職員の休憩時間についての検討 (5・6月) ウ) 取り組みの実践とアンケートによる振り返り (7月~10月) エ) 業務見直しと休憩時間についての第2回アンケート実施・集計と共有 (10月) オ) 職員の休憩時間確定と余暇の意味と役割の検討 (11月) ② ア) 未実施	△
支援の質の向上	①顧客満足度調査の実施 ②標準化マニュアルに沿った16項目の施設独自のマニュアル作成	① ア) 利用者満足度調査の実施・集計 (10・11月) イ) 職員会議にて満足度調査結果の報告と共有 (12月) ② ア) 直接支援5項目について施設独自のマニュアルの作成と職員への周知 (5・6月) イ) 標準化マニュアルわらしべ分(身体拘束について)の作成・提出 (5月) ウ) 第2期前期分独自マニュアル作成中	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
施設設備の点検と更新の検討	①空調・給湯設備の点検と更新の検討	ア)空調工事について県の補助金給付の内示(7月) イ)関係業者と工事に向けた打合せ(8・9月) ウ)12/3 空調改修工事一般競争入札 エ)2/3 空調工事開始(福井建設) 3/30 検収 オ)2月新たに給湯設備の故障あり、修理継続中	◎
看取り支援の充実	①「高齢者グループホームでの看取りに必要なこと」(わらしべ版看取りガイドライン)作成 ②看取り実施時の振り返り	① ア)「グループホームでの看取りに必要なこと」の検討(5・8月) ② ア)看取りなし	×
職員教育	①看取り委員会開催 ②看取り支援について職員への啓蒙 ③外部講師を招いての研修会開催	① ア)委員会実施(5・8月) ② ア)職員会議にて終末期ケア勉強会(11月) ③ ア)終末期ケア対応向上研修会参加(2名)(10月)	△
防災への取り組み	①災害に備えた清掃の実施 ②情報収集とマニュアル見直し・作成と備品の確保 ③毎月の避難訓練の実施と振り返り	① ア)利用者と一緒にベランダ掃除(4月・5月・8月) イ)周辺の側溝掃除(6・9・11月) ウ)施設内消毒(7月) エ)さくら川・寮周辺・側溝清掃作業(10月 但馬地区安全対策委員) ② ア)委員会実施(4月) イ)備蓄食料品の整理(4月) ウ)避難確保計画作成と朝来市への提出(6・7月) エ)但馬地区安全対策委員会にて防災マニュアルの整備の検討(8・9月) オ)福祉避難所の備品購入(12・1月) ③ ア)毎月避難訓練実施	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
防災への取り組み	④感染症マニュアルの見直し	ｲ)職員への防災教育実施(8・10・2月) ｳ)避難確保計画と福祉村防災連絡協議会の情報の共有(8月) ｴ)土砂災害時の一次避難所への移動についての検討(10月) ｵ)和田山特別支援学校防災プログラムへの参加(2名:1月) ④ ｱ)ノロウイルスに関する手引き書の作成(11月) ｲ)感染症マニュアル見直しと更新(3月)	◎
	①非常食の食事体験の実施と振り返り	ｱ)非常食食事体験実施と振り返り(7月) ｲ)利用者に適した非常食の検討(内容・量など)(10月) ｳ)非常食の補充(12月) ｴ)非常食の賞味期限確認(3月)	○
事故防止の強化	①ユニット毎の事故の検証と対策の実践 ②毎月職員会議にて周知	① ｱ)ユニット毎の事故検証と対策実践(毎月) ② ｱ)職員会議にて事故・ヒヤリハットの報告と周知(毎月) ｲ)事故・ヒヤリハットの前期集計と報告・共有(12・1月) ｳ)事故・ヒヤリハットの後期集計(3月)	○
虐待・不適切ケアへの取り組み	①委員会開催 ②身体拘束廃止の研修会開催(年2回) ③虐待防止チェックリストの実施(年2回) ④虐待防止事例検討会の実施 ⑤接遇ハンドブックの学習会実施	① ｱ)委員会実施(5・8・10・3月) ② ｱ)身体拘束廃止の研修会実施(6・10月) ③ ｱ)虐待防止チェックリストの実施・集計(9・1・2月) ④ ｱ)法人QOL委員事例検討学習会(5月) ｲ)虐待防止事例検討会の実施(8・1月) ｳ)法人QOLチームに評価表提出(1月) ⑤ ｱ)委員会で接遇ハンドブックの読み合せ(5月) ｲ)接遇アップキャンペーン実施・期間中毎日ハンドブックの読合せ(6・9・12・3月)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
研修参加と伝達研修の充実	<p>①認知症介護実践研修 受講・ケアマネ研修 受講</p> <p>②グループホーム連絡 会主催の研修会参加 (年4回)</p> <p>③外部研修への参加</p> <p>④伝達研修実施</p>	<p>① ア) 受講研修なし</p> <p>② ア) グループホーム連絡会研修会への参加 7月：脳若返り体操 9月：認知症ケア 10月：余暇時間の過ごし方について 12月：グループホームだからこそ出来ること</p> <p>③ ア) 未実施</p> <p>④ ア) 「他法人理念研修」(7月) イ) 「余暇活動」「終末期ケア」(11月) ウ) 「感染症対策」(12月) エ) グループホーム研修会の伝達(1月) オ) 「防災について」(2月)</p>	△
記録ソフト活用と勤務ごとの業務の見直し	<p>①勤務ごとの業務の見直しと実践</p> <p>②サービス残業ゼロと休憩時間確保の取り組み</p> <p>③iPadの有効活用による利用者支援の充実</p> <p>④有給休暇の効率的な消化の推進</p>	<p>① ア) 職員の休憩時間とそれに伴う業務の見直しの実践(7・8・9月) イ) 職員アンケート実施・集計・検証と見直し(10・11月)</p> <p>② ア) 休憩時間について他のグループホームの情報収集(6月) イ) 休憩時間確保の取り組み実施(7・8・9月) ウ) 職員アンケート実施・集計・検証と見直し(10・11月)</p> <p>③ ア) iPadの有効活用方法の検討と他施設への見学(5・6月) イ) 職員アンケート実施・集計(7・8月) ウ) 委員会にて導入についての検討(7月) 今年度見送りの決定(8月)</p> <p>④ ア) 有給休暇取得について職員への説明(4月) イ) 有給休暇消化の促進(6月～3月)</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
法人理念 の理解と 共有	①職員会議時の神戸聖 隷ハンドブックの読 み合わせと話し合い	ア)職員会議時の神戸聖隷ハンドブックの 読み合わせと話し合い (4・6・8・10・1・2月)	○
	①キリスト教福祉講座 及び法人理念研修へ の参加	ア)他法人理念研修参加 (1名:6月) イ)キリスト教福祉基礎研修参加 (1名:9・ 10月) ウ)キリスト教社会福祉法人運営協議会(情 報交換会)参加 (2月)	○

2. 出来した事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 さくらの苑
 施設長 小山 哲也

さくらの苑は開園してから、3年が経過しました。「さくらの苑」を地域の方に知っていただくことと、「地域とのつながり」を築くために地域行事やミニデイへの参加、さくらカフェなどを実施し、交流の場を設け、地域のニーズを把握し、さくらの苑として地域に貢献できることはないか模索しながら取り組んでまいりました。

さくらの苑の地域貢献委員会を中心に、地域の方とのつながりを大切にしながら老人会などで感染症予防や介護方法などの出前講座の開催や独居高齢者の方への食事提供に取り組むことが出来ました。また、ニーズを把握することで、地域の方との様々な相談が出来るようになったことが今年度の成果でした。次年度より地域サポート施設として「さくらカフェ」の開催や「出前講座」を事業として取り組みを継続します。

利用者支援では、個別支援の取り組みとして、ユニットケアの理解や24時間シートの活用、マニュアルの更新を行いました。また、眠りスキヤンの導入やリフト浴の追加により、サービスの質の向上と職員の負担軽減にも取り組んできました。しかし、取り組みの中で情報共有や人材育成などの仕組みが確立していない現状もあります。利用者には「安全・安心」な生活が提供できるよう、また、地域の方には「さくらの苑があるから安心ね」と言ってもらえるようにさくらの苑全職員で取り組んでまいります。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の困りごと調査 ・地域とのつながりの充実 ・地域包括ケアシステムを学び知識を身につける ・介護予防事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員が地域貢献に関わる意味を理解する方法の検討 ②地域ニーズの把握のためのネットワーク作り 	<ul style="list-style-type: none"> ① ア) 地域貢献を職員へ地域包括ケアシステム説明、意見交換実施 (4月) イ) 近隣独居見守り対応の情報共有 近隣住人安否確認メンバー決定 ミニデイ参加での職員地域交流参加 (5月～2月) ウ) 職員会議にて勉強会開催 (7月) ② ア) 近隣独居住人への昼食提供 (8月～2月) イ) 独居高齢者宅の清掃・片付け実施 (8月、10月) ウ) 法人感謝祭へ地域ミニデイ出店実施 (11月) エ) 地域主体の食事支援さくらカフェ開催 ニーズ調査を同時実施 (12月) 	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
・ボランティアの受け入れから育成までのシステムを確立	①ボランティアの育成と活動支援 ボランティア受け入れマニュアルの作成・運用	① ア) キャラバンメイト養成講座 5 名受講 (7 月、10 月) イ) 認知症サポーター養成講座開催 (10 月) ウ) 新規家事ボランティア受け入れ (1 月)	◎
・地域サポート施設の調査	①地域サポート施設参入の準備	① ア) 地域サポート施設参入施設へ活動内容調査、報告実施 (6 月) イ) 地域サポート施設参入検討、準備 (12 月、1 月) ウ) 地域サポート施設参入申請手続き (2 月) エ) 地域サポート施設に認定 (3 月)	◎
・事業所の特徴やサービス内容を分かりやすく伝える事の出来るパンフレットの作成、配布 ・施設見学の柔軟な受け入れと施設案内の充実	①パンフレット、HP、ショートステイ便りを活用した情報発信 ②施設見学マニュアルの準備・実施	① ア) HP の更新 (4 月～3 月) イ) フェイスブックの更新 (5 月、7 月、8 月、10 月、11 月、1 月、3 月) ウ) ショートステイ便りの作成、配布 (4 月～3 月) エ) 機関紙の発行準備 (6 月～9 月、12 月～3 月)、発行 (10 月、3 月) ② ア) 施設見学マニュアルの検討、作成準備 (5 月～1 月) 完成 (1 月)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>・安定した収入の確保</p> <p>・経費削減</p> <p>・目標に沿った積立金の確保</p>	<p>①将来への修繕・設備導入に向けた資金確保</p> <p>②空床期間の短縮（7日以内） 居宅介護支援事業所へ情報収集（月1回）</p> <p>③ノー残業デーの実施 有給休暇の定期取得</p>	<p>①</p> <p>ア)職員会議にて光熱水費の報告、職員へ周知（4月、6月、9月、11月、12月、3月）</p> <p>②</p> <p>ア)2019年度新規入居者5名、平均空床期間7日</p> <p>イ)各事業新規利用者確保のため毎月居宅介護支援事業へ訪問情報収集を実施（4月～3月）</p> <p>③</p> <p>ア)職員会議にて「ノー残業デー」の周知と「チラシ」を掲示し職員への周知を図る</p> <p>イ)毎月有休取得状況の確認と職制会にて有休取得状況を確認（9月、1月）</p>	<p>△</p>
<p>・各種マニュアルの更新及び作成</p> <p>・先進施設の取り組みを学ぶ</p>	<p>①マニュアルの見直し、整備 サービス評価受審（11月）</p>	<p>①</p> <p>ア)入浴、排せつ、服薬、送迎、移乗、食事、感染症、ノロウィルスのマニュアルの作成（6月）</p> <p>イ)緊急短期入所受け入れ、拘束、実習生受け入れマニュアルの作成（9月）</p> <p>ウ)マニュアル更新体制、虐待防止、苦情解決、身体拘束廃止、不審者侵入への対応、風水害対策のマニュアル作成（1月）</p> <p>エ)職員にサービス評価のアンケート調査実施（8月、9月）</p> <p>オ)サービス評価受審（11月）</p>	<p>○</p>

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>・アセスメントを実施し、個々を知り個々のニーズを把握した支援の実施</p>	<p>①顧客満足度調査の実施 ②24 時間シートの活用、個別支援の推進 自立支援のための職員相談・情報共有を検討 OT 指導による介護技術、知識のスキルアップと支援の統一 ③ユニット会議のあり方検討</p>	<p>① ア)10 月実施予定のアンケート調査の内容検討、準備 (7 月～9 月) アンケート調査の実施 (10 月、11 月) 集計 (12 月) ② ア)24 時間シートの見直しと更新、情報共有 (4 月～3 月) イ)OT による介護技術、知識のスキルアップのための講習会の実施 (4 月、5 月、6 月、8 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月) ③ ア)職制会にてユニット会議の時間や他の会議との情報伝達方法の見直し、伝達実施 (7 月～1 月) 第 4 期中期計画の計画内容を検討 (2 月)</p>	○
<p>・計画的な研修の実施 ・人事考課制度の継続、浸透 ・エルダー制度の活用</p>	<p>①内外部研修計画、実施研修の周知方法のルール化 伝達研修方法の検討 OJT 実施 ②ユニットリーダー研修、喀痰吸引研修等の受講 資格取得に向けた研修参加 ③人事考課制度の継続 エルダー制度の活用</p>	<p>① ア)研修年間計画の作成 (4 月) イ)研修開催の告知、周知方法の検討、ルール化の取り組み実施 (5 月～3 月) ウ)研修年間計画について実績共有 (3 月) ② ア)喀痰吸引研修 1 名受講 (7 月) イ)介護支援専門員更新研修受講 2 名 (4 月～9 月 10 月～1 月) ウ)ユニットリーダー研修受講 1 名 (11 月、12 月) ③ ア)各職員の目標設定の確認と目標に対する毎月の進捗状況の確認 (4 月～11 月) 人事考課とフィードバック面接の実施 (2 月、3 月) イ)エルダー制度を活用した新人教育の実施 (4 月～11 月) ウ)次年度のエルダー制度について、職制で内容検討 (12 月)</p>	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
・キリスト教福祉の理解 ・法人基本理念を学び理解を深める	①キリスト教福祉の理解 法人基本理念を学び理解を深める（1回/月） 神戸聖隷ハンドブックの読み合わせ 神戸聖隷の歴史を学ぶ	① ア)キリスト教福祉基礎講座へ2名参加（9月、10月、11月） イ)職員会議にて小西牧師より講話を頂く（4月、5月、6月、7月、9月、10月、1月、2月、3月） ウ)職員会議にて法人ハンドブックの読み合わせ実施（4月、6月、7月、11月、12月、3月） エ)越智顧問による神戸聖隷の歴史を学ぶ勉強会の開催（5月）	○

2. 出来した事案

(1) 利用者介護事故

特養1名と短期3名 骨折と裂傷のため入院と通院されました。

各々の事故においては、ご家族に状況説明と謝罪を行い特に問題となることはありませんでした。事故後には検証を実施し、ユニット会議で情報共有を行っています。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵 生 園

施設長 掃部 久美代

1987年より継続してきたゴミ袋製造作業を今年度12月で終了し、1月に和生園へ移設しました。例年3月末までで1年分を仕上げてきましたが3ヵ月早い12月までに製造終了するため、月毎の生産目標数を設定しほぼ毎日終日製袋機を稼働させ利用者と共に取り組んできました。その為、昨年以上に機械音が施設内に鳴り響いていましたが、1月からは静かに従来から継続しているポリちぎり作業を全員で行っています。機械移設後のスペースは余暇活動で手狭になっている活動の提供と場として、また会議室に間借りしていた機能訓練の場として活用し、安全性の高い運動機器を設置して解放されたスペースとして皆さんで利用していきます。

また、日中活動では、昨年度にスタートさせた毎週の活動をベースとして、更に選べる活動提供と内容の充実に努めました。創作、スポーツ、音楽、調理、園芸の5グループが社会と「繋がる」を共通の目標として毎週取り組んできました。各グループによって社会参加の仕方はそれぞれですが、創作した作品の出展、地域で行われているラジオ体操会への参加、園芸で作った野菜を地域の方に食して頂いたり、利用者の作ったクッキーをプレゼントするなどご利用者個々が地域社会の一役を担える場がありました。

近年、各地で想定を出来ない災害が発生しています。例年防災訓練は行っていましたが、実際に避難経験がない為、避難に要する時間や避難時の過ごし方など想定でしかありませんでした。今年度は体調不良者以外全員が施設を離れて避難をすることを計画し、実際に二次避難所へ避難体験を実施しました。事前のアナウンスによりスムーズに避難は出来ましたが、車椅子や歩行器のご利用者も半数となっており、施設が所有するリフト車両1台では避難に要する時間が計画以上にかかること等課題の共通認識がもてました。

今年度は外壁工事、外溝工事を行いました。予測以上に外壁のひび割れや壁の浮等劣化箇所が広範囲ではありましたが、計画通り12月末には完工しました。この度の工事では耐久性を高めるだけでなく外壁の色も変え、雰囲気をも大きく変えることができました。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	情報発信 ①機関紙発行 (2回/年) ②SNS (ホームページ) の更新 ③パンフレット更新	① ア) 機関紙「しあわせ」発行(7,2月) ② ア) ホームページに空床情報追加、更新 イ) facebook 更新(6.8.10.12.2月) ③ ア) パンフレット新様式の検討	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域との交流の場の開催	<p>あったかプラザでの企画実施</p> <p>①実施・振り返り（1回/月）</p> <p>②イベント内容についてアンケート実施</p> <p>③メニューの見直し</p> <p>④増税への対応</p>	<p>①</p> <p>ア) 検討会議実施（(5/31、6/22、7/8、9/25)</p> <p>イ) イベント開催：参加者計 186 名 オセロ・かるた大会、将棋・トランプ大会、お抹茶教室（7月：17名）、ミニ縁日・点字教室、脳トレ体操、オセロ・トランプ大会、手話教室、クリスマスコンサート、ソーパークーピング、折り紙「お雛様」</p> <p>ウ) あったか定食（5～2月：270食）</p> <p>エ) 作品展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵手紙・空箱展（5/21～6/30） ・ 絵画展（6/30～7/31） ・ 恵生園ご利用者（8/6～9/1） ・ 風信書道展（9/5～10/22） ・ 山野草（10/22～11/1） ・ ペーパーフラワー（11/1～11/29） ・ 絵画展（12/1～2/14） ・ フラワーアレンジメント（2/15～） ・ 風信書道展（2/15～3月末まで） <p>②</p> <p>ア) アンケート実施（6、11月：23名）</p> <p>③</p> <p>ア) 親子丼：10月～廃止、モーニングサービス：1/28～開始</p> <p>④</p> <p>ア) 増税への検討会議実施（4回）</p> <p>イ) 館内に価格改定の事前説明掲示（8月）</p> <p>ウ) 関係機関（朝来市・作業所等）へ商品価格確認（8月）</p> <p>エ) 改定料金（税込）表を館内に掲示（9月）</p> <p>オ) レジスターの購入（9月）</p>	◎
安定した介護給付費の確保と確実な積立	<p>確実な積立</p> <p>①入所受入検討委員会の開催・職員間情報共有（随時）</p> <p>②経営進捗状況報告（1回/3か月）</p> <p>③相談支援事業所、病院等に空床情報提供と情報収集（1回/月）</p>	<p>①</p> <p>ア) 入所受入委員会（4.6.8月）</p> <p>イ) 利用前事前資料作成配布（8件）</p> <p>②</p> <p>ア) 経営進捗状況報告（5.9.3月）</p> <p>③</p> <p>ア) 空床情報案内発送（4～10月 21事業所）</p> <p>イ) 入所（1件）短期（7件）利用契約</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
無駄の排除と固定費の削減	無駄の排除 ①新たな消耗品の見直し(2品) ②備品の管理、預り品の管理(1回/毎月) ③リネン管理・寝具見直し ④エアコン温度管理 ⑤ゴミ分別と持ち込み	① ア)ペーパータオル、尿取りパットを同等低価格品へ発注・更新 ② ア)実施無し ③ ア)寝具サンプル取り寄せ試行(2月～) ④ ア)居室エアコン外気と体感温度の確認による全室個別設定(4月～) ⑤ ア)リサイクルゴミ分別収集、センターへ持ち込み(毎月)	○
居住環境の向上	魅力ある施設づくり ①新規の園内販売 ②wi-fi環境検討 ③医療環境の整備 ④顧客満足度調査実施(1回/年) ⑤利用者憩いの場の整備	① ア)実施無し ② ア)共用スペースのwi-fi利用エリア拡大、フリーwi-fi設定利用者へ解放(10月) ③ ア)医務室環境整備、体重血圧計は共用スペースへ設置、自由使用(4月) ④ ア)満足度調査実施(10月) ⑤ ア)次年度計画へ持越し	○
在宅者向サービスの展開	新サービスの検討 ①送迎サービスの拡充 ②施設見学会(1回/年)	① ア)南但地区相談支援事業所へニーズ調査実施(4月) ② ア)施設見学会開催(8月:9名)	○
日中活動全般の見直し	選べる日中活動への取り組み ①年間行事の実施と見直し ②日中活動を通して社会参加 ③多種・多方面への外出支援	① ア)選べる日中活動への取り組み ・花見会開催(4月) ・開園記念行事(6月) ・オセロ大会(8月) ・家族会研修会、バーベキュー大会(10月) ・茶話会実施(11月) ・クリスマス祝会(12月) ・新年会(1月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>日中活動全般の見直し</p>	<p>選べる日中活動への取り組み</p> <p>①年間行事の実施と見直し</p> <p>②日中活動を通して社会参加</p> <p>③多種・多方面への外出支援</p>	<p>②</p> <p>ア) スポーツ：参加者計 107 名以上 ウォーキング、ラジオ体操、夏祭り、花火大会、脳トレ体操（間違いさがし）、卓球、ミニ運動会</p> <p>イ) 創作：参加者計 134 名 ・壁面作り、うちわ作り ・合同作品展への出展（10 月：7 点） ・飾り作り （お月見、ハロウィン、クリスマスツリー、絵馬、塗り絵、雛祭り）</p> <p>ウ) 調理：参加者計 169 名 一口おにぎり作り、クッキー・スノーボール、ホットケーキ、チャーハン、サンドイッチ、焼きそば、クリームパスタ、寄せ鍋、たこ焼き、クレープ</p> <p>エ) 園芸：参加者計 85 名以上 ・ボランティアの受入（田中氏） ・畑の土壌作り、柵作り、野菜の苗の植え付け、水やり、畑手入れ、花壇の草引き・手入れ、野菜の収穫、収穫した野菜の浅漬け作り、あったかプラザにて野菜の配布、花の植え替え、葉牡丹の植え替え、葉牡丹植え替え、ヒヤシンス水耕栽培</p> <p>オ) 音楽：参加者計 95 名 ・介護フラダンス練習（バラが咲いた、上を向いて歩こう）、盆踊り大会、合唱（上を向いて歩こう、ベストフレンド） ・クリスマス祝会にて合唱披露（12 月） ・新年会にて介護フラダンス披露（1 月）</p> <p>③</p> <p>ア) 日帰り旅行：参加者計 25 名 ヨーデルの森・出石散策・永楽・イオン加西</p> <p>イ) 朝来市巡回ラジオ体操参加（7 月：3 名）</p> <p>ウ) 外食買物支援：参加者計 66 名 スシロー、永楽、レストハウス栄、ジョイフル、王将、偶</p> <p>エ) 一泊旅行の実施：参加者計 28 名 神戸・淡路方面、浜坂温泉</p>	<p>○</p>

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
標準化した支援の提供	マニュアルの見直しと運用 ①各種マニュアルの更新と周知・管理 ②標準マニュアルを基に見直し（6項目） ③医療情報書の更新（1回/年）	① ア) 恵生園マニュアル、支援マニュアル更新配布 ② ア) 標準化マニュアル作成 12 項目（第 1 期：6 月、第 2 期：1 月） ③ ア) 家族へ医療情報提供書郵送 5/11 イ) 医療情報提供書更新（5～11 月：69 名）	◎
感染症・事故防止対策の強化	予防と対策の構築 ①感染症予防対策の実施と備品管理 ②災害対策の実施と備品管理 ③事故ヒヤリ報告の検証と防止策（毎月）	① ア) 感染症対策用品、吐物処理キット、災害備蓄品の確認（4 月） イ) インフルエンザマニュアル作成（8 月） ウ) 内部研修（6 月ノロウイルス、10 月インフルエンザ） エ) 利用者参加型勉強会（健康について） オ) 感染症隔離部屋の整備（11 月） カ) 新型コロナ感染予防検討会（2 月） ② ア) 大規模災害想定避難訓練実施（10 月） ③ ア) 事故検証会議の実施（4 月～3 月） イ) 利用者参加型勉強会（危険予測について）	◎
虐待・不適切ケアの検証と対策	虐待防止への取組み ①身体拘束検証、防止策検討・実施 ②不適切ケアについて考える場の設定 ③虐待チェックリストの実施（2回/年）	① ア) 身体拘束検証会議実施（1 回/月） イ) 家族会総会にて身体拘束の説明と承諾（4 月） ウ) 身体拘束解除 1 名（10 月） ② ア) 不適切ケア研修実施（6 月、7 月、11 月） ③ ア) 虐待チェックリスト実施（9 月、1 月）	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	専門知識・技術の向上 ①各委員会主催の勉強会の調整（毎月） ②他施設見学の実施 ③利用者参加の研修会実施（1回/年） ④総合研修への取組み	① ア)各委員会主催の勉強会実施（毎月） ② ア)非常勤職員の他施設見学（7月）、グループホーム見学（10月） ③ ア)利用者参加の研修会（7月、9月、11月） ④ ア)総合研修発表（2月）実施状況	◎
誰もが発言できる職場づくり	業務の見直し ①業務内容の見直し ②残業・ノー残業への取組み ③ミーティングの開催（1回/週） ④職員休憩室の確保 ⑤制服の導入	① ア)業務振り返り会議実施（6・11月） ② ア)残業とノー残業について説明 ③ ア)ミーティングの実施（週1回全43回） ④ ア)休憩室の活用開始（7月） ⑤ ア)制服導入の検討、アンケート実施、発注、納品、職員配布	◎
リーダーの育成と新人の育成	指導者の育成 ①研修参加とOJT実施 ②体験学習での指導者育成（手話・点字指導者各1名）	① ア)OJTの実施（2名） ② ア)和田山高校の点字福祉体験学習（6月） イ)梁瀬中、和田山中福祉体験実施（10月） ウ)中川小学校福祉体験（11月） エ)内部研修「点字について」（12月） オ)手話勉強会実施（2月）	◎
法人基本理念・キリスト教福祉の理解推進	法人基本理念・キリスト教福祉の理解 ①神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会の実施（2回/人） ②牧師によるキリスト教福祉のメッセージ聴講（1回/月） ③接遇ハンドブックを活用した勉強会の実施	① ア)神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会実施（延43名） ② ア)小西牧師により職員朝礼時及び、全体集会時にてメッセージ聴講（毎月） ③ ア)接遇ハンドブック勉強会の実施（4月：4名） イ)接遇キャンペーン実施（4回/年）	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 真生園
 施設長 大橋 幸司

第3期中期計画の最終年度が終わりました。真生園は、この第3期中期計画での職場環境改善に対し、介護ロボット HAL®や眠りスキャンを積極的に導入しデータ収集に取り組みました。その結果、職員への負担軽減及び、ご利用者に対する支援がより充実する取組みが出来た事を第4期中期計画へ継続し繋げていきます。

ご利用者が地域参加する事を目標に、出来る限りの支援を実施しました。職員の人手不足もありましたが、ご利用者から外食ニーズを聞き取り、実際に食べたい物を外食で食べる事で、ご利用者の笑顔あふれる取組みが出来ました。日中活動の充実として、年度後半にレクリエーション機器を導入しました。日々の活動に、レクリエーション機器を活用し、また行事で使用するなど、より幅広く多様な場面で、ご利用者に喜んで頂きました。

施設の浴室改修工事を実施しました。浴室改修の目的は、ご利用者の重度高齢化に対応する浴槽の改修と冬でも快適に入浴できるように浴室暖房の設置、また、職員に対しての腰痛予防にも対応した浴室にする事でした。ご利用者の皆さんからも、新しい浴室はご好評いただき、日々快適に入浴されています。

ご利用者の健康管理に重点を置き、年間通して健康管理、感染症予防に取り組みました。重度高齢化の取組みとして、ご利用者に対し体調の早期判断・早期治療を基本とし、体調管理を実施しました。また、感染症予防の取組みでは、感染症予防月間を設け、秋から冬のシーズンにご利用者・職員で予防に取り組みました。

職員の確保及び育成にも積極的に取り組みました。今年度は、職員の確保が年間通して厳しい状況となりました。特に看護師の確保が難しく、人材紹介業者からの紹介を受け確保しています。また、ハローワークからの紹介も積極的に受け人材確保に取り組みました。職員の育成では、専門研修への積極的な参加の推奨や、介護の基礎研修などにも参加して頂きました。また、施設内研修で、虐待防止研修やPTによる介護研修で全職員に向けた研修を実施しました。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出ることで地域と繋がりを作る	地域へ外出 ①竹田地区（行事等） へ利用者が積極的に外出し地域と繋がりを作る	ア) 竹田地区外出実施（38名） イ) 地域へ買い物外出実施（84名） ウ) その他外出実施（26名） エ) 利用者懇談会にて外出情報の発信 オ) 単独外出に関するアンケートの実施 カ) 利用者懇談会で外出支援活動の案内告知、外出支援推進のポスターを掲示	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域から望まれるニーズ調査に取り組む	地域ニーズの調査・把握 ①南但自立支援協議会に参加し情報収集	ア)南但自立支援協議会に参加し情報収集実施(5回) 9月で南但自立支援協議会が終了	○
利用者の確保・待機者の確保	利用定員の確保 ①市町・相談支援事業所・病院等へ情報収集を実施 ②継続利用希望の通所・SSの確保	① ア)利用見学案内実施(5名) イ)利用訪問面談実施(3名) ② ア)新規施設入所者契約(1名/4月、1名/7月、1名/9月、1名/2月) イ)新規短期入所者契約(1名/6月、1名/11月、1名/3月)	○
新規サービスへの取組	地域ニーズ合わせた新規サービスの実施 ①旧さくらの苑を仮浴室に改装し活用実施 ②今年度中に解体に向けた環境設計を実施	① ア)旧さくらの苑を仮浴室使用(8月～11月) ② ア)平生園改修に伴う利用計画が挙げられた為、維持管理を継続	◎
重度高齢化に伴う入院予防対策	口腔ケアの見直しと継続 ①個々の口腔ケアの現状把握・改善	ア)感染症委員会実施(4月、7月、1月) イ)歯科検診実施(58名) ウ)歯科ブラッシング指導(5名)	◎
	感染症予防研修の実施 ①感染症予防研修の実施	ア)嘔吐物処理の物品の確認、補充(4月、8月) イ)感染症内部研修実施(5月、11月) ウ)利用者冷蔵庫内の食品品質確認(6月)	◎
	診療所によるフォロー ①定期健診結果に基づくフォローと緊急時の早期処置・判断 ②新規利用者への肺炎球菌ワクチン接種を実施 ③理学療法士を確保しリハビリ支援の提供	① ア)利用者健康診断実施(5月) イ)健診結果説明実施(6月～9月) ② ア)肺炎球菌ワクチン未接種者の確認・接種(利用者2名、職員1名接種) ③ ア)PT確保できず、長寿の郷PTの職員指導実施	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
継続した積立金の確保と経費削減	積立金確保・経費削減と集計 ①年3000万円の積立金確保 ②月別水道光熱費等の集計	① ア)年3000万円の積立金確保 ② ア)職員会議にて月別水道光熱費等の集計報告と経費節減の周知実施 イ)水漏れの把握と修繕実施	◎
意思疎通できない利用者の方にも、その人らしい生活を送って頂ける支援を提供します	利用者主体の支援の追及 ①各寮で利用者主体の支援に対する研究に取り組む(年1回発表)	ア)職員を3グループに分け、利用者支援に対する研究活動実施(5~11月) イ)3グループの研究発表(12月)	◎
	利用しやすい施設作り ①利用者自治会三役を含む運営会議にて、利用しやすい施設的环境改善を実施 ②利用者懇談会・食事委員会を開催し、意見交換を実施 ③標準化マニュアルに沿った16項目の施設独自のマニュアルを作成 ④アメニティーの充実 ⑤顧客満足度調査の実施	① ア)利用者参加の運営会議実施(12回) ② ア)利用者懇談会実施(12回) ③ ア)QOL部会から指示があった施設マニュアル作成実施(6月) イ)食事委員会実施(毎月) ウ)おやつ提供実施(35回) エ)テーマ食「地方の食事」提供実施(6回) ④ ア)浴室改修工事にて、整容設備改修実施(11月完成) ⑤ ア)顧客満足度調査では標準以上の評価を全評価平均で約76%頂く	◎
日中活動プログラムの検討と実施	日中活動の充実 ①入所・通所問わず、日中活動・創作活動を平日に毎日実施 ②レクリエーション機器導入の検討と実施	① ア)余暇活動実施マニュアルの更新 イ)日中活動及び創作活動を毎日実施 ② ア)レクリエーション機器のデモ機の使用と評価調査を実施(4月) イ)レクリエーション機器のデモ機の使用と比較評価(2機種) ウ)レクリエーション機器(JOYSOUND FESTA)の導入(10月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
日中活動に関する研修に参加	日中活動の研究 ①日中活動に関する専門研修、施設見学の実施	① ア) バリアフリー展にて最新レクリエーション機器の情報収集 (4月、10月) イ) 法人内他施設の見学 (7月) 他法人施設の見学 (11月) ウ) 日中活動に関する専門研修受講 (10月、12月)	○
IT、ロボットプロジェクトチームを立上げ、ロボット導入を目指す	職員の身体的な負担を軽減 ①施設内の各部署での活用と効果の検証 ②介護ロボット HAL の回収までに、次期介護ロボットの導入を検討 ③浴室改修及び、シャワー浴槽の導入	① ア) サイバーダイн HAL を新館以外の場所での活用を検証 イ) サイバーダイн HAL を使用している職員による使用時評価を実施 ウ) 新規安全講習の実施 (7月:1名、9月:1名) ② ア) 新型サイバーダイн HAL の体験会実施 (11月) ③ ア) 浴室改修工事実施 (8月~10月) 新浴室使用開始 (11月) イ) シャワー式浴槽の導入に向けハローワークへ助成金申請実施 (8月) 助成金申請アンケート実施 (8月、12月)	○
業務の効率化	ナースコールの IT 化 ①コール対応業務を、効率化し、日中活動等へ人材を確保する	ア) 効率的に PHS 式ナースコールの活用 イ) ナースコールと記録システムへの接続が現在未定	△
	障害支援記録システムの導入 ①記録システムの定着と積極的な活用 ②勤務表作成ソフトを検証し導入を検討	① ア) 記録システムのデータ更新実施 イ) ペーパー管理からデータ管理へ移行出来るものは積極的に移行実施 ② ア) 勤務表作成ソフトのデモを NTT データにて作成 (7月) イ) 法人による勤務表作成ソフトを導入 (12月) 運用開始 (1月)	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
IT、ロボット等に関する情報を地域へ発信	機関誌の発行 ①施設の最新情報を地域へ発信(年2回) ②最新情報をホームページに掲載	① ア)真生園機関紙132号発行(8月)、133号発行(3月) ② ア)ホームページの更新(6月、11月)	◎
エルダー制のシステム見直し	エルダー制を改善 ①更新されたエルダー制を実施	ア)新任職員の習熟状況の振り返り(毎月) イ)習熟度チェック表の見直し	○
全ての職員へ統一した介護基礎研修と介護実務研修の実施	職員研修を企画・実施 ①新任職員へ介護基礎研修を実施 ②介護実務研修を実施 ③理学療法士を確保し充実した研修を実施	① ア)新任職員向け研修の実施(4月、11月、3月) ② ア)長寿の郷PTによる介護基礎研修実施(8月、11月)	◎
		③ ア)理学療法士の確保出来ず イ)長寿の郷の理学療法士による研修実施	△
継続した専門研修への参加	職員の資質向上 ①専門的外部研修の参加と情報共有 ②サービス管理責任者・喀痰吸引等に係わる資格取得 ③法人内研修への参加 ④法人研修助成制度を活用した職員の外部研修・資格取得を奨励	① ア)移乗研修(6月) イ)虐待対応力向上研修(8月) ウ)リフトリーダー研修(9月) エ)口腔ケア研修、フォットケアセミナー(10月) オ)メディカルサポート研修(11月) カ)高次機能障害研修(1月) 1月以降の研修は申し込んだが、中止 キ)研修情報の掲示コーナーの設置と研修情報の更新(6月より開始) ② ア)喀痰吸引研修(7月・8月) イ)喀痰吸引研修指導者研修(5月) ウ)サービス管理責任者研修(8月、9月) ③ ア)ビジネスマナー研修(5月) イ)主任・副主任研修(6月) ウ)一般職員研修(6月) エ)一般職員研修(多職種連携)(7月) ④ ア)利用希望者なし	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
清潔感があり働きやすい服装へ見直す	ユニフォームの改善 ①統一したユニフォームに更新	ア)ユニフォーム委員会実施（毎月） イ)ユニフォームデザイン決定（6月） ウ)ユニフォームサイズ合わせ（9月） エ)制服導入に際しての規約見直し、貸与誓約書作成 オ)名札の作成（12月） カ)ユニフォーム導入（1月）	◎
権利擁護に対する意識向上	利用者の権利擁護を守る ①虐待・不適切ケア評価基準表を使用した、虐待防止研修の実施1回以上/年 ②苦情解決委員会、虐待防止委員会の開催・成年後見制度の推奨 ③虐待防止チェックリストの実施2回/年 ④接遇ハンドブックを活用したグループ学習会の実施（1回/年）	① ア)虐待防止研修実施（9月、1月） イ)虐待防止強化月間実施（6月、9月） ② ア)苦情解決委員会、虐待防止委員会の開催（4月、10月、2月） イ)なんでも相談実施（毎月） ③ ア)虐待防止チェックリスト実施（9月、2月） ④ ア)接遇ハンドブックを朝礼時に読み合わせ（4月、5月、9月、12月、3月）	◎
リスクマネジメント対策の強化	リスクを最小限にする ①リスクマネジメント委員会の開催 ②ヒヤリハットのデータを活用した事故予防	① ア)リスクマネジメント委員会実施（毎月） ② ア)服薬事故ゼロ週間実施（毎月） イ)ヒヤリハット、事故の収集と分析（毎月） ウ)内部研修の実施（7月、2月） エ)ヒヤリハットの書式の見直し	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
管理医師との協働	<p>衛生管理の継続とフォロー</p> <p>①衛生委員会の開催</p> <p>②職員へのストレスチェックとフォロー（田中医師）</p> <p>③リフレッシュ休暇を含めた5日間の有給取得</p> <p>④残業申請マニュアルを作成し明確化を図る。意味のある残業を確立</p>	<p>① ア)衛生員会の実施（毎月）</p> <p>② ア)ストレスチェック実施（9月～10月）</p> <p>③ ア)有給5日取得調査実施と勤務表へ反映</p> <p>④ ア)ノー残業デーの徹底を実施</p>	○
基本理念とキリスト教福祉を学ぶ	<p>基本理念の理解</p> <p>①地の塩伝道所牧師によるメッセージ（月1回）</p> <p>②基本理念を学び、神戸聖隷の歴史を知る</p> <p>③神戸聖隷ハンドブックのグループ学習会実施（1回/年）</p>	<p>① ア)小西牧師による朝礼メッセージ実施（毎月）</p> <p>② ア)職員アンケート実施し小西牧師による学習会実施（6月、8月、9月、10月）</p> <p>③ ア)神戸聖隷ハンドブック学習会は未実施</p>	○
	<p>キリスト教福祉の理解</p> <p>①キリスト教福祉講座への参加（2名：年3回コース）</p> <p>②キリスト教理念研修に参加（1名）・タイ研修に参加（1名）</p>	<p>① ア)キリスト教福祉講座へ参加（2名/9月、3名/10月） イ)他法人理念研修への参加（1名）</p> <p>② ア)タイ海外研修不参加</p>	○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 和生園
 施設長 松本 雄二

第3期中期計画について全職員で取り組んできた結果、多くの計画についてはほぼ達成できたと自負しておりますが、その一部については未達成となっております。これについては見直しを実施するものや、第4期中期計画に引き継ぐ案件として努力してまいります。

就労継続B型事業では、今年1月に旧ノア・グループの改修工事を済ませ、恵生園より移管された製袋作業を開始いたしました。その作業も年度末には順調な生産が可能となり、次年度の納品を待つばかりとなっております。ただ、2005年2月から受注していた㈱セイバンの肩ベルト加工作業が2020年6月末で終了することとなり、高工賃を確保するためには、それに代わる作業の獲得が喫緊の課題となっております。

就労移行支援事業では、1名が企業に就職するも職場に馴染めず、短期で退職となりました。しかし別の1名が昨年12月より6か月のトライアル雇用となり、次年度の正式雇用に向けて継続支援しています。

共同生活援助（グループホーム）では昨年実施された兵庫県の実地指導監査により、届出上の配置職員が確保できていないことによる過誤請求が判明しました。これについては次年度より返還を行うとともに、毎月の利用者の支援区分や職員の勤務実績についても確実な確認を行い、二度と同様の過誤を発生さないように努めます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出での活動	和生園・GH ①管理組合会議へ出席 ②資源回収への協力 ③行事への積極的な参加	① ア)秋葉台1区、3区地区総会へ出席（4月） イ)秋葉台共用管理組合総会へ出席（4月） ウ)秋葉台夏祭り実行会議へ出席（6・7月） エ)秋葉台3区自治会会議にて、旧ノア・グループ改修工事について説明（9月） ② ア)糸井地区資源回収に協力、車輛貸出し（5・11・2月） ③ ア)朝来市一斉クリーン作戦に併せ、施設周辺の除草作業を実施（6月） イ)秋葉台夏祭りへ出店協力（7月） ウ)朝来市一斉避難訓練へ参加（9月） エ)かき氷機貸出し（弥生が丘・白井地区他） オ)秋葉台大運動会へ祝品の持参（10月） カ)広報誌「かける」を創刊し、地域住民へ配布（12月）	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出での活動	<p>第2和生園</p> <p>④地域清掃活動の継続</p> <p>⑤さくらの苑との交流</p>	<p>④</p> <p>ア)竹田駅周辺～円山川左岸歩道のゴミ拾い実施（1回/週）</p> <p>イ)朝来市一斉クリーン作戦に併せ、施設周辺の除草作業の実施（6月）</p> <p>ウ)施設周辺除草作業を利用者と共に実施（10月）</p> <p>⑤</p> <p>ア)さくらの苑と合同で清掃活動実施（6月）</p>	◎
住民参加型イベントの実施	<p>第2和生園</p> <p>①児童対象イベントの開催</p>	<p>①</p> <p>ア)児童対象イベント/YouTuber 体験を実施し、竹田小学校児童9名参加（8月）</p>	◎
年度目標値の達成	<p>就労継続B型事業</p> <p>①工賃平均月額25,000円</p> <p>②ニーズ把握による利用率向上</p> <p>就労移行支援事業</p> <p>③一般就労移行者2名</p> <p>④定員補充のための関係機関との連携</p> <p>就労定着支援事業</p> <p>⑤交流事業の開催</p> <p>共同生活援助</p> <p>⑥体験利用の促進</p>	<p>①</p> <p>ア)年間工賃配分額：10,475,000円 月平均工賃配分額：872,917円 工賃配分平均月額：22,382円</p> <p>②</p> <p>ア)送迎範囲の拡大による積極的な送迎実施の方針決定（9月）個別送迎開始（10月）</p> <p>イ)就労移行支援事業利用希望者1名と待機目的で就労継続支援B型と契約（11月）</p> <p>③</p> <p>ア)株笠谷スプリングへ1名が就職するも、短期間で退職（就職：5月・退職：9月）</p> <p>イ)シーレックス(株)へ1名がトライアル雇用開始（12月）</p> <p>④</p> <p>ア)就労移行支援利用希望相談延べ2件あり。就労移行支援事業の待機者として、就B利用を提案（11月契約）</p> <p>イ)特別支援学校卒業生1名の進路相談あり。4月受入れの方向で調整（1月）</p> <p>⑤</p> <p>ア)ミラクル・ラボ・サイエンスショーにて和生園、第2和生園利用者と交流（7月）</p> <p>イ)既就職者交流会を開催し5名参加（2月）</p> <p>⑥</p> <p>ア)体験利用者4名が延べ31日間利用。内1名が長期利用開始（3月）</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
魅力のある施設づくり	和生園（就 B） ①作業実績を可視化 第 2 和生園（就 B） ②計画的な余暇活動の企画・実施 第 2 和生園（就労移行） ③生活訓練プログラムの充実による社会生活スキルの向上 GH もみの木・かしの木 ④日帰旅行の実施と全体行事（2 回/年）の実施 利用満足度の把握 ⑤満足度調査の実施	① ア) ㈱セイバン作業、小泉製麻㈱作業実績をグラフ化し、1 週間毎に更新 ② ア) 毎月 1 回、余暇活動の実施 イ) 就 B 一泊旅行は新型コロナウイルス感染症の感染拡大傾向により中止（3 月） ③ ア) 生活学習の一部として SST（社会生活技能訓練）を実施（1 回/月） ④ ア) 花見会を開催し、13 名が参加（4 月） イ) 城崎方面へ日帰旅行を実施し、1 名が参加（7 月） ウ) 豊岡方面への買い物外出を実施し、14 名が参加（8 月） エ) GH 利用者忘年会を実施し、14 名参加（12 月） ⑤ ア) 利用者満足度調査を実施（10 月）	◎
製袋作業を恵生園から移設	和生園 ①ノア 1 階の修繕工事の実施 ②製袋作業の技術の習得 ③製袋機移設の実施	① ア) 長谷川福社会助成金申請（6 月）するも対象外（不採択）との結果（9 月） イ) 改修工事に係る入札を実施し、㈱徳網建設が、10,700 千円で落札（8 月） ウ) アスベスト調査を実施し、10 月より改修工事開始予定 エ) 秋葉台 3 区へ工事説明書を全戸配布（9 月） オ) 改修工事に係る工程会議の開催（9・11・12 月） カ) 改修工事完了による引渡し（1 月） ② ア) フォークリフト免許を 1 名取得（7 月） イ) 週 1 回、恵生園で製袋作業に係る実習を開始（9 月・実習終了 12 月） ウ) 本格的に指定袋の製造を開始（2 月） ③ ア) 製袋機の完全移設完了（1 月）	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
高工賃の維持と安定作業の確保	就労継続支援 B 型 ①年間を通じた受注・生産管理 ②工賃単価交渉の実施 ③販路の拡大 (ベーカリー) ④新製品の開発 (ベーカリー)	① ア) 作業収入/予算対比表を作成し、全職員で作業状況を共有 イ) 豊岡縫製(株)より、新作業を受注 (9 月) するも作業継続を断念 (9 月) ウ) 小泉製麻(株)本社を訪問し、担当者との顔繋ぎと作業見通しについて確認 (9 月) エ) (株)セイバンによる毎月の定期巡回訪問毎に作業見通しについて確認するも返答は曖昧 オ) セイバン作業に伴う繋ぎ作業として、中西化成より作業受注開始 (1 月) カ) セイバンより、6 月末をもって委託加工契約終了が告知 (3 月) キ) 新作業を検討し、福福連携による作業展開の方針を決定 (3 月) ② ア) 肩ベルト加工賃に係る相談を(株)セイバンへ行うが前向きな検討には至らず (8 月) ③ ア) 月 1 回、朝来市内 3 事業所合同による朝来市庁舎内で授産作品を販売 イ) 近障協より永年勤続表彰記念品として授産作品を受注 (11 月) ウ) 但馬まるごと感動市にて販売 (11 月) エ) 精神保健福祉研修会での販売 (11 月) ④ ア) 地酒 (竹泉) を使ったお菓子を検討、試作開始するも製品化には至らず	○
工賃評価システムの改善	就労継続支援 B 型 ①工賃実績との比較検討 ②利用者への納得性のある説明と合意	① ア) 委員会にて検討し職員会議にて進捗を共有 ② ア) 新工賃評価システム説明会を利用者に実施。4 家族が説明会に同席 (1 月) イ) 新工賃評価システムに係る個別面談を実施 (個別面談完了: 3 月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
工賃評価システムの改善	③様式の整備	③ ア) 工賃評価基準に係る方向性を確認し、工賃支払方法の方針を決定 (7月) イ) 新工賃評価システムに係る時給単価を決定し、工賃評価表の作成開始 (3月)	○
障害者就労に関する横断的活動	就労定着支援事業 ①既就職者への余暇活動支援の実施 ②就労移行支援事業および関係機関との連携	① ア) 既就職者を含む利用者10名、職員2名で、大阪方面へ一泊旅行を実施 (9月) イ) 既就職者交流会を開催し5名参加 (2月) ② ア) 南但馬自立支援協議会しごと部会へ参加 (5・6・7・8・9・10月) イ) 就労支援連絡会議へ出席 (6・11月) ウ) 但馬圏域障害者相談支援事業担当者連絡会へ出席 (12・1月) エ) 就労支援ネットワーク会議へ出席 (7・12月)	○
就労移行支援事業のアピール	就労移行支援事業 ①企業訪問による理解の浸透 ②各会合でのPRの場の確立 ③事業所・企業の見学会の検討・実施	① ア) 未実施 ② ア) 南但馬自立支援協議会しごと部会主催/就労アセスメント研修会にてファシリテーターとして協力 (7月) ③ ア) ㈱多田スミスの企業見学を実施し、利用者6名が参加 (6月)	△
将来に繋がる利用者支援の提供	GH もみの木・かしの木 ①必要に応じた成年後見制度の個別説明と選任手続き支援の実施 ②モニタリング時の情報提供 (1回以上/6ヶ月)	① ア) GH利用者1名の任意代理契約及び、任意後見契約目録を法務局へ登記完了 (7月) イ) 和生園利用者の後見制度利用に係る相談があり、間接的支援を実施し保佐人が選任 (8月) ウ) 高齢障害者1名の任意代理契約及び任意後見手続き準備を開始するも手続きは一時停止 ② ア) 6ヶ月毎の定期的なモニタリング実施	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
権利擁護に係るセルフチェック	①虐待防止チェックリストの実施 (2回/年) ②虐待防止基準表・判定表に基づく事例検討会の実施 (1回/年)	ア)虐待防止チェックリストの実施(9・1月) イ)虐待防止委員会を開催し、第三者委員へチェックリストの結果を報告(3月) ② ア)法人内統一事例を基に事例検討会の実施(8月) イ)虐待防止基準・判定表を用いて、実際の利用者支援を基に事例検討を実施(1月)	◎
統一したマニュアル整備と周知	マニュアルの整備 ①各事業標準化マニュアルの整備 ②事業所内マニュアルの計画的な整理・整備・周知 ③マニュアル内容の共有	ア)各事業スタンス原案を、シートに落とし込み ② ア)就労定着支援マニュアルの作成(10月) イ)小泉製麻作業マニュアルの作成(11月) ウ)セイバン作業に係る手順書の更新(11月) ③ ア)毎朝の作業職員打合せにて、作業手順の確認、留意点等について随時、共有	○
知的障害者の正しい理解	専門性の向上 ①専門研修参加と伝達研修による支援への反映 ②障害特性に応じた支援方法の学習会の実施 ③外部講師による学習会の実施 ④先進施設の見学と情報収集の実施	① ア)モチベーション研修へ1名参加(7月)し、伝達研修の実施(8月) イ)感染症対策に係るOFF-JTの実施(11月) ウ)就労支援基礎研修へ1名参加(11・12月) ② ア)実際の利用者支援を基に事例検討を実施(3月) ③ ア)外部講師を迎えての精神障害に係る学習会を実施(10月) イ)GH 世話人を対象に保健師による感染症予防対策学習会の実施(11月) ④ ア)見学先施設(就労関係事業所/社会福祉法人すいせい)とワークセンターひょうごでの見学研修に15名が参加(12月)	◎
ステップアップの為の職員支援	法人内部研修への参加 ①階層別研修への参加	① ア)一般職員研修へ参加(7月) イ)課長研修へ参加(11月) ウ)上級一般職研修へ2名参加(1月)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
ステップアップの 為の職員 支援	②研修計画に沿った 職員の派遣 ③職員募集活動への 協力	② ア)食品表示セミナー1名受講(6月) イ)フォークリフト運転資格取得講習1名受講(7月) ウ)相談支援従事者現認研修1名受講(9月) エ)就労支援セミナーを2名が受講(10月) オ)サービス管理責任者更新研修を2名が受講(2月) ③ ア)京都佛教大学/社会福祉士実習受入れ施設として申出(11月) イ)関西福祉大学ソーシャルワーク実習施設として申出(12月)	◎
法人理念 の浸透	①年間聖句の掲示・共有 ②法人基本理念の唱和 ③法人理念研修への参加 ④理事長講話の実施 (1回/年)	① ア)年間聖句の掲示(4月) イ)毎月曜日の朝礼にて全員で唱和・共有 ② ア)毎月曜日の朝礼にて全員で唱和 イ)1回/月の世話人連絡会の出席者全員で唱和(GH) ウ)毎月の職員会議にて全員で唱和 ③ ア)他法人理念研修2名参加(6月) イ)日本キリスト教社会事業同盟1名参加(6月) ウ)キリスト教福祉基礎研修1名受講(9・10・11月) エ)他法人理念研修に1名が参加(1月) オ)キリスト教社会事業同盟/特別講演会に2名、研修会に1名が参加(2月) ④ ア)年間聖句に係る理事長講話を受講(9月)	◎
理念の利 用者支援 への落とし 込み	内部研修の実施 ①神戸聖隷ハンドブ ックの活用 ②接遇ハンドブック を用いた学習会 (2回/年)	① ア)毎月の職員会議でハンドブックを全員で朗読 ② ア)職員会議の場でハンドブックを全員で輪読(7・1月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
理念の利用者支援への落とし込み	② 接遇ハンドブックを用いた学習会 (2 回/年)	② イ) 接遇アップキャンペーン期間中に、ハンドブック該当箇所を朝礼及び、世話人連絡会で朗読 (9 月) ウ) 接遇アップキャンペーンの実施 (9・12・3 月)	○
ワーク・ライフ・バランスの向上	① 火・木曜日にノー残業デーの実施 ② 全職員の有給休暇平均取得率 50% ③ 労務管理の徹底による時間内業務の完結	① ア) 4 月より週 2 回 (火・木曜日) のノー残業デーを試行し定着 ② ア) 年間有給休暇取得率 84.0% ③ ア) 職員会議や朝礼等により業務効率化の方向性を共有 イ) 実績として昨年度より残業時間は増傾向にあるも、潜在していた残業の顕在化と判断 ウ) 退勤時間と施錠時間に乖離のある職員があることが判明し、対応	○

2. 出来した事案

(1) グループホーム利用者の失踪的行為による朝来警察への届出と対応について (7 月)

グループホームかしの木Ⅱ女性利用者が 5 日間の無断外泊による失踪的行為がありました。失踪的行為が判明した当日の午後には、朝来警察署へ行方不明者としての捜索願を届出ると共に、行政機関 (宝塚市・朝来市) 等へ報告を行いました。失踪的行為から 4 日目の深夜に岡山県瀬戸内市内にて、岡山県青少年健全育成条例違反として警察署へ任意同行を求められ、参考人としての事情聴取の結果、保護に至りました。保護された翌日に迎えに行き、帰ホームしております。

また当月内に 2 度の失踪的行為を含む無断外泊があり、今後も SNS 等を通じた失踪的行為の継続が予見されることから行政機関 (宝塚市) へ対応について相談し、行政機関のバックアップにより、9 月に母親 (伊丹市在住) と生活を行うとの事で退所となりました。

(2) グループホームに係るサービス提供職員 (世話人) 欠如減算の返還について (11 月)

11 月に実施された兵庫県実施指導監査において、2019 年 9 月末まで世話人を 5 : 1 以上配置する事業所として、共同生活援助サービス費を算定していましたが、その人員配置を満たしていない月があることが判明しました。過去 5 年間 (2014 年 10 月～2019 年 9 月) に遡り、上記の人員配置を上回っているか否かを確認し、人員配置を満たしていない期間がある場合は、世話人配置を 6 : 1 とする共同生活援助サービス費との差額分を、サービス提供職員欠如減算分の返還について各市町と協議をするように指導を受けました。精査の結果、上記の配置基準を満たしていない月が 22 ヶ月あることが判明し、返還額が 3,271,230 円となりました。

これを該当市町へ返還計画と共に報告し、2020年4月分より返還を開始し、2021年3月分に返還終了となるように対処を行ないます。

(3) ㈱セイバン/肩ベルト加工委託契約終了に係る告知と、今後の作業方針について（3月）

3月に㈱セイバン姫路工場より工場長、部長の2名が和生園へ来所され、2005年より加工委託を受けていた肩ベルト作業を、2020年6月末を持って加工委託契約を終了するとの告知を受けました。加工委託契約終了の理由として、2020年7月から稼働をさせる新工場に全てを集約させ、内製化を行なう企業方針に加え、新たに設備投資を行なう機械の取扱いが和生園では出来ない旨の判断によるものと説明がありました。

㈱セイバン作業の終了後は、和田山地区施設で発生するゴミ処理委託を作業として取り入れる等、福福連携等を模索しながら、新たな作業確保を進めていきます。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 北但広域療育センター

施設長 久木田 憲彦

法人第3期中期計画から第4期中期計画策定に向け、これまで培ってきたノウハウを継承しながら、新たな取り組みを模索する1年でした。

理念の視点では、定期的に理念の唱和とハンドブックの朗読を行い、浸透に務めましたが、今年度は、小西牧師、水野理事長の想いを直接肌で感じる機会を持つことができ、臨時職員の多い環境下で大きな収穫を得ることができました。

人材育成の視点では、積極的に外部研修へ参加することで職員の定着を目指しましたが、3名が離職することとなり、専門分野の人材確保の困難さを痛感しました。また、これまでほとんどなかった保育実習の受け入れについて、児童発達支援センターの責務ととらえ、3名の受け入れを行いました。

QOLの視点では、トゥモローでの虐待防止判定基準表を用いた事例検討会を行い、人権擁護の意識を高めるとともに、放課後等デイサービスの受け入れ幅を広げ、よりニーズに即した支援の充実を目指しました。また、児童発達支援・放課後等デイサービスでのアンケート調査を実施し、自己評価を踏まえた改善策の検討を行い、法人ホームページで公開しました。

財務の視点では、各事業の月次実績を共有することで、サービスの質の向上と利用の促進を両立するための意識改革を促し、目標以上の成果を見ることができました。

地域の視点では、行政や関係機関と緊密に連携して児童発達支援センターとしての機能を向上させる取り組みを行いました。教育機関や一般住民からの認知について課題が残りました。

人事・労務の視点では、勤怠管理システム導入に伴い、ノー残業デーの励行と適正な超過勤務の実施を目指す、ワークライフバランスの取り組みを行いました。各事業、各職種の業務内容による偏りが顕著となっており、今後の大きな課題といえます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
法人の歴史を学ぶ	①理念勉強会の実施 ②神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア) 小西牧師理念勉強会 (9月) イ) 水野理事長理念講話会 (12月) ② ア) 法人基本理念唱和 (月曜日朝礼時) イ) 神戸聖隷ハンドブック朗読完了 (火曜日朝礼時)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
ご利用者のサービス利用満足度向上	<p>①顧客満足度調査を実施し結果のニーズを共有するとともに、満足度アップのための方策を検討し実施</p> <p>②児童発達支援・放課後等デイに関しては調査結果、検討結果をHPへ公表する</p> <p>③接遇ハンドブックの年1回以上の学習会の実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 第三者評価利用者アンケート実施 (7～8月)</p> <p>イ) 満足度調査実施 (8～9月)</p> <p>ウ) 事業者自己評価実施 (10月)</p> <p>エ) 満足度調査結果改善策検討 (12、1月)</p> <p>②</p> <p>ア) 満足度調査結果ホームページ公開 (2月)</p> <p>③</p> <p>ア) 会議にて接遇ハンドブック輪読完了 (8月～3月)</p>	◎
標準化マニュアルに沿った16項目の施設独自のマニュアル作成	<p>①各事業標準化マニュアルとの整合性を確認</p> <p>②標準化マニュアルの補足マニュアルを作成</p>	<p>①</p> <p>ア) 第2期「虐待防止マニュアル」作成・提出 (6月)</p> <p>イ) 事業ごとのマニュアルデータを集約 (9月)</p> <p>ウ) 「トゥモロー」マニュアルの修正 (11月)</p> <p>②</p> <p>ア) 第1期標準化マニュアル作成 (6月)</p> <p>イ) 個別支援計画策定手順マニュアル改訂 (9月)</p> <p>ウ) 「らみい」防災マニュアル作成 (3月～)</p>	△
本人、保護者向け講座に加え、地域の支援力の向上のための講座を開催	<p>①保護者向け講座の実施</p> <p>②思春期向け講座の実施</p> <p>③関係機関向け講座の実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 虹の会（保護者向け学習会） (10回：5月～3月)</p> <p>②</p> <p>ア) 計画段階で、新型コロナ感染防止の観点で未実施</p> <p>③</p> <p>ア) ASD支援講座 (8回：6～2月)</p> <p>イ) ヘルパー研修会 (7月)</p> <p>ウ) 地域支援者研修会 (4回：1・2月)</p>	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
重症心身障害児者に対するコミュニケーションの充実	①理学療法士、作業療法士の研修参加 ②視線入力装置の活用による意思決定支援の促進	① ア) 福祉機器展示会 (PT、OT : 6 月) イ) 日本小児理学療法学会学術大会 (PT : 11 月) ウ) 地域ケア研究会発表 (PT、OT : 1 月) エ) 療育研修会 (PT、ST : 1 月) ② ア) 情報収集に留まり、実践には至っておらず未実施	△
経費を削減する	①経費削減を検討する委員会を設置 ②経費削減に向け取り組みを検討し実施	① ア) 経費削減委員会を設置 イ) 水道使用量増加の状況確認 (10 月) ② ア) 水漏れ調査の実施 (12 月) イ) 漏水工事実施し復旧 (1 月) ウ) 新型コロナによる製品不足のため使用量削減の周知・実施	×
ノー残業デーの継続実施	①毎水曜日、朝礼にて周知	ア) 業務の都合上水曜日から金曜日に変更 (6 月) イ) 業務の都合上金曜日から木曜日に変更 (7 月～3 月)	○
サービス残業ゼロを目指す	①超過勤務命令申請書の事前届け出がない場合は定時退社の厳守徹底	ア) 勤怠システム導入に伴い、119 号通知に基づく資料配布し徹底を促す イ) 事後申請是正への取組み (毎月)	△
トゥモロー放課後等デイサービス受け入れ拡充	①療法士個別枠を中学生から高校生までへ拡大 ②送迎対象者を一部医療的ケア児まで拡大	① ア) 拡大後、2 名が利用中 ② ア) 胃瘻の方の送迎開始 (5 月～) イ) 受入れ曜日を 1 日増加 (11 月～) ウ) 送迎運転員採用し支援充実 (2 月)	◎
すまいる低年齢枠の複数回実施	①年度当初から在宅児のグループを複数回に設定	ア) 週 3 回の実施 (4 月～) イ) 利用ニーズにより週 2 回に変更 (5 月～) ウ) 毎週水曜日に給食を開始 (6 月～)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
らみいで の魅力的 なプログ ラムを検 討	①3年生以上も対象に魅 力的なプログラムを実 施	ア) 飯盒炊爨 (5月) イ) カヌー体験 (6月) ウ) ランチバイキング (7月) エ) ランプ制作 (8月) オ) ぶどう狩り (9月) カ) 風まつり展示品作成 (10月) キ) 買い物体験プログラム (11月) ク) 版画年賀状制作 (12月) ケ) スケート体験 (1月) コ) ボウリング体験 (2月) カ) リトミック、苺大福作り (3月)	◎
毎月の部 会議にて 経営状況 について 報告	①部会議にて収支報告 ②部会議を受け各部署内 で毎月確認 ③改善策を検討	① ア) わかりやすい新様式で実施 ② ア) 各部署内でも確認 ③ ア) 今年度より職制会を開催し、改善策 を検討	○
事業内容 の継続的 な検討と 地域への PR	①パンフレットを作成 し、配布することで地 域に具体的な事業内容 を周知	ア) 新たなパンフレット作成に至らず	×
地域との 連携・ネッ トワーク へ積極的 に参加	①豊岡市ほっとかへんネ ットへ参加 ②豊岡市、香美町、新温 泉町、各市町の自立支 援協議会へ参加 ③圏域会議へ参加	① ア) ほっとかへんネットへ参加 (3回:4、6、8月) イ) ほっとかへんネットコアメンバー会 議 (3回:9~1月) ② ア) ぴあほくたん担当者が各市町運営会 議、実務者会議へ参加 (毎月) イ) クローバー相談員が各市町全体会議 へ参加 ③ ア) ぴあほくたん、クローバー相談支援 員が但馬圏域障害者相談支援事業 担当者連絡会へ参加 (毎月)	○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 エスポワールこじか
 施設長 伊崎 辰夫

エスポワールこじか中期事業目標

地域に必要とされる資源に（物も人も）なる

2017 年度から取り組みました第 3 期中期計画が終了しました。3 か年計画・今年度計画共に取り組んだ内容は概ね達成できました。中期計画最後の年に計画した内容の中から主なものについてご報告します。

まず、上半期でも報告しましたが、数年前から 2 市 1 町と協議してきました「児童発達支援センターへの移行」は兵庫県障害福祉課による「市町への設置は義務化ではない」との回答により年度内の設置は見送りとなりました。

次に 2 回目の第三者評価を受審しました。前回は評価点数にこだわり、高評価へのアピール度を求めていましたが、今回はよりよくするために何うという姿勢を持って助言を受け入れることが出来た気がします。まだまだ取り組まなければいけないことは多いですが、保護者への調査アンケートから多くの感謝の言葉を見ることが出来たことは今後の励みとなります。

84%の目標利用率達成は、小学 1 年生の利用が予想外に少なく始まりましたが、幼児の契約を多くすることで上半期 78%を下期は 93%まで伸ばすことが出来、結果的に 85%と目標を達成することが出来ました。

最後に第 3 期計画当初から課題としていた空調設備の改修工事もやっと完了しました。保護者・職員も冬になると寒くてストーブ、電気絨毯で対応していましたが、4 か所のエアコンを交換、子どもがよくつまずいていたマットも交換、外壁改修とシンボリックな楽しい壁画の塗り直し、正面の看板のリニューアルと行い新しくしていただきました。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
学習会の実施	①ニーズに合わせ実施（年 5 回）	ア) 4 回実施 保護者延べ 25 名参加 メンター相談会 2 回、「療育の意義と役割」「子育ての工夫」 イ) 3 回実施 保護者延べ 20 名参加 メンター相談会、「言葉の発達について」「就園就学前に準備すること」	◎
グループ勉強会の実施	①療育グループごとの保護者勉強会の実施	ア) 2 グループ 6 回実施 イ) 2 グループ 4 回実施 「視覚支援グッズ作成、使用しての感想」「サポートファイル作成」「家庭での困りごとの相談」「生活リズムについて」	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
ステップアップマニュアルの作成	①認知面（個別学習：ワーク）のマニュアル作成継続	ア) ワーク課題編マニュアル作成 イ) マニュアルを使用するも検証は未実施	△
マニュアルの見直し	①標準マニュアルの作成	ア) 防犯（不審者侵入）マニュアル通所用案をQOLへ提出 イ) 法人標準マニュアルを整備	△
第三者評価受講	①第三者評価の受審	ア) 実施手順打合せ（6月） イ) 保護者向けアンケート配布46名分 書面調査資料送等提出（9月） ウ) 10月実地受審 エ) 1月施設報告会実施 オ) 3月WAMネット評価結果公表	◎
保護者満足度アンケートの実施	①9月調査を実施 12月ホームページ公表	ア) 54名の保護者にアンケート実施（9月） イ) 49家族回収（回収率92%）後対策会議 ウ) 12月法人ホームページ上に結果公表	◎
担当制と保護者同伴の個別療育の実施	①担当制の実施・保護者同伴の実施を継続	ア) 担当制と保護者同伴は、契約時に説明しており、継続実施 イ) 担当制及び保護者同伴療育継続実施	◎
相談体制の充実	①療育活動後に食事や排泄への助言・相談等の時間確保 ②医師による療育相談 ③専門家による様々な困り感に対する個別相談実地 ④療育終了児童・保護者への相談窓口を設置	① ア) 食事指導を含めた相談。延べ13回（上期） イ) 下期4回 ② ア) 医師による療育相談5回実施（上期） イ) 下期6回 ③ ア) 困り感への相談。電話16回（上期）。療育中は随時対応 イ) 電話12回（下期）。療育中は随時対応 ④ ア) 第4月曜日に相談日を設定 利用はなし。（設定されている安心感） イ) 問い合わせのみで利用0人	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
外壁改修と空調設備改修の実施	①改修時期の協議 ②外壁、空調改修	①②共通 ア)5月に床暖房調査来園、6月・7月運営委員会にて市の協議遅れ着工遅れの報告。 イ)8月養父市より入札審査会延滞しており着工が1月～完了が3月初めに変更。また床暖房は費用合わず見送り。 ウ)1月入札、2月工事開始 3月完了検査 外壁、壁画、エアコン5台、床マット	◎
オープン療育の実施	①オープン療育を年2回以上実施	ア)8月に市町保健師へ参加者の情報収集 イ)保護者都合にて8月30日、9月12日の2回実施 4名参加 ウ)4名とも利用希望 エ)2月各市町担当者と次年度打ち合わせ	◎
ホームページの活用	①ホームページの内容の見直しと定期的更新	ア)保護者と関係機関に送っている「こじか便り」を4月から毎月アップ イ)「こじか便り」毎月アップ継続 アンケート結果等の公表実施	◎
園校訪問及び参観の実施	①保護者の同意を得て、在籍園校への職員訪問 ②在籍園校の先生の参観受け入れ	① ア)延べ19カ所(上期)の園校へ職員訪問し連携 イ)延べ15カ所(下期) ② ア)延べ8カ所(上期)の園校先生が来園し連携 イ)延べ3カ所(下期)	◎

<p>地域子育て支援への職員派遣及び地域協議会・委員会等への参画</p>	<p>①のびのび教室、家庭療育支援講座への派遣実施 ②自立支援協議会、福祉計画策定会議等への参画</p>	<p>① ア) 朝来市のびのび教室へ2回派遣(保育士2名、ST1名) イ) 朝来市「適正就学のための相談会」に7回出席 ウ) 朝来市のびのび教室へ4回派遣 ② ア) 発達障害児支援連絡会、南但馬自立支援協議会専門部会、香美町障害者自立支援会議会(全体、専門部会)、養父市社会福祉協議会評議員に参画 イ) 下期も継続して参画</p>	<p>◎</p>
<p>実行計画</p>	<p>2019年度計画</p>	<p>実施状況</p>	<p>達成度</p>
<p>施設内研修(ビデオ研修、反省会)の実施と見直し</p>	<p>①療育活動を撮影し、自らの実践の振り返りと特性を理解(各職員2回) ②虐待防止チェックリスト実施及び虐待防止判定基準事例検討会の実施</p>	<p>① ア) ビデオ研修5回実施 イ) ビデオ研修5回実施 ② ア) 虐待防止判定基準事例検討会(7月) イ) 虐待防止チェックリスト実施(9月) ウ) 虐待防止施設事例検討会(11月) エ) 虐待防止チェックリスト実施(2月)</p>	<p>◎</p>
<p>研修の奨励</p>	<p>①発達障害実務者養成研修、強度行動障害支援者養成研修、児童発達支援管理責任者研修受講</p>	<p>ア) 発達障害実務者養成研修1名受講 児童発達支援管理責任者研修1名受講 ・強度行動障害支援者養成研修申込間に合わず受講できず イ) サビ児管更新研修1名受講、1名延期</p>	<p>○</p>
<p>新事業の検討</p>	<p>①児童発達支援センター設置の方向性を確認し、市町行政及び関係機関と協議・実施</p>	<p>ア) 2市1町福祉課長へセンター事業内容及び設置条件等の説明(6月) イ) センター化を進めるにあたって2市1町の費用負担増額を了承(7月) ウ) 県福祉課へ確認「設置は義務化ではない」との回答。次年度設置でなく、市町として協議継続を決定(9月) エ) 下期特記無し</p>	<p>◎</p>

保護者希望の時間帯確保	①保護者の希望時間帯確保のため面談実施	ア)保護者送迎が基本となる為、利用開始時に面談し、ほぼ希望に沿った時間帯にて提供 イ)下期も希望に沿った時間帯を提供	◎
欠席時の振替確保	①振替率 30% (150/年回) ②利用率 84%達成	① ア)27% (41回実施) イ)30% (68回実施) 年間 109回実施 振替率 29% ② ア)77.6% イ)93.0% 年間 85%達成	◎
計画相談件数の確保	①サービス計画、継続サービス利用計画を 220 件作成	ア)サービス計画 44 件。継続計画 94 件。 イ)サービス計画 37 件。継続計画 98 件。 年間 271 件作成	◎
実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
朝礼での聖書の朗読、基本理念等の唱和	①聖書の朗読と基本理念の唱和を継続する	ア)聖書朗読「ルカによる福音書 4 章 31 節」より開始 朝礼時「基本理念、施設方針、平和を求める祈り」の唱和継続 イ)聖書朗読朝礼時継続「ヨハネによる福音書 12 章 26 節」まで	◎
キリスト教福祉の勉強会実施	①牧師によるキリスト教福祉及び理念の勉強会実施。	ア)施設長による理念勉強会実施 (6 月) イ)但馬地区キリスト教福祉講座不参加 ウ)小西牧師による理念勉強会 (11 月)	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖生園
施設長 西郷 昌一

第3期中期計画の最終年を迎え、予定がすべて履行できるよう歩んできましたが、一部では不十分な結果になりました。今後、分析し必要、不必要も考えつつ、必要なものについては実行できるようにしていきます。

第3期中計のテーマの中で、今年度の大きな動きとして、従たる事業所せきもりの移転と生活介護単独事業への転換が挙げられます。

まず、従たる事業所で使用していた横尾の賃貸物件は、2年という有期限であったため、新たな物件を前年度後半から探し始めました。しかし、活動場所として、ふさわしい場所がなかなか与えられませんでした。退去期限が迫る中、本園から600m(歩ける範囲)の距離に適切な物件が見つかり、胸をなでおろしましたが、設備の不備や、施設として使用するにあたって、建築基準法との整合性、消防設備の整備など、課題も多く困難を極めました。課題は下半期にまでかかりましたが、ようやく解決し、落ち着いて活動することが出来るようになりました。

次に生活介護への転換ですが、ご利用者本人やご家族へは、第3期中期計画が始まったときから、連絡、相談してきました。当初は、就労継続支援B型を継続利用したい方が多くあるのではと考え、新規事業所(就労継続支援B型)を立ち上げることも含め考えてきましたが、聞き取りやアンケートの結果、継続利用希望者が4名でしたので、新規事業所の立ち上げはせず、法人内就労継続支援B型を運営している施設を紹介し、体験実習を含め、支援してきました。結果、4名全員の移動先が決定し、3月中旬に3名、2020年4月1日付で1名が移籍することが出来ました。また、就労支援事業終了と生活介護事業の定員増の手続きも無事終了し、4月1日で増員を含めた生活事業だけの運営に移行できることになりました。

地域交流において、友が丘自治会の夏祭り(ふる里祭り)は例年通り、暑い中にも安定した気候で参加することが出来ましたが、「おいでやすカーニバル」は台風の影響により、悪天候で中止になりました。神戸聖生園が開設以来、日程の変更などがあつた中でも、必ず実行されてきた地域交流の場でありましたが残念な結果となりました。参加するものの安全などを考えると仕方のないところでありました。

しかしその後、神戸愛生園を中心にミニバザーが開催され、僅かですが、地域交流ができたことは感謝です。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域行事参加計画の策定と実施（職員・利用者参加）	①情報収集 ②半期ごとに見直し職員主体で顔づくり ③利用者による自治会館・高齢者施設への訪問	① ア)地域の行事（ふるさとまつり、スマシアの日程の情報を収集（4月） イ)ふるさとまつり参加（8月） ウ)すましあ会議出席（6月、10月） エ)すましあ参加（11月） ② ア)主に清掃業務について打ち合わせ実施（5月、6月、7月、10月、11月） イ)すましあ会議に出席（6月） ③ ア)寿喫茶、太極拳教室訪問（毎月、3月除く） イ)高齢ホーム訪問未達成	○
地域住民及び自治会との交流・情報交換（顔づくり）	①地域ニーズの聞き取り ②対応を検討	① ア)C棟団地の清掃の終了打診受領（5月） イ)竜が台7丁目ごみステーション清掃の依頼を受領（5月） ② ア)C棟団地清掃終了を確認（5月） イ)竜が台7丁目ごみステーション清掃をせいいいやさかだいと共同受注（5月）	◎
文化教室や住民の方の技能を生かした交流機会を創出	①交流機会の検討 ②交流提案	① ア)太極拳教室について検討（4月） イ)3B体操について検討（4月）以後実施 ② ア)太極拳について教室訪問と講師来所を提案（4月のみ）5月以降は自治会館訪問で実施 イ)3B体操について講師来所を提案（4月）来所実施（3月を除く毎月）	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
利用者受診の付添いと医療機関との連携	①利用者の関わっている病院リストアップ ②近隣の病院マップ作成 ③本人・ご家族に受診付添いを依頼 ④付添いの継続、主治医との関係を構築し支援の共有を図る	① ア) 看護師と医療情報の確認を実施 (4月) ② ア) 作成できず。 ③ ア) 受診付き添いを依頼 (5月) ④ ア) 未実施。	△
災害種別に応じた準備及びマニュアル作成	①地震防災マニュアル作成 ②津波防災マニュアル作成 ③地震防災訓練 ④受入れマニュアル素案・検証 ⑤備蓄品リスト作成・予算	① ア) 作成済み (5月) ② ア) 不必要 ③ ア) 実施(11月) ④ ア) 受け入れ数も20名から3名へ減 ⑤ ア) リストを作成し、購入。	○
業務の向上と効率化	①業務見直し・検討 ②改善業務の実施、反省と改善 ③収入と支出の毎月の報告と分析 ④生活介護新規利用者募集の為、各地域生活支援センター、特別支援学校への広報を進める。	① ア) マイプログラムの充実を実施 イ) 職員の休憩時間の確保協議(5月) ウ) 勤怠システム導入 ② ア) 支援会議で見直し実施 ア) 職制会で分析も実施後職員会議で周知 ④ ア) 現利用者の意向を再調査の結果、他施設への移動者が少なく、新たな入所者の募集中止	○
サービスの創造と提供	①ニーズ調査 ②サービスとプログラムの検討 ③満足度調査の実施	① ア) 定期のモニタリング時及び書類によるアンケートを実施 (5月～7月、1月～3月) ② ア) 支援手順書作成 (10月) ③ ア) 実施 (10月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
目標設定と課題の可視化と分析	① 4 半期毎取り組みと改善報告 ②課題・達成内容の掲示	① ア) 現状把握と改善策を職制会で検討 ② ア) 口頭伝達のみ実施	◎
各月毎の収支分析の実施と報告	①取り組みの実施 ②3 ヶ月毎にサビ管も入り意識付ける	① ア) 土曜、祝日での1日稼働営業を継続 イ) 祝日、土曜の参加を促す。 ② ア) 毎月、数字の確認と意識付け実施	◎
研修活用による接遇力の向上	①電話対応・挨拶・受容等接遇力向上 ②テーマ・講師の調整 ③研修① ④研修② ⑤新規職員研修プログラム作成 ⑥障害特性研修プログラム作成	① ア) 実施できず。 ② ア) 実施できず。 ③ ア) 全体で実施できず。新採用職員には個別で実施。 ④ ア) 全体で実施できず。新採用職員には個別で実施。 ⑤ ア) プログラムを作成し、実施した。 ⑥ ア) 検討中	△
各マニュアル作成とPDCAサイクルによる運用と管理	①マニュアル作成 ②整備状況の確認と周知 ③マニュアル改善点を検証	① ア) 法人発行のパンフレット使用。 ② ア) 下半期に実施 ③ ア) 未実施	△
移行時期の周知と移行先の確保	①利用者・家族への周知、意向確認、説明	ア) 家族会例会、モニタリング、書面で説明 イ) モニタリングで確認実施 ウ) 就労継続支援 B 型希望継続希望者へは法人内施設を紹介し、体験利用実施の上、転所完了	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
対象者への支援とサービス提供	①アンケート実施 ②メニュー・仕組み検討 ③講師調整・予算化	① ア) 意向調査を実施 ② ア) 実施できず。 ③ ア) 実施できず。	×
個別給食マニュアル作成・配食サービスの準備	①個別給食アンケート ②調理課題検討	① ア) 嗜好調査実施。 ② ア) 給食委員会開催 (11 月)	○
聖生園の広報誌発行	①年間テーマ作成 ②地域情報・トピック等の収集と発信 ③広報誌発行	① ア) {REBORN} と決定 ② ア) 友が丘自治会館へ出向き情報収集実施 ③ ア) 予定通り発行 (予定通り実施)	○
不動産 (賃貸・土地) 情報と資金調整	①賃貸物件確保 ②永続物件の検討	① ア) 賃貸物件を確保、引っ越しを実施 ② ア) 終の棲家を確保	◎
研修参加と資格の修得 (サビ管・防火管理者他)	①申請、受講、資格取得	ア) サビ管受講者を決定し、受講中 イ) 更新研修受講。	◎
業務内容の省力化	①書類の見直しと改善 ②試行・改善・採用 ③その他業務の見直し	① ア) 支援課職制で見直しと検討を実施。 ② ア) 個別支援計画書において実施。 ③ ア) 未実施	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
人事考課と育成システム（OJT）の活用	①人事考課取組目標設定 ②フィードバック ③OJT 担当による職員支援 ④半期毎振り返り ⑤新職員研修プログラム作成	① ア) 全職員対象に設定実施 ② ア) 実施不十分 ③ ア) 個々に実施 ④ ④ ア) 実施(10月) ⑤ ア) 作成済み	◎
専門家に相談	①利用者支援の課題検討 ②愛生園 P T への相談継続 ③専門家へ相談と課題解決	① ア) 毎月支援会議で実施 ② ア) 対象利用者不在で未実施 ③ ア) 研修・受診付き添いを実施	◎
研修機会の充実	①基本理念唱和の継続 ②歴史資料館見学 ③キリスト教福祉講座	① ア) 朝礼で実施 ② ア) 未実施 ③ ア) 基本理念部会主催の研修に参加	○
人権擁護（成年後見制度）・虐待防止の実践	①理念について考える ②人権擁護・虐待防止研修（2/年） ③不適切対応研修	① ア) ハンドブックを読み合わせ実施 ② ア) 実施（3月） ③ ア) 実施（3月）	○

2. 出来た事案
特にありません

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームたいのはた東
 管理者 西郷 昌一

開所から3年が過ぎ、入居しておられる利用者様が安心、安定して生活できるようにご家庭や関係機関との連携を強化し、また、地域の一員としての役割を担いつつ、週末にもホームがご利用できる環境を整えてきました。たいのはた東地区の自治会及びホーム周辺にお住まいの方々との関係性に重点を置いてきました。これにより、開設以来の大きなテーマの一つであった、地域との関係は安定しており、お互いに助け合える関係に成りつつあります。また、支援力の強化のため、支援者会議の充実や、支援者、サービス管理責任者、バックアップ施設との連携強化を進めてきました。

また、体験利用の実施については、目標値に足りませんでした。多くの方々の利用していただきました。しかし、体験をすると言うよりショートステイ的な利用も見受けられ、今後の在り方に考えさせられるものがありました。年度後半には建物の修繕が必要な個所が何か所か発見され、急ぎで補修を行いました。下半期に利用者が入院されたことにより、予定されていた利用数に及びませんでした。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
職員体制について	①職員体制（夜間支援体制）の継続 ②職員研修・会議の定期的開催	① ア)夜勤者を毎日配置した。 ② ア)職員研修 イ)職員会議 毎月、サビ管の司会で実施した。	○
体験型利用者の受入れ拡大	①15日／月の提供	ア)4月＝15日、5月＝11日、6月＝12日 7月＝12日、8月＝7日、9月＝18日 10月＝12日、11月＝11日、 12月＝13日 1月＝11日、2月＝12日、 3月＝13日 平均 12.3日	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第3金)の実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施	① ア) マニュアルの作成検討 ② ア) 虐待研修実施(3月) イ) スタッフ会議実施(毎月) ③ ア) スタッフ会議内で実施 ④ ア) 満足度調査を実施	○
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添い継続 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	① ア) 受診付き添い実施 ② ア) 受診付き添い実施 ③ ア) 必要に応じて実施	◎
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期訪問・顔の見える支援(2回/月) ②地域の方たちとの関係構築、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	① ア) 非定期で月2~3回実施 ② ア) 地区の清掃等に参加 ③ ア) 対応必要時に即座に実施 ④ ア) 避難訓練未実施 避難経路の掲示実施	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①利用率 83%→85%維持を目指す ②体験型利用者を含めた利用率は 100%を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④365日開所を目指す ⑤体験利用者の受入れ拡大	① ア) 利用率 85.0%達成 ② ア) 利用率平均 93.9%につき未達成。 但し、4月、6月、7月、9月、3月は達成 ③ ア) 協力依頼、短縮実施 ④ ア) 上半期全日開所未実施 ⑤ ア) 広報は実施。利用は未達成	◎
コスト削減	①消耗品や調味料などの無駄を省く努力 ②水道光熱費等の節約 ③残業等の見直し	① ア) 職員会議で伝えた。取り組み実施 ② イ) 取り組み実施 ③ ウ) 取り組み実施	◎
支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材（知人等）情報の収集と確保	① ア) 未実施 ② イ) 必要に応じ収集確保	△
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員への支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理） ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ③環境美化・除草の実施（毎月）	① ア) 体制継続実施 ② ア) マニュアル作成の着手実施 ③ ア) PC導入・操作訓練開始 ④ ア) 除草実施	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会の開催(年2回) ③定期的なミーティングの実施(毎月第3金14:00~) ④バックアップ職員と情報共有	① ア) 1名参加 ② ア) 実施できず ③ ア) ミーティング実施(毎月) ④ ア) ミーティング時に実施	○
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・定期的な支援達成の確認 ②世話人・サポ管・職制を含めたケア会議の実施 ③家庭訪問実施(モニタリング・個別支援計画説明) ④ホーム支援に関わるマニュアルの整備・充実 ⑤利用者支援に必要な調整会議の実施 ⑥日中活動先の定期訪問(2回/年) ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックの実施	① ア) 全職員と共有実施 ② ア) 未実施 ③ ア) 一部実施 ④ ア) 作成済 ⑤ ア) 個別で実施 ⑥ ア) 未実施(必要時に訪問実施) ⑦ ア) 定期チェック実施	△
帰省状況の把握・勤務体制の確立とホーム利用日数の増加	①週末帰省、夏季・年末年始の帰省状況の把握 ②家族との定期的な連絡の実施 ③日数増加に必要な支援の実施	① ア) 完全把握実施 ② ア) 一部実施 ③ ウ) 関係機関と連絡調整実施	○
余暇の提供支援	①季節に応じたイベントの提供(バーベキュー・旅行・クリスマス会・新年会など)と提示	① ア) 年間計画により実施	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームしおや
 グループホームせいれいやまで
 管理者 西郷 昌一

グループホームせいれいやまで（旧グループホームしおや）は、今年度の最大の課題である事業所の移転及びそれに関係する名称、定員の変更を7月に実施しました。台風シーズンを控え、避難勧告など自然災害に憂慮することなく安心、快適に生活ができる拠点が与えられました。今回の建物は、建て貸し方式による賃貸物件で当初よりグループホーム用に設計されたものですので、機能的にも優れており、利用者の皆様により安心してお過ごししていただくことができます。しかしながら、当初の予定と違い、利用者（定員）5名でスタートすることになりました。人材確保が出来なかったことによります。2ヵ月後には、新規の職員を採用することが出来、予定されていた利用者7名に増員することが出来ました。2020年度にはさらに利用定員を増やし、10名にする予定ですが、職員の確保が難しく、引き続き定員数の7名でスタートすることを余儀なくされています。2020年度中に支援員の確保をし、本来予定の10名定員になれるよう次年度に期待します。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
職員体制（夜間支援体制）について	①基本理念周知のために会議での唱和 ①支援体制の継続 ②支援力の強化（研修参加・会議の実施）	① ア)職員会議で実施（毎月） ② ア)計画的に実施（毎日） ③ ア)職員会議実施（毎月） イ)研修は下半期に実施	○
建物の移転に伴う諸手続きと家主との協力の協力	①移転に伴う諸手続きのスムーズな実施 ②新たな物件の借り受け	① ア)7月初旬に明け渡し達成 ② ア)7月初旬に借り受け達成	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施	① ア) ミーティングで実施 ② ア) 研修未実施。振り返り実施 ③ ア) 職員会議の中で実施。(12月) ④ ア) 未実施	△
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	① ア) 定期健診未実施(日中施設で実施) ② ア) 必要に応じて実施 ③ ア) 必要に応じて実施	○
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期的訪問・顔の見える支援(2回/月の実施) ②地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	① ア) 非定期で月2~3回実施 ② ア) 地域への挨拶実施 イ) 交流の在り方について検討 ウ) 清掃当番については、免除。 ③ ア) 対応必要時に即座に実施 ④ ア) 避難訓練実施 イ) 避難経路の掲示実施	○
利用率の確保	①利用率 94%を目指す ②家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施継続 ③365日開所を目指す	① ア) 利用率 87.33%で未達成 ② イ) 協力依頼、短縮実施 ③ ウ) 365日開所実施	△
支援者の安定的雇用	①利用者増員に伴う新たな人材の確保 ②職員の給与・残業等の検証とコストカット	① ア) 9月上旬に1人採用 ② ア) 適切な働き方について検証実施	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理）継続 ③環境美化・除草の実施（年2回）	① ア) 体制継続実施 ② ア) マニュアル作成の着手実施 ③ ア) 除草実施	○
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③世話人・支援員とのミーティング継続 ④バックアップ職員と情報共有継続	① ア) 1名参加 ② ア) 家族会未実施 ③ ア) ミーティング実施（毎月） ④ ア) ミーティング時に実施	○
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・定期的な支援達成の確認 ②世話人・サピ管・職制を含めたケア会議の実施 ③家庭訪問実施（モニタリング・個別支援計画説明） ④ホームの支援に関わるマニュアルの整備・充実 ⑤利用者支援に必要な調整会議の実施 ⑥日中活動先の定期訪問（2回/年） ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックの実施継続	① ア) 全職員と共有実施 ② ア) 未実施 ③ ア) 一部実施 ④ ア) 作成済 ⑤ ア) 個別で実施 ⑥ ア) 随時実施。	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
帰省状況の把握とホーム利用日数増加	①週末帰省、夏季・年末年始の帰省状況の把握 ②家族との定期的な連絡の実施 ③日数増加に必要な支援の実施	① ア) 完全把握実施 ② ア) 一部実施 ③ ア) 関係機関と連絡調整実施	○
余暇の提供支援	①季節に応じたイベントの提供（ハーベキュー・旅行・クリスマス会・新年会など）を継続	① ア) 年間計画により実施	○

2. 出来した事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸愛生園
施設長 加藤 航

昨年度に引き続き人材不足に悩まされた 1 年でした。特に入所事業の交替制勤務職員の不足が顕著な中、特定のご利用者に数名の職員しか支援に入れない状況も加わり、非定型の勤務シフトを組むなど対応しました。その様な中、通所スタッフの応援体制を組んでおりましたが、年末に退職が相次ぎ、パート職員を増員するなどして何とか凌ぐように一年をやり過ごしました。医務も胃瘻造設利用者の増加により、看護師の 1 名増員も目指しておりましたが最後までかないませんでした。

一方で、長年望まれる支援を提供できず、ご迷惑をおかけしていた特定のご利用者の地域移行に目途が立った事は非常に大きな出来事でした。次年度は移行に向けた詰めの支援に加え、これまでの対応を振り返りつつ、施設としてあるべき姿を再確認していきたいと思えます。

また昨年度マッチングした EPA 候補生（インドネシア人女性 2 名）が 12 月より着任いたしました。真面目で前向きな姿勢で取り組まれ、施設に新しい風が吹き込んできました。YMCA の日本語教育も終え、本格的な就業を開始しました。法人としても初の取り組みであり、丁寧に取り組んで参ります。

年度末より、新型コロナウイルスへの対応が必要となってきました。ご利用者、職員の体調が守られるよう、また万が一の際に対応できるよう取り組んで参ります。

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
フェイスブックの実施・運用	①フェイスブックの実施・運用 ②ホームページの更新	① ア)施設 FB (4、5、6、7、8、9、10、11、12、1、2 月) イ)法人 FB (5、6、7、9、10、11、1、2、3 月) ②法人の地域貢献部会と連動して更新	◎
視覚・聴覚支援体制加算取得	①加算取得に必要な資格取得 ②障害者手帳の書き換え支援	①②職員不足のため付添が困難であり、且つ対象者の高齢化等により、維持が難しいと考え、取り組みを中止	×
業務と人員配置の見直し	①支援課新勤務シフト検討 ②2017 年度業務見直しによる業務改善策の定着と安定	① ア)通所に短期入所係を設置、一部移行を実施しました。夜勤 3 名体制については人員不足のため、未達成 ② ア)支援記録ソフト(ほのぼの)の入力マニュアルの共有、アクシデントレポートのシステム移行と全職員へ ID 付与	○ ◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
短期入所登録者を増やす	①利用ニーズの把握 ②登録数増による利用日のシミュレーション	①②短期入所の受け入れを積極的に行い、収入アップに貢献しましたが、職員不足のため、8月より受け入れ制限を開始	○
栄養マネジメント加算の取得	①加算の取得	ア) 栄養ケアマネジメントの継続・実施 イ) 誤嚥予防のため嚥下調整食導入に向けた取り組みを実施 ・勉強会（6、7月） ・調理実習（7、8、9、10、11月） ・試食会（12、1月）	◎
接遇向上委員会の活動継続と更なる活発化	①効果的な接遇向上の継続実践	ア) 全体職員会議にて、虐待防止研修実施 イ) 毎月の接遇強化週間を実施 ウ) 接遇アップキャンペーン実施（6、9、12、3月）	◎
	①満足度調査実施	ア) 実施	◎
中堅層の指導力向上	①リーダー勉強会の開催・振り返り	ア) リーダー中心に現場の意見集約と業務の見直し実施	◎
I S Oシステムの定着	①内部監査・更新審査の実施	ア) 7月、3月に内部監査実施	◎
施設の建替え	①建て替え委員会の発足、設計事務所との協議	ア) 8月、1月に黒田建築設計事務所と協議	◎
キャリアパス制度・内部研修制度の運用	①キャリアパスモデル試行とそれに基づいた内部研修制度の実施	ア) 園内独自研修実施（4/4） イ) 新任職員研修実施（4/14, 4/28） ウ) 新任職員研修向けの福祉機器研修実施（8/11）	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
エルダー制度の継続	①エルダー制度の継続・見直し	ア)エルダー会議実施(5月) イ)振り返り、フォローは個別実施 見直しには至らず	○
喀痰吸引研修修了者の増員	①研修の受講・修了(2~3名)	ア)昨年度分実地研修実施(4/4、29、30) イ)今年度2名受講。座学修了	◎
障害特性について学ぶ	①研究発表の実施	ア)今年度発表担当の厨房が研究テーマに取り組み、総合職員研修にて発表	◎
利用者支援の基本的な考え方に関する研修の実施	①研修の実施	ア)介護技術向上研修実施 イ)相談援助技術研修開催	◎
各部署会議などで意見交換をし、日々の仕事で実践できたか振り返る	①神戸聖隷ハンドブックの活用	ア)理事長による、理念講演会を検討していましたが、職員体制が整わず、次年度に延期	×
EPA等による外国人実習者の受け入れ	①受け入れ準備	ア)日本語学習、国家資格講師との調整を実施 イ)候補者との対面、候補者の施設見学を実施 ウ)12/17より受け入れ開始。就業、就学、生活支援を実施	◎
朝礼メッセージの活用	①職員の朝礼メッセージ担当	ア)毎週火曜日、一般職員の朝礼メッセージを継続実施	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 すま障害者地域生活支援センター
 施設長 三木 卓也

第 3 期中期計画の最終年度においても、地域で生活する障害者(児)とそのご家族等からの困りごとや相談に対し、関係性を大切に親身で細やかな情報提供や助言を行うとともに、関係機関とのつながりを活かした適切な障害福祉サービスの利用調整などを行い、住み慣れた地域で安全に孤立することなく安心して暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。

特に今年度後半から現在にかけて大流行している新型コロナウイルスの関係で、日常生活に大きな影響を受けている多くの相談者やそのご家族が、滞りなく必要な支援を受け続けることができるよう、不安な気持ちや心配ごとに寄り添い地域のセーフティネットとしての役割に努めました。

また、須磨区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域特性に応じた 6 つのテーマ別部会（就労支援、自主製品の販路拡大、共生社会への取り組み、支援力の向上、障害のある子どもとその保護者支援、地域課題）の活動を通じて、地域の障害理解啓発と障害のある方の権利擁護の推進を図りました。

さらに、相談者の多様なニーズに柔軟かつ包括的な相談支援を実施していくために、相談員間のコミュニケーションがとりやすい風通しの良い職場環境の整備に努め、心理的フォローを含めたスーパーバイズとヒアリングを定期的かつ継続的に実施し、相談員個々の知識やスキルと経験を結集してセンター全体の相談支援力の向上に繋げました。

2020 年度は、まだまだ新型コロナウイルスの社会的影響が大きく先行きが見えない不安があり、それと同時に神戸市からの 3 ヶ年の委託契約期間の最終年度でもあります。第 4 期中期計画の初年度として気持ちを新たに職員がひとつにまとまって「不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンター」を目指していきます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	事務局運営 ①全体会(1回/年) ②運営委員会(4回/年)	① ア)須磨区自立支援協議会 全体会 (5月) ② ア)須磨区自立支援協議会 運営委員会 (5月、9月、12月、3月)	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	就労支援部会 ①勉強会（1回/年） ②研修会（1回/年） ③当事者セミナー（1回/年）	① ア) 定例会（7月） ② ア) 定例会（7月） ③ ア) 定例会（9月、11月） イ) 当事者セミナー「事業所自慢」（1月）	△
	すまいんど部会 ①アンテナショップ（1回/月） ②バザー（1回/年） ③冬のギフト販売（1回/年） ④HP販売（随時）	① ア) アンテナショップ（すまるしえ）（毎月） ② ア) 地域交流バザー（すましあ）（11月） ③ ア) 冬のギフトセット販売（12月） ④ ア) HP販売（随時）	○
	まなぼー!!部会 ①事例検討会（1回/年） ②地域啓発行事（1回/年）	① ア) 地域移行事例検討会の実施（8月、2月） ② ア) 定例会にて協議（9月）	△
	ともいき部会 ①地域防災イベント（1回/年） ②地域交流イベント（1回/年）	① ア) 須磨区防災福祉コミュニティ大会（10月）※ <u>荒天により中止</u> ② ア) 「依存症理解」勉強会（6月） イ) 「消費者被害の現状」勉強会（8月） ウ) 「権利擁護セミナー」（3月） ※ <u>新型コロナにより中止</u>	○
	親子部会 ①動作法研修（3回/年） ②サポートブック啓発	① ア) 動作法研修会（6月、10月、2月） ② ア) すまっこナビ説明会（7月、9月） イ) 事業所交流会（2月）	○
	相談支援部会 ①連絡会の開催（6回/年） ②3区合同連絡会の検討	① ア) 連絡会の開催（4月、7月） ② ア) 3区合同連絡会（5月、9月、12月、1月）	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	ピアカウンセリング ①発達の気になる子どもを持つ保護者向けのグループピアカウンセリング（9回/年）	ア) グループピアカウンセリングの実施（5月、6月、7月、9月、11月）	△
計画相談支援対象者の内容精査と適切なケース受任	計画相談支援 ①契約件数（70件）の維持 ②複雑な課題ケースを重点的に受任 ③担当ケース件数の平準化 ④算定要件を満たす加算体制の維持 ⑤コスト意識向上による事務経費削減	① ア) 契約件数 69 件（新規 3 件、終了 3 件） ② ア) 新規 3 件受任 ③ ア) 9.8 件（職員一人あたり） ④ ア) 特定事業所加算（400 単位） イ) 精神障害者支援体制加算（35 単位） ウ) 行動障害支援体制加算（35 単位） エ) 要医療児者支援体制加算（35 単位） ⑤ ア) 事務経費 4,302（千円）（予算対比 120%）	○
ケース検討会の実施・継続	ケース会議 ①ケース会議の実施（1回/月）	ア) ケース会議を実施（毎月）	○
内部研修等の充実	内部研修 ①内部研修の実施（4回/年） ②接遇ハンドブック学習会の実施（1回/年） ③虐待防止事例検討会の実施（1回/年） ④虐待防止チェックリストの実施（2回/年）	① ア) 「成年後見制度」研修会（8月） イ) 「権利擁護」「計画相談」研修会（2月） ② ア) 接遇ハンドブック学習会（毎月） ③ ア) 虐待防止事例検討会（9月） ④ ア) 虐待防止チェックリストの実施（9月）	○
スーパーバイズの強化	スーパーバイズ ①スーパーバイズの実施 ②有給休暇の積極的取得推進	① ア) スーパーバイズの実施（毎月） ② ア) 有給休暇取得率 76.92% 3月末時点）	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング ①定期ヒアリングの実施 ②超過勤務労働削減の推進	① ア) 定期ヒアリングの実施 (2月、3月) ② ア) 超過勤務▲74時間減 (2018年度比)	△
法人理念、権利擁護の実践及び委託事業の意義、役割について学ぶ機会の提供	理念の浸透 ①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 (2回/月) ③神戸聖隷ハンドブック学習会の実施 (1回/月) ④講師を招いた勉強会 (1回/年) ⑤理念関連研修への積極的参加	① ア) 年間聖句の掲示 ② ア) 基本理念の唱和 (毎月2回) ③ ア) 神戸聖隷ハンドブック学習会 (毎月) ④ ア) 未実施 ⑤ ア) キリスト教社会福祉法人連絡協議会研修に参加 (2月)	○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸聖隷総合相談センター
 施設長 三木 卓也

第3期中期計画の最終年度においても、地域で生活する障害者とそのご家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供等、地域で生活する方々のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢等に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談、ニーズ把握に努め、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう丁寧な相談支援を行いました。

事業の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画作成）においては、主に法人内の事業所を利用されている方を中心に、今年度も新たに10名の新規利用希望にお応えさせていただき計280名の方々のサービス等利用計画の作成を推進することができました。一方で、まだまだ利用を希望される方々のニーズに応えきれていない現状もあり、引き続きニーズに応えることができる体制づくりを検討していきます。

また、これまで重点的に取り組んでいる「成年後見制度」の啓発については、12月に「ワールドカフェ」方式による研修会を法人職員向けに開催し、制度に対する素朴な疑問や問題点、実際の状況を共有し理解を深めることができました。次年度は、制度を必要とする方々への制度利用に関する相談、情報提供、申立に係る支援の提供がより具体的に出来るように努めていきます。

2020年度は、まだまだ新型コロナウイルスの社会的影響が大きく先行きが見えない不安がありますが、第4期中期計画の初年度として気持ちを新たに職員がひとつにまとまって、センターの本来の目的である地域の身近なセーフティネットとしての役割を果たしていくために、地域の関係機関との繋がりをより一層深め、中期事業目標に掲げる「障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンター」を目指します。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	地域との共生 ① 地域行事への積極的な参画 ② 地域支え愛学習会への参加 ③ 民児協への集まりへの参加 ④ 成年後見制度研修会の開催(1回/年)	① ア) おいでやすカーニバル(9月) ※天候不良のため中止 イ) こんにちはカーニバル(3月) ※新型コロナのため中止 ② ア) 地域支え愛学習会に参加(5月、11月) ③ ア) 未実施 ④ ア) 成年後見制度研修会(12月)	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
計画相談 支援対象 者の内容 精査と適 切なケー ス受任	計画相談支援 ①契約数(270人)の 維持 ②コスト意識向上に よる事務経費削減	① ア) 契約件数 282 件 (新規 10 件、終了 2 件) ② ア) 事務経費 1,174 (千円) (予算対比 133%)	○
特定事業 所加算の 取得に向 けた検討	加算取得 ①算定要件を満たす 加算体制の維持	ア) 行動障害支援体制加算 (35 単位) イ) 精神障害者支援体制加算 (35 単位) ウ) 要医療児者支援体制加算 (35 単位)	△
ケース会 議の実 施・継続	ケース会議 ①ケース会議の実施 (1回/月)	ア) ケース会議を実施 (毎月)	○
内部研修 等の充実	内部研修 ①内部研修の実施 (1 回/年) ②接遇ハンドブック 学習会の実施 (1回 /年) ③虐待防止事例検討 会の実施 (1回/年) ④虐待防止チェック リストの実施 (2回 /年)	① ア) 「要医療児者の支援」研修会 (11 月) ② ア) 未実施 ③ ア) 虐待防止事例検討会 (9 月) ④ ア) 虐待防止チェックリストの実施 (9 月)	○
スーパー バイズの 強化	スーパーバイズ ①スーパーバイズの 実施 ②有給休暇の積極的 取得推進	① ア) 未実施 ② ア) 有給休暇取得率 91.51% (3 月末時点)	△
定期ヒア リングの 実施	定期ヒアリング ①定期ヒアリングの 実施 ②超過勤務労働削減 の推進	① ア) 定期ヒアリングの実施 (1 月、2 月、3 月) ② ア) 超過勤務▲20 時間減 (2018 年度比)	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
法人理念、権利擁護の実践及び事業の意義、役割について学ぶ機会の提供	理念の浸透 ①年間聖句の掲示 ②基本理念、平和を求める祈りの唱和（1回/月） ③神戸聖隷ハンドブック学習会の実施（1回/月） ④講師を招いた勉強会（1回/年） ⑤理念関連研修への積極的参加	① ア) 年間聖句の掲示 ② ア) 基本理念、平和を求める祈りの唱和（毎月2回） ③ ア) 未実施 ④ ア) 未実施 ⑤ ア) キリスト教社会福祉法人連絡協議会研修に参加（2月）	○

2. 出来した事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸友生園
 施設長 井上 待子

2017 年度から取り組んだ第 3 期中期計画が終了しました。今年度の大きな目標であったグループホームを開設することが出来ました。まだまだ、充実した内容にするには時間が掛かりますが、来年度以降もしっかりとバックアップ施設としての役割を果たして行きたいと思えます。

今年度は神戸友生園 35 周年の節目の年でもあり、日帰り旅行の実施やクリスマス祝会にご家族やボランティアの方を招待し、日頃の感謝をお伝えする時を持ちました。

3 年ぶりに第三者評価を受審しました。前回評価点よりも高評価にはなりませんが、改善すべき事柄も明確になりました。評価のフィードバック研修については、新型コロナウイルスの影響で延期になっておりますが、職員間で課題を共有し次年度取り組んでいきます。

利用率は目標値の 89.8%に及ばず、88%となりました。12 月に定員を 37 名から 40 名に変更したこと、2 月以降、新型コロナウイルスによる自粛などが未達成の要因となりました。

訪問型職場適応援助者の助成金活用については、依頼があった支援について事業所と対象者への支援を計画的に行いました。年度当初に予定していた日数には至りませんでした。支援内容としては充実した内容になった 1 年でした。

職員の専門性の向上には、外部研修への参加や内部研修を実施しました。また、法人理念の浸透には、職員会議での聖書輪読をしました。ワークライフバランスを整える為に、ノー残業デーを継続して行いました。第 4 期中期計画の初年度となる次年度、ビジョンである「地域のネットワーク体制を構築出来るスキルを身につけた、職員集団を目指します。」に向けて、職員のベクトルを揃え事業を推進させていきます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握	①イベント・会合への参加	① ア)すまろしえ出店 (5 月、7 月、8 月、1 月) イ)ふるさとまつりに参加 (8 月) ウ) 神戸福祉・健康フェア、すまろしえ出店 (10 月) エ)すましあ、神戸女子大、近障協会合での販売 (11 月) オ)すまいんど部会で冬ギフト斡旋販売 (12 月) カ)コロナウイルス感染予防のため中止 (3 月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握	<p>②お茶販売を通じて法人内の資源（総合相談センター等）を案内する。</p> <p>③『ほっとかへんネット』への積極的参加</p>	<p>②</p> <p>ア) アドアド市（道路沿いでのお茶販売）の実施（5月～9月）</p> <p>イ) コロナウイルス感染予防のため販売自粛</p> <p>③</p> <p>ア) ほっとかへんネット全体研修会に参加（6月）</p> <p>イ) 「ほっとかへんネット須磨」施設見学・交流会 13名が来園（1月）</p> <p>ウ) 定例会延期（3月）</p>	○
支援学校との連携強化	<p>①定期的に話し合う機会を設ける</p>	<p>ア) 青陽須磨支援学校教諭と困難ケースについての情報交換を実施（8月）</p> <p>イ) 学校評議委員会に出席（2月）</p>	△
作業種見直し	<p>①作業担当者による納品業務の継続</p> <p>②新規作業獲得に向けた営業活動</p>	<p>①</p> <p>ア) 担当職員による納品業務を実施（4月～3月）</p> <p>②</p> <p>ア) 過去の取引先等に新作業の打診（5月）</p> <p>イ) 他法人事業所へのアプローチ（6月、7月）</p> <p>ウ) 来園されるボランティアや知人に作業紹介の依頼（6月から8月）</p> <p>エ) 電話にて新規作業獲得の営業活動（10月）</p> <p>オ) 新規取引先と作業契約（11月）</p> <p>カ) 新規作業獲得に向けた検討（12月）</p> <p>キ) 取引先企業に新規作業の打診を行う（1月）</p>	○
ジョブコーチ事業継続	<p>①関係機関と協力して活動・助成金活用</p>	<p>ア)</p> <p>4月：6日稼働</p> <p>5月：11日稼働</p> <p>6月：11日稼働</p> <p>7月：7日稼働</p> <p>8月：3日稼働</p> <p>9月：14日稼働（新規支援開始）</p> <p>10月：4日稼働</p> <p>11月：2日稼働</p> <p>2月：1日稼働</p> <p>3月：10日稼働</p>	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
安定的経営の模索と経費削減の取り組み	①実習・見学の受け入れ	ア)見学者 4月：3校の特別支援学校の生徒、教諭 一般見学者1名 5月：一般見学者1名 8月：支援学校保護者1名 12月：一般見学者1名 1月：一般見学者2名 2月：のじぎく特別支援学校8名 イ)実習 播磨特別支援学校（6月） いぶき明生支援学校（7月） 一般利用希望者体験利用（12月・1月）	◎
	①超過勤務労働の削減 ②月ごとの時間管理 ③効率化検証、時間管理（勤務環境整備について話合いの場を持つ） ④有給休暇の積極的取得	① ア)状況表の作成（5月、6月、12月） イ)超過勤務状況を職制に報告（8月、9月） ② ア)管理表の作成（5月、6月、12月、3月） イ)毎月職員会議で状況報告（4月～3月） ③ ア)休憩時間の在り方及び仕事の効率改善に向け正規職員で検討 イ)昼休憩交代制を導入、9月まで試行期間とする。 ウ)残業時間について職員会議話し合い（11月） エ)仕事の効率化・時間管理について会議で共有（1月） ④ ア)職員会議で取得の勧め（4月） イ)計画的に取得できるよう計画	○
個別状況に配慮しながら出勤率向上	①営業日数管理	ア)請求時に日数管理を実施（4月～3月）	◎
個別プログラム実施計画を作成	①就労プログラム活用 ②検証	① ア)就労支援対象者を絞る。 イ)就労に向けた個別面談の実施（5月） ウ)障害者合同面接会に不参加と決める（2月） ② ア)検証には至らず。	△

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
商品力の強化	①生産性の安定 ②ギフト商品の定着 ③ミニサイズ商品の販売検討	① ア)ギフト管理について模索 イ)事務所前にサンプル商品、ポップ変更 ウ)在庫管理方法の変更実施 エ)既存商品の品種検討 ② ア)春ギフト作成、販売（4月、5月） イ)夏ギフト検討、作成、販売（6月～8月） ウ)冬ギフト商品企画策定 エ)冬ギフト作成、販売（10月～12月） オ)春ギフト検討、作成、販売（1月～3月） ③ ア)ミニパッケージ価格検討（7月） イ)バザーにて販売（9月、10月、12月、2月） ウ)ミニパッケージの総評を実施（1月）	◎
作業手順書作成	①順次作業手順書作成・活用・修正	ア)ダニ取りパット作業手順書作成 イ)フレークシール作業手順書作成 ウ)新生工業作業手順書更新 エ)足パット作業手順書作成・更新 オ)新規作業（MB フィールズ）の手順書作成（11月～1月、3月）	○
作業評価基準の改定と活用	①フォームの見直し ②活用	① ア)新フォーム改定作業に係る イ)作業手順書・新フォーム改定作業実施 活用には至らず。 ② ア)活用に至らず	○
共同受注窓口の充実	①連携課題整理 ②課題の分析	① ア)年間計画策定（4月） イ)作業開始前、各事業所の状況確認（5月） ウ)ワーキング開催（8月） ② ア)各事業所の課題分析実施（7月） イ)ワーキングにて各事業所の課題抽出（8月）	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
共同受注窓口の充実	③企業訪問と検討	③ ア) 企業情報収集と訪問 (7月) イ) 新規企業情報1件 (10月) ウ) 新規作業と契約 (11月)	○
ケース会議の実施	①年間計画通り実施	ア) ケース会議の実施 4月～11月: 2名ずつ実施 1月～3月: 2名ずつ実施	◎
サービスの質の向上	①サービス提供表作成・活用・修正 ②利用者満足度調査の実施 (1回/年)	① ア) サービス提供表修正 4月～11月: 2名ずつ修正 1月～3月: 2名ずつ修正 ② ア) 2018年度調査結果まとめ (4月) イ) 2018年度調査結果の配信 (5月) ウ) 職員の身嗜み、言葉遣いについて職員間で共有 (7月) エ) 2019年度調査実施 (11月) オ) 2019年度集計開始 (12月) カ) 2019年度調査結果配布 (1月) キ) 調査結果の対策検討実施 (2月)	◎
グループホーム事業開始に向けた取り組み	①世話人の育成 ②業務内容の検討・確率 ③バックアップ体制の検討・確立	① ア) 内部研修の実施 (4月) イ) OJTによる育成 (4月～9月) ウ) 新規雇用者に対してOJTによる育成 (10月～1月) エ) 世話人会議開催 (12月・3月) ② ア) 基本業務マニュアル作成・更新 イ) 業務日誌案作成 ③ ア) 10月からの勤務体制を策定しトレーニングを実施 イ) GH業務を正規職員が体験 (10月)	◎
防災対策	①訓練実施	① ア) 3園合同訓練打ち合わせ (5月) イ) 3園合同訓練実施 (11月) ウ) 地震想定避難訓練実施 (1月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
防災対策	<p>②数量確認</p> <p>③期限切れの近い保存食を防災の日に提供</p> <p>④防災マニュアル作成</p>	<p>②</p> <p>ア) 備蓄カタログを請求し購入 (9月)</p> <p>③</p> <p>ア) 行事に飲料水を炊飯に使用 (1月)</p> <p>④</p> <p>ア) 現有マニュアルの確認 (4月)</p> <p>イ) 火災マニュアル精査・策定 (6月)</p> <p>ウ) 基本マニュアル6項目追加作成 (1月)</p> <p>エ) 送迎マニュアル整備 (2月)</p>	◎
内部研修の実施と充実	①内部研修/外部研修実施	<p>ア) 臨時職員に対して支援の基本・記録・基本理念の研修を実施 (4月)</p> <p>イ) ビジネスマナー研修受講 (5月)</p> <p>ウ) 臨時職員3名、新任職員研修受講 (6月)</p> <p>エ) 神大協賛研修実施、職員受講 (7月)</p> <p>オ) 就労支援フォーラム受講 (9月)</p> <p>カ) 感染症対策実務者研修 (10月)</p> <p>キ) 手話勉強会 (4月、5月、6月、7月、9月、11月、2月)</p> <p>ク) 虐待対応研修 (12月)</p> <p>ケ) 虐待防止研修 (2月)</p> <p>コ) 実習教員研究会 (2月)</p>	◎
各種マニュアルの整備	<p>①既存作業マニュアルの精査・ブラッシュアップ</p> <p>②支援標準化マニュアルの作成</p> <p>③業務マニュアルの作成</p>	<p>①</p> <p>ア) ダニ取りパット作業マニュアル作成</p> <p>イ) フレークシール作業マニュアル作成</p> <p>ウ) MB フィールズ作業マニュアル作成 (10月、11月)</p> <p>エ) 作業生産表作成 (12月)</p> <p>②</p> <p>ア) 支援標準化マニュアル更新 (1月～3月)</p> <p>③</p> <p>ア) 昼食時マニュアル作成</p> <p>イ) 送迎標準マニュアル作成</p>	○
法人理念と支援指針の共有	①内部研修を通して理解共有 (ハンドブック活用)	<p>ア) 朝礼時に法人理念唱和</p> <p>イ) 内部研修実施 (年間聖句)</p>	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
虐待・不適切ケアの防止	①『気付きツール』の周知徹底と活用 ②虐待防止チェックリスト(2回/年) ③虐待防止判定基準表での事例検討会(1回/年以上) ④事例検討の実施 ⑤虐待防止の内部研修実施	① ア)気付きツール情報提供 4月:5件 5月:1件 6月:5件 8月:3件 9月:1件 10月:4件 11月:7件 12月:2件 1月:1件 2月:3件 3月:4件 イ)ツール更新(7月・11月) ② ア)虐待防止チェックリスト実施(9月・2月) ③ ア)評価表学習会参加(5月) イ)虐待防止判定基準表を用いた事例検討実施(8月・11月・1月) ④ ア)職員会議にて事例共有(4月～3月) ⑤ ア)処遇アップキャンペーン取り組み(6月、9月、12月) イ)職員全員参加の研修実施(2月)	◎
中期計画進捗状況を全職員共有	①職員会議にて進捗確認	ア)職員会議にて報告・共有(4月～3月)	◎

2. 出来た事案

(1) 過誤請求

7月17日に受けました神戸市の実地指導で2016年から「視覚・聴覚支援体制加算」の取得基準が達していないことがわかり過誤請求となりました。総額¥123,673,999になり、事業運営に大きな損失を与えることになりました。今後、加算要件などに注視し請求業務を実施してまいります。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホーム南落合
管理者 井上 待子

10 月に開所以降安心した暮らしの提供と、「働きたい」思いを尊重する支援を心がけて支援をしてきました。利用率も一定の帰省はあるものの目標を上回ることが出来ました。利用者は、初めて親元から離れての生活に戸惑いながらも、ホームの生活に慣れて来られました。

課題としては、人員不足と世話人のスキル向上があります。

世話人の確保が出来ておらず神戸友生園のバックアップが週に3日は必要な状況です。また、新型コロナウイルスの関係でホーム内の除菌作業や食事の摂り方などの工夫、手洗いの強化など従来の業務以上に世話人への負担が多くなっています。感染リスクを減らす地道な手立てを継続しながら、世話人のスキルを向上する内部研修などが実施しにくい状況にあります。次年度も厳しい状況の中ですが、出来る事を検討し実施していきます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
健康管理	①利用者の健康状態を把握し、必要に応じて医療機関と連携を図れるよう協力医療機関を検討する。	ア) 協力医療機関との契約を締結 (10 月)	◎
余暇の充実	①一人ひとりにあった余暇を検討し支援する。	ア) 特に帰省のない利用者に対して、ガイドヘルパーの利用等を勧める。(不定期)	○
マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務についてのマニュアル整備	ア) 業務マニュアル完成 (11 月)	◎
地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加	ア) 自治会の防災訓練に参加 (2 月) イ) 自治会総会に出席 次年度書紀の役割となる (3 月)	◎
防災訓練	①避難訓練	ア) 未実施	×
利用率の安定	①365 日開所する (183 日開所)	ア) 183 日開所達成	◎
バックアップ施設との体制整備	①神戸友生園からの日中及び夜間緊急体制を整備	ア) バックアップ体制の継続は実施しているが整備には至らず	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
基本理念の浸透	①世話人・生活支援員への内部研修の実施 ②法人研修への積極的な参加	① ア)未実施 ② ア)未実施	×
専門性の向上	①外部研修への参加	ア)未実施	×
虐待防止・人権擁護の取り組み	①バックアップ施設との合同研修の開催 ②月に1回、管理者、サビ管による支援会議を開催し適切な支援がなされているか検証する。	① ア)虐待防止研修の開催（2月） ② ア)世話人会議の開催（12月・3月） 支援会議には至らず	○

2. 出来た事案
特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸光生園
 施設長 吉本 ひろみ

第三期中期計画の最終年度として結果が出せたもの、継続して第四期で取り組むものと分かれてきましたが、それぞれに良い経験となったと感じます。就労移行は就労継続 B の就労移行プログラムにより新年度に 1 名が移る事になりました。また 3 月に 1 名一般就労することが出来ました。職員の支援力向上として外部研修を内部研修に活かすシステムも軌道に乗り始めました。3 年目となるはずだった防災イベントは 4 月からしっかりと準備をしましたが台風の為に中止せざるを得なくなり残念でしたが、今後も継続して取り組みます。人材育成として専門実習や保育実習にも力を注ぎ今年も 1 名を法人職員として送り出すことが出来ました。また実習後も施設行事のボランティアに積極的に参加してくれる学生が多く交流が出来たことは嬉しいことでした。新商品の開発はようやく完成となりましたがまだ少し改良点があり、次年度の課題として引き続き取り組むこととなりました。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
発達障害の理解と支援方法の確立	支援力向上 ①SST 等の研修参加 ②他施設の見学実施 ③内部研修の実施	① ア)SST 研修を受講 (1 名) (6 月)	○
		② ア) 他施設見学は未実施	×
		③ ア)SST 技法の内部研修を実施 (7・11 月) イ) 7 月に実施した研修アンケートの分析を実施 (8 月)	○
就労支援に特化した環境の構築	就労支援の強化 ①就労移行準備プログラムの立案・実践	ア) 準備プログラムの対象者を選定し実践、就労 B から 1 名事業移行決定 イ) 内容を検討しアセスメントシートを作成 ウ) 利用者向け接遇マニュアルを作成し、製本化、座学として活用開始	◎
送迎ニーズの見直し	送迎ルートの見直し ①マイクロバスの利用者見直し ②園送迎利用者の見直し	① ア) マイクロバスに新規利用者 2 名増員	○
		② ア) 園送迎は希望者があり 1 名増員	○
送迎車両の確保	今年度は実施せず	実施予定なし	—

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの整備と見直し	マニュアル整備 ①法人標準化マニュアルの作成 ②施設のマニュアルの定期更新	① ア) 第1期分は作成し提出、第2期分は提出期限が次年度となり作成中 ② ア) 業務マニュアルは定期更新完了	○
接遇マニュアルの製本化と運用	①法人接遇ハンドブックの活用	ア) 6月から職員会議で輪読、効果について職員アンケートを実施し意識付け イ) 法人の接遇キャンペーンを実施、ポスターを掲示し、家族会へ趣旨を説明	○
多機能型施設の強みを活かすことができるスーパーバイザーを育てる	スーパーバイザーの育成 ①ケア記録の研修 ②スーパーバイザーの実践	① ア) 演習形式のケア記録の研修を実施(1/28、3/24) ② ア) 1月実施のケア記録研修をもとに、スーパーバイズを実施。バイザーの育成までには至らず	○ △
経営計画を現場職員がより理解するための方法を考える	経営の意識向上 ①現場での物品管理体制の見直し ②土曜開所のイベント企画(利用率向上)	① ア) 物品管理、給食発注ミス、経費削減について試行したが、確実な効果は上がらず ② ア) 土曜開所は行事担当が企画し、毎回イベントを実施、夏祭り・クリスマス会は高利用率。外出プログラムを土曜に実施するも微増	△ ○
専門家との連携を継続し、創作活動の充実を図る	創作活動の充実 ①適宜専門家からのアドバイスを受け表現力を向上 ②学生ボランティアの確保	① ア) 創作活動の指導は月1回専門家のアドバイスを受け、作品展等で複数受賞 ② ア) 学生ボランティアは要項を作成し大学に送付したが反応なし	◎ △
専門家による職員への指導とスキルアップ	職員のスキルアップ ①専門家に依頼し、年1回のクリエイティブ研修の実施 ②アートに特化した施設や研修への参加を実施	① ア) 専門家による「撮影技術向上」研修を実施(1月) ② ア) 奈良県「たんぼぼ」の『グッジョブセンター』を見学(12月)	◎ ◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
デザイン事務所との連携と商品開発	新商品開発 ①創作作品の商品化 ②商品化にともなう作業工程について就労継続B型事業への受注を依頼 ③創作意欲や作業意欲を引き出し、QOLを向上 ④エーブルアートカンパニーへの登録 ⑤作品の管理システムの構築 ⑥販路開拓及び確保	① ア)デザイナー多忙の為会議は2回の実施だが、商品は完成(エコバッグ) ② ア)作業を依頼する事業所は決定、依頼し制作実施 ③ ア)エコバッグ商品化のための布地作成を利用者が創作実施 ④ ア)登録1名(1月) ⑤ ア)バーコードを使用した管理システム完成 ⑥ ア)味噌を「NANA ファーム」で委託販売開始	○ ○ ○ ○ ○ ○
1年間の活動を記録する	①見学者を中心に、DVDを活用 ②専門実習生に活用し、働くイメージを具体化	① ア)施設見学者に、初めにDVDを見てもらい施設説明に活用しており好評 ② ア)実習生にもオリエンテーション時に活用	◎
SNSの実用化	①定期的なSNSへの発信を目指し、発信するシステムを再構築 ②YouTubeでの発信	① ア)定期的なSNSの更新は年間計画を立てて各事業に割り当て発信 ② ア)YouTubeでの発信は取り止め	◎ ×
専門大学との連携	①2018年度で、施設紹介DVDの作成は終了した為、新たな紹介映像の模索を実施	① ア)専門大学との連携が出来ず、新たな紹介映像については未実施	×
神戸光生園の実習プログラムを作成する	実習受入体制強化 ①社会福祉士実習・保育実習を受け入れ、既存の実習プログラムの更新と運用	① ア)神戸女子大学、神戸学院大学、関西保育専門学校、神戸教育短大、須磨ノ浦高等学校、介護等体験実習を受け入れ実習プログラムを活用、更新を実施	◎
大学との連携を強め、人材確保に努める	人材確保への取組み ①実習指導者講習会を受講する資格のある職員は必ず受講	① ア)実習指導者研修に参加(2月) イ)社会福祉士実習教育支援者研修に優秀実習先として実習指導者実践報告を行い表彰式に参加(7月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
大学との連携を強め、人材確保に努める	<p>②実習受入校の研修会、発表会等に参加し、関係性を強化</p> <p>③法人内実習指導者との情報交換会を行い実習プログラムの共有、統一化を検討</p>	<p>②</p> <p>ア) 神戸学院大学オープンカレッジに利用者と共に参加 (6月)</p> <p>イ) 神戸女子大学の相談援助実習指導の特別講義に講師として参加 (10月)</p> <p>ウ) 神戸学院大学の実習報告会・実習指導者交流会に参加 (10月)</p> <p>エ) 神戸女子大学実習教育研究会に参加 (2月)</p> <p>③</p> <p>ア) 法人内実習指導者に今年度実習状況等についてアンケートを実施</p>	◎ ○
外部研修を現場で活かせるシステムを作成する	①内部研修を定期的に行い、外部研修で得た物を支援や活動に取り入れる仕組みを構築 (障害特性の理解)	<p>ア) 外部研修: 自閉症学習会 (5月)、SST研修 (6月)、連続発達講座 (6、7月)、てんかん基礎講座 (7月) それぞれ参加</p> <p>イ) 上記研修をもとに内部研修を実施: 自閉症研修 (4月)、SST研修 (7月・11月)、連続発達講座 (9月)、てんかん講座 (10月)</p>	◎
人材育成プログラムを作成する	<p>①OJT研修への参加</p> <p>②新着任職員へのオリエンテーション研修の実施と見直し</p>	<p>①</p> <p>ア) OJT研修への参加は無し</p> <p>②</p> <p>ア) 新着任職員へのオリエンテーション研修実施 (4・5月)、参加者アンケートにて内容の振り返り</p>	× ○
防災計画と訓練の実施	<p>防災イベントの実施</p> <p>①自治会との合同訓練計画・実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 垂水区自立支援協議会共催依頼、地域ふれあいのまちづくり協議会等の協力依頼、近隣学校への参加依頼、企画等実施 (当初計画 10/26→10/12 に変更し台風の為イベント中止)</p>	△
防災計画に基づく備蓄品の見直し・補充	<p>備蓄品の整備</p> <p>①避難所に必要な備蓄品の購入</p> <p>②防災イベントでの備蓄品消費</p>	<p>①</p> <p>ア) 福祉避難所として不足の備品等の選定を行い購入</p> <p>イ) 避難所開設マニュアル等収集</p> <p>②</p> <p>ア) 防災イベント中止の為備蓄品未消費</p>	○ ×
バリアフリー化(トイレ・EV)	<p>施設整備</p> <p>①多目的トイレの設置</p>	<p>①</p> <p>ア) 設計事務所と打合せ、既存のシャワー室を多目的トイレに改修する事に決定、</p>	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
バリアフリー化(トイレ・EV)	②トイレのアメニティ向上	10月から改修工事、12月完了検査 ② イ)1階トイレをウォシュレット・ウォームレット便座に改修(12月完了)	◎
垂水区社会福祉法人連絡協議会・自立支援協議会に参加	地域貢献 ①ほっとかへんネットへの参画 ②明舞地区の地域活動に参加	① ア)ほっとかへんネットたるみ「ふれあい喫茶」「本多聞夏祭り」に参加(8月) イ)実務者会議に参加(9月) ウ)自立支援協議会で「ふれあい喫茶」に自主生産品販売で参加 ② ア)明舞まちづくり委員会に出席(8月)	◎ ○
神戸聖隷の成り立ちについて、創生期の方の講話を聴き、理解を深める	理念理解 ①水野理事長の講演	① ア)水野理事長により「これからの神戸聖隷」というテーマで講演(11月)	◎
長谷川保氏の著書を読み、神戸聖隷のルーツともなる聖隷福祉事業団の歴史を知る	理念理解 ①吉川牧師によるキリスト教社会福祉の理解	① ア)多聞福音教会 吉川牧師による理念理解研修を3回シリーズで実施(12/3、2/4、2/25)	◎
浜松の歴史資料館や施設、神戸聖隷の歴史資料館を見学し、聖隷の歴史を身近に感じる	外部研修による理念理解 ①聖隷福祉事業団の見学参加	① ア)聖隷歴史資料館の見学実施(12月) イ)聖隷福祉事業団の見学参加1名(1月)	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームみなみたもん
 管理者 吉本 ひろみ

事業開始から6年近く経過し、初めての指定更新を2020年5月に迎える事になります。今年度から世話人兼サービス管理責任者としてグループホームふくだとの兼任職員を配置するという形をとりました。日常の移動支援事業所や他の日中活動事業所との調整、ご家族との連絡、勤務シフトの作成などを任せることとなり、バックアップ施設としての負担は少なくなりました。一方で本来予定していたマニュアル作成や、支援員の専門性の向上等にしっかりと取り組むこと、また個々の支援員の状況に深く関わる事をせずに過ごしてしまった1年でした。サービス管理責任者である職員や支援員との情報共有は出来る限り行い、ホームへの訪問も定期的に実施していましたが、常に同じ課題を抱えたままという反省があります。ご利用者は、ホームの生活に満足しておられる様子ですが、もっと自由な選択肢があってこそ「地域での暮らし」と言えるのではないかと常に葛藤があります。まずは徐々に高齢化に向かうご利用者への健康管理を一番に考え、出来る限りホームで過ごして頂けるように努力を続けます。

1. 推進状況

区分	課題と具体策	実施状況	達成度
QOL	権利擁護のための支援 ①入居者の後見人・保佐人との報告・連絡・調整を密に行い本人の意思を尊重した支援を継続 ②世話人・支援員への研修を実施	① ア)5名の内3名が後見人・保佐人をつけており、更に1名が後見人制度を利用。それぞれの後見人等とは定期的に情報提供及びホームへの訪問あり。 ② ア)内部研修を実施(3月)	◎ ○
	マニュアルの整備 ①基本的な生活支援マニュアルの整備 ②金銭管理・貴重品についてのマニュアル	① ア)生活支援マニュアルは未着手 ② ア)金銭管理等について一定のルールに基づいた簡易マニュアルを作成・運用	× ○
	健康管理 ①医療機関との連携による適切な健康管理	ア)定期的な受診により、個々の健康状態を把握し、ご家族や後見人等と連絡・報告を密に実施、継続。	○
	地域との連携 ①地域の一員として自治会行事へ積極的な参加	① ア)自治会行事がなく参加できず	×

区分	課題と具体策	実施状況	達成度
QOL	防災対策 ①消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練の実施（年2回）	① ア) 避難訓練・通報訓練を実施（1月・3月）	○
	②災害時を想定した防災訓練の実施（年1回）	② ア) 防災計画の見直しは行ったが訓練は実施できず	×
財務	利用率の安定維持 ①366日の運営で入居者に安定した生活を提供 ②新規利用者入居へ向けての対策実施（1名退所予定）	① ア) 土日祝日も利用できるように、日中支援員を配置し安定した運営を実施したが、新規利用者は帰省が多く、利用率はわずかに減少。前年度 92.9%→今年度 92.3% ② ア) 前年度2月で1名退所となったため6月から1名新規利用者入居	△ ◎
	堅実なバックアップ施設 ①緊急時等の神戸光生園による速やかかつ臨機応変な対応 ②安定的な支援体制の確立（支援員の育成）	① ア) 他事業所利用の入居者が、日中活動休業の場合、バックアップ施設での支援を実施、また体調不良時の受診等を実施 ② ア) バックアップ施設としての支援員の育成には至らず	○ ×
人材育成	キリスト教理念の浸透 ①基本理念におけるキリスト教精神の理解 ②神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア) 世話人会議時には基本理念を唱和 ② ア) 会議時間に制約があり、ハンドブックの活用に至らず	○ ×
	専門性の向上 ①世話人・生活支援員の専門研修への参加 ②月1回の世話人会議で個々の障害特性に応じた対応事例の検討	① ア) シフト等と調整できず研修参加未実施 ② ア) 自閉症の方への対応等で実際の事例で試行を行い、支援方法を統一し実践中	×

区分	課題と具体策	実施状況	達成度
	虐待防止・人権擁護の取組 ①全員参加の内部研修を 1回実施	① ア) 内部研修は事例検討形式でホームで実施 (3月)	○
	②関係機関等実施の外部 研修に参加	② ア) 参加できず(申し込んだが落選)	×
	③月1回定例の世話人会 議を実施、支援方法や利 用者対応についての相 談を実施	③ ア) 世話人会議で利用者情報や対応を共有し 支援の統一化を実施	○
	④年2回の虐待防止セル フチェックの実施	④ ア) 虐待防止セルフチェックを実施 (8月・2月)	○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームふくだ

管理者 吉本 ひろみ

開設してほぼ3年が経過し、支援員の入れ替わりもありましたが何とか安定した勤務体制が保っています。ご利用者もすっかり地域になじんでおられ、夏祭りや初詣なども楽しまれています。昨年悩まされた感染症ですが、この冬はインフルエンザ等の発症はありませんでした。しかし、お一人が外出活動から戻られた後体調不良となり、救急外来を受診、腸閉塞と診断されました。幸い手術は不要で10日ほどの入院でお元気になれましたが、緊急時の対応や付き添いについては課題が残りました。また、支援員がコーディネーターに依存する傾向は変わらずあり、どうしても支援員の判断力・対応力が不足気味となっています。障害特性への理解と対応の標準化も大きな継続課題ですが、職員会議の場を利用し事例検討の形で少しずつ知識を向上させるよう努めました。

1. 推進状況

区分	課題と具体策	実施状況	達成度
QOL	権利擁護・虐待防止のための支援 ①支援員・世話人の専門性向上の為の研修実施 ②年2回のセルフチェックの実施	① ア) 職員会議の時間を一部利用し、障害特性への理解、てんかんの際の対応などの研修を実施(9月・1月) ② ア) セルフチェックを実施(8月・2月)	○ ○
	マニュアルの整備 ①世話人・生活支援員業務(項目別)についてのマニュアルの見直し ②利用者個々の支援マニュアルを適宜更新	① ア) マニュアルについての見直しは一部着手 ② ア) 利用者個々の支援マニュアルについては状況に応じて更新	△ ○
	地域との連携 ①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃等地域の活動に参加 ②地域行事(夏祭り)などへの積極的な参加	① ア) 自治会に加入し、ゴミ収集箇所の清掃当番を実施 ② ア) 自治会主催の夏祭り(小学校で実施)に利用者とは参加	○ ○
	防災対策 ①年2回の避難訓練の実施 ②年1回の防災訓練の実施	① ア) 避難訓練・通報訓練を実施(11月・2月) ② ア) 防災訓練を実施(6月)	○ ○

区分	課題と具体策	実施状況	達成度
財務	利用率の安定維持 ①週 7 日のサービス提供と、利用率 87%維持 ②適切な障害支援区分への見直しを検討（ご家族・日中活動事業所との連携）	① ア) 週 7 日のサービス提供と、昨年度並みの利用率（94.7%）維持 ② ア) 1 名、適切な支援区分への見直し有り（支援区分 3 から 4 へ）	◎ ◎
	バックアップ機能の体制整備 ①コーディネーター（サービス管理責任者）配置によるバックアップセンター機能の検討 ②新たな法人内グループホームとの連携体制を試行	① ア) バックアップセンター機能については着手できず（ふくだの運営中心になりがち） ② ア) 近隣に新たに法人内グループホームが移転してきたが連携体制までは至らず	 × ×
	基本理念の浸透 ①キリスト教精神に基づく基本理念の理解 ②神戸聖隷ハンドブック（理念・接遇）の活用	① ア) 職員会議時に法人基本理念を唱和 ② ア) 職員会議時に接遇ハンドブックを活用	 ○ ○
人材育成	専門性の向上 ①世話人・生活支援員の専門研修への参加	① ア) 法人一般職員研修参加（1 名・6 月） イ) 感染症対策基礎講座参加（1 名・6 月）	 ○
	虐待防止・人権擁護の取組 ①全員参加の内部研修を年 1 回実施 ②サービス管理責任者、管理者による月 1 回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてのサポート ③年 2 回の虐待防止セルフチェックの実施	① ア) 全体研修として「権利擁護・虐待防止のための支援」研修を実施、11 名参加（3 月） ② ア) 月 1 回の職員会議時に支援方法等について情報共有を行い、支援を標準化 イ) 法令遵守等に関する職員研修にサービス管理責任者が参加（10 月） ③ ア) セルフチェックを実施（8 月・2 月）	 ○ ○ ○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸明生園
施設長 山本 隆志

第3期中期計画の最終年度となる今年度の計画を実施しました。

ご利用者の高齢、重度化が進むにつれて、順次対応を行いました。施設内の空間利用の方法を大きく変更することが求められる状況であると判断し、第4期中の寮再編成を実施することを決定しました。ご利用者、ご家族、職員の不安の解消に向けた取り組みが、次年度以降も続いていきます。

10回目になる神戸明生園作品展を予定し、10回記念オリジナルグッズの作成まで完了しましたが、世界的な新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の影響により、中止となったことは、大変残念でした。

ご利用者支援のマニュアルについて、一定の改訂が進みました。支援手順書の改訂については、複数の担当職員により、定期的な見直しが行えました。

人財不足については、年間を通して苦勞をした部分でしたが、施設内での連携強化で乗り切ることが出来ました。一人一人の支援員に感謝をしています。

働き方改革の一環として、業務省力化に着手しました。IoT機器については、引き続き、試行を行い、実情に応じた活用をしていきます。

神戸明生園のご利用者・ご家族・職員の笑顔が多くみられるように、引き続き各計画を続けていきます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
短期入所の安定した受け入れ	① 稼働率目標達成 ② マニュアルの運用、改定	① ア)年間目標値には届かず イ)新規契約は随時実施 ウ)インフルエンザ対策は成功 ② ア)マニュアル改定を実施 イ)対象者の個別マニュアルを作成	○
ニーズに合った生活の場、活動の場の再考	①グループホーム建設想定場所の詳細な調整実施	① ア)こうべ市民福祉振興協会へ村内 GH について打診（5月） イ)雇用情勢等現状を鑑み、一時凍結と判断	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズ、法人内ご利用者のニーズの再調査	① 短期入所緊急受け入れ枠再考 ② 法人内他事業所ご利用者への短期入所ご利用の更なる対応	① ア)緊急受け入れ実施の実績あり（4名） 緊急受け入れ態勢に課題有 ② ア)新規の契約者あり（6名） 継続利用者に加えて新規利用者も	○
重度加算への対応	① 加算対象研修追加受講継続 ② 支援計画シート改定	① ア)3名受講済み（8月） ② ア)4回の改訂実施 （4月、7月、10月、3月）	◎
積立金の計上	① 三千万円の積み立て実施 ② 経費を継続的に見直す	① ア)月次の収支状況の追跡を実施 ② ア)大塚商会担当者へ特に介護用品について価格見直しのため、見積り取りを実施	△
PTとの連携によるリハビリの実施	① リハビリについて、成果を検証し、結果をご本人、ご家族にお伝えする	ア)連携は行えており、新たな取り組みは随時行えている。成果についてのまとめは一部完了	△
重度高齢化への設備面での対応	① 旧館浴室リフトに対応した専用バギーの導入により入浴支援を充実させる ② 旧館改修案を策定する	① ア)バギー導入（5月） 女性のリフト浴を安定して提供 ② ア)委員会を再編することを決定し、次期計画に引き継ぎ実施	○
業務分析・業務標準化の実施	① 法人標準マニュアルに基づいたマニュアルの再改定 ② 第三者評価受審結果フィードバック研修の実施	① ア)改定実施（5月） ② ア)6月実施済み	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
支援記録システムの導入	① 支援記録ソフトを活用し、支援計画を反映した記録を行う ② ITC機器の活用(血圧、検温)による省力化	① ア) 一部のみ実施 (ヒヤリハット分析結果は共有実施) ② ア) 活用中(省力化の度合いは未測定) i-padの活用を実施。眠りスキャンについては、介護ソフトのみ連携、障害ソフトは現状未対応と判明した ロボット掃除機のデモを2回実施	△
虐待防止の徹底・接遇改善の推進	① 3か月に1度のチェックリスト実施 ② 接遇ハンドブック学習会(1回) ③ スローガンポスター掲示の継続	① ア) 3月に1度実施 ② ア) 全体職員会議で研修実施(4月) 職員会議にて第2回実施 ③ ア) スローガンポスターの継続実施	◎
豊かな暮らしの支援	① 神戸明生園作品展開催の継続(補助金等の積極的活用)開催場所の検討実施 ② 音楽療法の継続 ③ スヌーズレン活動継続	① ア) 補助金決定(4月)準備にて使用済 イ) 作品制作、場所決定、予約済み ウ) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は中止とした ② ア) 毎月予定通り継続提供(1月末まで) ③ ア) 実施(1月末まで)	○
業務に必要な技術の習得と研修内容・研修計画の検討	① 施設内研修計画の運用開始(新着人者向け) ② 外部研修助成制度の積極的な利用促進	① ア) 一部実施 ② ア) 2名申し込み行い、実施済み	○
法人理念の理解浸透と理念に基づいたサービスの提供	① 歴史資料館見学を実施し法人の歴史を学ぶ ② 法人内理念研修への積極的参加	① ア) 5名で見学実施(6月) ② ア) 他法人研修1名、海外研修2名	◎

2. 出来した事案

(1) ご利用者の施設内でのご逝去について

2019年6月6日(木)午前6時00分に新館1階個室において、男性のご利用者がご逝去されました。死因は心臓の急停止でした。

深夜の見守りは適切に行っていましたが、心停止を発見し救急通報するまでに時間が空いていたため、警察による検死が行われました。事件性は無く、司法解剖の結果も完全なる病死と診断されましたが、2018年末より見られていた、浮腫、腹水、胸水の医学的な原因については解剖をもってしても「不明」と診断されました。

ご家族からは、今までの受診、検査入院への支援に対して感謝の言葉をいただきましたが、49歳という若過ぎる逝去に施設全体が悲しみに包まれました。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 ケアホームきたすま
管理者 山本 隆志

高齢重度になられたご利用者が僅かでも「自宅である」と感じていただけるように、体調不良時にはホームで静養する方針を決めました。そのために必要な、対応可能職員の増員を行いました。

稼働率については、増加がみられております。その反面支援の手間は増えております。防火設備の使用方法を主とした職員を中心とした操作訓練を下半期に実施しました。関係機関（サビ管を含む）との連携のありかたについては、課題として残りました。

1. 推進状況

課題	具体策	実施状況	達成度
高齢重度化への対応	① 外出のみに頼らない、余暇活動の提供	ア) ホーム内に WIFI を設置 イ) 神戸明生園とのホームでの交流実施 (8月)	○
利用者の安全確保	① 火災訓練の継続 ② 体調不良時などへの対応方法の検討 ③ 移動支援等外部サービス利用継続	① ア) 点検時職員向け訓練実施 ② ア) ホームで過ごす方針の検討出しを実施 ③ ア) 継続実施中	○
予算に沿った収入の確保	① 利用率の向上	ア) 年間で延べ31人プラス	◎
設備改修・継続的運営に向けて	① 物件オーナーと連携、出来る限りの積立実施	ア) 具体的な話までは至らず	△
専門性の向上	① 外部研修への参加 ② 虐待防止の徹底 ③ サービス管理責任者との連携強化 ④ バックアップ体制の強化	① ア) 参加できず ② ア) 予定通り実施 ③ ア) 会議を1回実施(7月) ④ ア) 神戸明生園での対応可能職員が3名増えた(7月、8月)	○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸市立ワークセンターひょうご
神戸市障害者就労推進センター
神戸障害者就業・生活支援センター
障害者雇用就業・定着拡大推進事業
所 長 森 崎 康 文

第3期中期計画のトピックスとしては、①就労定着支援事業の安定化、②施設内のアメニティー向上、③地域交流活動、④グループホーム事業の進展があります。

まず、就労定着支援事業ですが、開設して1年半以上が経過し、全体的には概ねスムーズに卒業生の就労定着支援事業への移行が進んでいます。しかし、特に年度の前半に、利用希望されない方や定着支援期間中に離職された方が見られ、年間で予定した利用人数には達しませんでした。今後は引き続き、就労定着支援事業の意義やメリットを卒業生およびその家族に丁寧に説明して行きます。また、当センターの主な支援対象者である特別支援学校卒業生が学校からの直接就職者と就労継続B型利用など時間をかけて就労を目指そうとする方に二極化している現状からも、学校との違いを出す必要があります。その1つの鍵が“定着支援”であると考えており、手厚い就職後のサポートの実施を前面に出しアピールすべく、今後も定着支援の中身の充実を図っていきたいと思います。

次に、施設内のアメニティーの向上ですが、ロビーにある図書について、市立図書館より新しい図書を入手することで図書の入れ替えを行いました。また、図書以外にも、食堂の椅子を新調し、訓練生が過ごす環境を改善しました。上記以外にも、利用者の声を聞く意見箱については、中部在宅障害者福祉センター共通のものを設置と記入用紙の設置など新たな取り組みができました。今後も、訓練生や相談者が快適に施設を利用していただけるように環境改善に努めて行きたいと思います。

地域交流についてですが、夏休み期間中に近隣の小学生を招き、創作活動の機会を設けました。また、11月には近隣の小学校とそのご家族など30名の方を招き、施設体験や訓練生による飲食物の提供を通して地域の方々との交流を行いました。今後も地域に開かれたセンターを目指し、“細く長く”地域の方々との交流を進めて行きます。

最後にグループホームの進展ですが、6月のファミリー会でアンケートをとり、あらためてグループホームへの関心が高いことを確認しました。今夏、法人本部近くに適した物件があるとの情報を入手し、法人本部及び神戸友生園の協力を得ながら、グループホーム事業を進めて行く運びとなりました。9月にはグループホーム説明会を開催し、10月には入居希望者募集と面接を実施しました。結果、10名の入居希望があり、定員を充足することができました。その後は、世話人をはじめとする職員募集や神戸市等関係行政機関との連絡調整の末、当初の目標より1か月遅れの1月から事業開始ができました。今後は、支援の中身の充実を図りながら、グループホームが、入居者にとって“ほっとできる”心の拠り所となれるように努めていきたいと思います。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 区役所を通じ、近隣の自治会とのつながりを持つ</p>	<p>①地域交流イベントの開催（年2回）</p>	<p>ア)ほっとかへんネットの生活環境改善事業に参加（4、7月） イ)明親小学校の生徒4名を招き、創作活動を実施（8月） ウ)明親小学校の生徒と家族向けに交流イベントを開催（11月、参加者：7組30名）</p>	<p>◎</p>
<p>【共通】 福祉避難所としての施設整備</p>	<p>① 神戸市との協議 ② 必要な整備</p>	<p>①② ア) 障害者支援センターの動きがあるため、ワークセンターひょうご単独での動きには至らず</p>	<p>×</p>
<p>【共通】 法人基本理念、事例検討会を含めた内部研修の充実</p>	<p>① PCAGIP 法・応用行動分析を用いた事例検討会の開催 ②法人基本理念を含めた内部研修の実施 ③法人内部研修への積極的な参加 ④内部会議での基本理念の唱和 ⑤神戸聖隷ハンドブックの活用 ⑥法人の虐待防止基準表・判定表を使用した事例検討会の実施</p>	<p>① ア) 応用行動分析勉強会を開催（7、10月） イ) PCAGIP 法の事例検討を実施（2月） ② ア) 法人の海外研修報告会に出席（5月） ③ ア) 法人内部研修に積極的に参加【中級一般職員研修Ⅱ（10月）、法人課長研修（11月）、タイ・チェンマイ海外研修（11月）、総合職員研修（2月）など】 ④ ア) 全体職員会議での基本理念の唱和 ⑤ ア) 各職員会議で理念に触れながら「仕事をする上で大切にしていること」を職員が輪番で発言（10、11、1、2月） ⑥ ア)虐待防止基準表勉強会の実施（8、12月）</p>	<p>◎</p>
<p>【共通】 福祉の基礎研修の実施</p>	<p>①研修実施と研修の内容の見直し</p>	<p>ア)新任職員向けオリエンテーション及び中部在障内施設見学の実施（4、6月）法人の海外研修報告会に出席（5月）、 イ)てんかん勉強会【DVD鑑賞】（6月） ウ)経験の浅い職員が就業支援基礎研修（ラーニングセッション）を受講（8、9月） エ)法人内施設見学（愛生園、明生園、友生園、聖生園）（11月）</p>	<p>◎</p>

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
【就労】 精神・発達 障害者へ の支援の 強化	①現場実習の実施 ②就業支援アドバイザーの活用	① ア) 湊川病院と併設デイサービス見学(6月)、ひょうごこころの医療センターデイサービス見学(8、11月)、CAST, 発達の集い見学(8月) ② ア) 就業支援アドバイザーによる意見紹介(8、11月)	◎
【就労】 事業内容 の充実と 誠実な遂 行	①ネットワーク会議(就業・生活) ②就労移行支援部会の開催 ③教育関係機関就労支援連絡会の開催 ④ラーニングセッションの開催 ⑤中部地域ネットワーク会議の開催 ⑥6者会の開催 ⑦在職者交流会の開催 ⑧ドリームの開催 ⑨登録確認・現況調査の実施	① ア) ネットワーク会議の開催(5、2月) ② ア) 就労移行支援部会の開催(7、12月) ③ ア) 教育関係機関就労支援連絡会の開催(10、2月) ④ ア) ラーニングセッションの開催(8、9月) ⑤ ア) 中部地域ネットワーク会議の開催(7、10、1月) ⑥ ア) 6者会の開催(月1回) ⑦ ア) 在職者交流会を4回開催(7、10、12、2月) ⑧ ア) ドリームの開催(毎週金曜日、年45回、延べ997名参加) ⑨ ア) 688名の登録者に現況調査を送付。うち639名には併せて登録確認も送付。451名から返信があり、回収率は66.0%	◎
【ワーク】 積極的な 営業活動	①積極的な営業活動(訪問、見学や体験実習の積極的な受け入れ)	ア) 特別支援学校、普通校、定時制高校等、計23校を訪問 イ) 特別支援学校等から242名の見学を受け入れ リ) オープン見学会(神戸市主催)を開催(8月)し、43名の見学者を受け入れ エ) 特別支援学校等から33名の体験実習を受け入れ	○
【共通】 ホームペ ージの充 実	①タイムリーな情報発信、アクセス状況による内容の充実、効果検証 ②法人ホームページ、フェイスブックとの連動	① ア) ホームページにタイムリーな情報を発信(月2回以上更新) イ) 年間のアクセス件数は122,272件 ② ア) 法人ホームページの内容を更新(6月)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
【ワーク】 開所日数の増加と利用率向上	① 計画的な土曜開所とプログラムの充実	ア) 年間 26 回の土曜訓練を実施。 イ) 平均利用人数は 20.7 名。訓練生企画の回数を 4 回設けて、利用者の主体性を尊重し実施。	○
【ワーク】 一般就労者のグループホームの開設	① 土地情報の収集 ② 土地情報にもとづき家族会・ファミリー会に向け、3 年以内にグループホームの利用を希望する人を募り、検討会議を実施	① ア) グループホーム物件情報入手 (7 月) イ) ワンルーム型グループホーム 2 カ所見学 (8 月) ② ア) ファミリー会でグループホームに関するアンケートを実施 (6 月) イ) 理事会にグループホームアリエッタ北須磨開設に関する議案書を提案 (9 月) ウ) グループホームアリエッタ北須磨説明会の開催 (9 月) エ) 入居希望者面接の実施 (10 月) オ) 職員採用面接の実施 (10 月) カ) 神戸市への新規事業指定申請 (11 月) キ) 神戸市より GH 事業指定 (1 月) ク) GH の営業開始 (1 月)	◎
【ワーク】 「自立生活援助」 「就労定着支援」の事業所開設の検討	① 「就労定着支援」事業所の安定的・効果的な運営 ② 交流会の定期的な開催 (年 4 回)	① ア) 就職後 6 か月経過した卒業生に就労定着支援事業の案内と契約 (案内: 4、6、7、9、10、11、1 月、契約: 6、8、1、3 月) ② ア) 交流会を開催 (6、12 月) ※第 2 回交流会 (9 月: 台風接近のため)、第 4 回交流会 (3 月: 新型コロナウイルス感染拡大のため) 中止	○
【就労】 土曜開所の検討(月 1 回～)	① 月 1 回の土曜開所 ② ホームページ等を通じた周知 ③ 利用状況の分析、相談者へのアンケートによるニーズ調査、今後についての検討	① ア) 月 1 回、第 3 土曜の開所を実施。来所 27 名、電話相談 33 名 ② ア) 先 3 か月の土曜開所の予定をホームページに掲載 ③ ア) 現況調査票の質問内容の追加・更新作業を実施 (6 月) イ) 現況調査の実施 (8 月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
【共通】 施設内環境整備	① ロビーのリニューアル ② 食堂の椅子の新調 ③ その他	① ア)ロビー用時計を購入し設置 (5月) ② ア)食堂の椅子を購入し入れ替え (8月) イ) ほっとロビー用のコップ等を新たに購入 (5月) ③ア)ロビーの図書を入れ替え (6月) イ)ご意見BOXについて検討 (10月) ※中部在障運営会議で検討し、各階共通で実施することに決定 (3月から共通のものを1階に設置) ウ)点字用「福祉のあらし」の設置場所を整理 エ)2階フロアの掲示コーナーの更新 (5、8、9、10、11、1月)	◎
【共通】 研修受講一覧の整備と外部研修の積極的な受講	① 外部研修の積極的な受講	ア) 主任就業支援担当者研修、日本職業リハビリテーション学会、リカバリーフォーラム、相談支援・就業支援セミナー、職場適応援助者養成研修及び支援スキル向上研修修了者サポート研修、障害者雇用促進セミナー等、67研修延べ130名が外部研修を受講	◎
【共通】 接遇ハンドブックの活用	① 接遇ハンドブック学習会の実施 ② 接遇アップキャンペーンの実施	① ア) あいさつの項目を朝礼で確認 (6月) ② イ) 接遇アップキャンペーンを実施 (6、9、12、3月)	○
【就労】 未登録の相談(新規相談)の記録のデータ化	① 昨年度作成した「相談の流れ」の運用と見直し	ア) 昨年度作成した「相談の流れ」を新入職員に配布 (5、6月) し、その後運用を実施	◎
【共通】 日々の業務のマニュアル化	① 法人標準マニュアルに沿った施設独自のマニュアル作成 ② 個人情報管理、リスク管理等についてのマニュアル運用と見直し	① ア) 業務マニュアル(昼食支援)についてのマニュアルを改訂し、運用 (10月) ② ア) 個人情報管理、リスク管理マニュアルについては昨年作成したものを運用 イ) 法人の個人情報に関する標準化マニュアル原案作成 (12月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 日々の業務のマニュアル化のつづき</p>	<p>③ワークセンターひょうごの業務・支援マニュアル運用と見直し</p> <p>④ほっとロビー、ドリームについての支援マニュアル運用と見直し</p> <p>⑤見学者・ボランティア受け入れマニュアルの整備</p> <p>⑥業務の見直しによるワークライフバランスの改善</p> <p>⑦顧客満足度調査の実施</p>	<p>③</p> <p>ア) 作業マニュアル（紙袋作製）の見直し（5月）</p> <p>イ) 業務マニュアル（同窓会、個別支援計画）の見直し（7月）</p> <p>ウ) 作業マニュアル（コーヒー作業）の見直し（10月）</p> <p>④</p> <p>ア) ドリームマニュアルを新入職員に配布（6月）、ドリームの今後について担当者で意見交換を実施（9、3月）</p> <p>⑤</p> <p>ア) 福祉体験利用者・ボランティア受け入れについて他施設の取り組み状況について情報収集（12月）</p> <p>⑥</p> <p>ア) 有休取得率の確認、30時間以上の時間外勤務者の確認（毎月）</p> <p>⑦</p> <p>ア) 満足度調査を実施（12月）</p>	<p>◎</p>

2. 出来た事案
特にありません

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
グループホームアリエッタ北須磨
管理者 森崎 康文

一般就労された障害者の中には中高年に差し掛かり、本人・家族からも将来の生活に対する不安の言葉を耳にすることが増え、就労障害者の将来の生活の場の1つであるグループホームの確保が長年の課題でした。

しかし、就労している障害者は、勤務時間や勤務日が様々な上、比較的自立度合が高く、共同生活を主体とした従来型のグループホームに適さない方が多くおられます。そこで、これまで入居者のプライベート空間を維持できるワンルームタイプの物件を探してきましたが、なかなか適した物件が見つからない状況でした。

そのような中、今夏、法人本部にも近く、近隣にスーパーなどもある利便性が高いワンルームタイプの物件が偶然にも見つかりました。年度途中の急な話ではありましたが、この機を大切に法人本部の強力なバックアップのもと、開設に向けて具体的な動きを始めました。その結果、当初予定より1か月遅れましたが、2020年1月に開設することができました。

これからも引き続き、障害のある方が安心して生活ができ、一人ひとりの「働きたい」との思いをサポートして行くとともに、入居者にとっての“心の拠り所”となるホームづくりに努めて行きます。また、バックアップ施設であるワークセンターひょうごとも密に連携し、利用者が安定した職業生活を送れるように、職員の確保と育成に努めていきます。

1. 進捗状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
理念の浸透	① 基本理念の浸透	① ア) 世話人と生活支援員に対して、オリエンテーション時に法人の基本理念について説明を実施(12月)	△
人材の育成	① 専門性の向上 ② 虐待防止と人権擁護の取り組み	① ア) 1月からのスタートのため、研修等は未実施 ② ア) オリエンテーション時に虐待防止について説明を実施(12月)	△
安定的な経営	① 利用率の安定 ② バックアップ施設の体制整備	① ア) 利用率1月37.4%、2月80.3%、3月82.3%(目標の85%は未達成) ② ア) ワークセンターひょうごとして可能な範囲でバックアップを行うが、体制整備は未達成	×

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
QOL の向上	① 健康管理 ② 余暇の充実 ③ マニュアルの整備 ④ 地域との連携 ⑤ 防災対策	① ア) 日々の食事量や検温チェックで利用者の体調把握を実施。必要に応じて、協力医療機関と連携 ② ア) 開設 3 か月間ではホームとして余暇活動の提供は未実施 ③ ア) 世話人、生活支援員向けの 1 日の業務マニュアルと個別対応が必要な利用者のマニュアルを整備 ④ ア) 3 月の地域のまつりに参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止 ⑤ ア) 消防設備点検業者の選定完了(3 月)。ただし、利用者参加による避難訓練については未実施	×

2. 出来た事案
 特にありません

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
ひょうご障害者地域生活支援センター
神戸市障害者基幹相談支援センター
神戸市発達障害者中部相談窓口
所長 森崎 康文

第3期中期計画の最終年度の取り組みを報告いたします。

ひょうご障害者地域生活支援センター、神戸市障害者基幹相談支援センター、神戸市発達障害者中部相談窓口のそれぞれの取り組みについてですが、まず最初にひょうご障害者地域生活支援センターの報告をします。

地域交流では「ほっとかへんネット兵庫」に参画し、生活環境改善事業への取り組みや実務者会、施設見学等を行いました。また8月に「福祉何でも相談窓口」として地域の夏祭りに参加したり、12月には長野県に災害ボランティアとして被災者支援を行いました。地域ニーズの把握の場として区自立支援協議会の4つの部会活動、2つのプロジェクトを通じて、障害当事者や関係機関からの声を聞く機会を設けました。「防災を考える部会」では川池地区の防災福祉コミュニティのみなさんや地域の方と一緒に「ふれあいワークショップ」を開催し、アイマスクや白杖持った方の手引き体験をしたり意見交換を行いました。8月には神戸市から兵庫区障害者支援センターとして委託を受け、新たに見守り支援事業を開始しました。区のおんしんすこやかセンターや民生委員児童委員協議会の定例会議に参加し関係機関への挨拶、事業の周知に努めました。毎月見守り支援員連絡会にも参加し、今後は台帳整備等具体的な支援を行っていきます。10月には近隣の高齢者施設と一緒に基幹福祉避難所開設訓練を行い、今後は災害時の要援護者支援のあり方についても検討が必要となっています。

次に神戸市障害者基幹相談支援センターは、神戸市内の特定相談支援事業所の後方支援に努めてきました。年に3回（7月、11月、2月）連絡会及び研修会を開催し参加者の声を踏まえながら、市内の特定相談支援事業所の方々に資する研修等を提供できるよう神戸市障害者支援課とも打ち合わせ、振り返りをしながら開催しました。兵庫県相談支援従事者研修コア会議や圏域コーディネーター連絡会、地域生活支援センターの階層別連絡会にも毎月参加しています。また来年度から研修体系の見直しにより新カリキュラムを実施することになり、初任者研修の企画構成委員としての役割を担います。

神戸市発達障害者中部相談窓口では、8月に「発達障害への理解を深める」ことを目的に兵庫県専修学校各種学校連合会「教職員教養講習会」で発達障害と就労支援について講演を行いました。昨年度専門学校への訪問をしていたこともあり、身近な相談機関として窓口のアピールにもつながりました。また担当エリア（兵庫区、長田区、須磨区、中央区）の定時制高校6校への訪問等を行い教育現場との連携にも取り組みました。担当教員と直接話をすることで、其々の学校の特色や困り事を知る機会になり、多数の生徒が進路先として福祉的就労をしており、連携した支援の必要性が明らかになっています。

最後に2階全体の取り組みとして、内部研修担当者が中心となり就労推進センターやワークセンターひょうごとも「応用行動分析」「PCAGIP法」を用いた事例検討会を全職員を対象に実施しました。共通事例を用いてグループワークをしたり、事例提供者を中心にケースを深める等他部署とも一体的に学びの場を持つことができました。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>【地域】 「ほっとかへんネット兵庫」の活動への参画</p>	<p>①「ほっとかへんネット兵庫」の構成メンバーとの関係構築 ②公益的取り組みの検討・実施、振り返り</p>	<p>①ア) ほっとかへんネット兵庫実務者会議に出席 (7、11、2月) イ) 「ほっとかへんネット兵庫」総会に出席 (5月) ウ) 「福祉なんでも相談窓口相談員研修」に参加 (6月) エ) 命を守るその覚悟はあるか? ～災害時の福祉施設運営を考える～研修に参加 (1月) オ) 宝地院保育園、海光園施設見学 (7、11月) ②ア) 生活環境改善事業審査会に出席 (4、3月) イ) 生活環境改善事業に参加 (4、7、3月) ウ) 地域のお祭り (神戸祇園小学校、平野盆踊り大会) で「福祉なんでも相談窓口」のPR活動を実施 (8月) エ) 長野行き災害ボランティアに参加 (12月) オ) 近隣高齢者施設と共に基幹福祉避難所開設訓練を実施 (10月)</p>	<p>◎</p>
<p>【地域】 地域におけるニーズの把握と対応</p>	<p>①地域のニーズ把握・結果分析の継続と対応</p>	<p>①ア) 活性化部会 (5、7、9、11、1月) イ) 相談支援部会 (5、7、9、11、1月) ウ) 防災を考える部会 (6、8、10、11、1月) 川池地区防コミとふれあいワークショップ (12、2月) エ) 事業所部会 (6、8、10、12、2月) オ) 区協議会総会 (5月) カ) 運営委員会 (4、6、10、12、2月) キ) 身体知的相談員連絡会 (4、8、12月) ク) 事業所ガイドブックワーキング (6、7月) ケ) 3月開催予定の自立支援協議会関係の部会は新型コロナウイルス感染防止の観点からすべて中止</p>	<p>◎</p>

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
<p>【地域】 調査業務の分担に関する調整、及び小規模センターの設置要望</p>	<p>①調査業務等の確実な実施とそのための継続的な区との業務に関する協議 ②業務の進め方の見直しによる職員のワークライフバランスの改善</p>	<p>①ア)区役所との調査の割り振り、ケース共有打ち合わせ(各月) ②ア)区役所の課長、係長と小センター設置について協議(8、9月) 北部地域サテライト設置のための予算請求は見送る(10月) イ)地域定着支援(1件/7月～) ウ)計画相談の進捗管理(26件)</p>	○
<p>【共通】 他の福祉分野との連携による相談支援の拡充と総合相談窓口化に関する動向の把握</p>	<p>①ケアマネ等との交流の場の検討 ②総合相談窓口化に関する、国・市等の最新動向を逐次把握</p>	<p>①ア)ケアマネと交流可能な事業所を課長、主任で確認(6月) イ)見守り支援事業の案内のため区あんしんすこやかセンター定例会(11月)、区民児協定例会に参加(1月) ②ア)圏域コーディネーター会議に出席し、最新の動向を市内の障害者支援センターや神戸市に報告、協議(各月) イ)相談支援人材育成体系等検討会に出席(10月) ウ)研修体系の見直しによる新カリキュラムのワーキングに出席(10月)</p>	○
<p>【共通】 法人フェイスブック(FB)、支援センターブログ等の有効活用</p>	<p>①FB、ブログの更新・内容の充実 ②効果検証</p>	<p>①ア)法人FBに記事を掲載(7月：神戸市障害者基幹相談支援センター、11月：ひょうご障害者地域生活支援センター、3月：神戸市発達障害者中部相談窓口) イ)法人HPを更新(6、8、11、2月) ウ)法人HPに兵庫区の方の問い合わせがあり翌日来所相談にて対応(7月) ②ア)年間を通じてブログの更新の回数が少なく効果検証は未実施</p>	△

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 各事業の 内容の共有化と見える化(職員会議、各事業に関する資料整理など)</p>	<p>① 各事業内容の共有 ② 振り返り ③ 整理した資料の更新と活用 ④ 各相談支援事業の内容と相談支援の流れを作成 ⑤ 顧客満足度調査の実施</p>	<p>①ア) 全体職員会議で各事業の最新動向、トピックスを共有(各偶数月) イ) ひょうご障害者地域生活支援センター、神戸市障害者基幹相談支援センター、神戸市発達障害者中部相談窓口合同の朝礼により、ケース共有等を実施(毎日) ロ) ひょうご障害者地域生活支援センター、神戸市障害者基幹相談支援センター、神戸市発達障害者中部相談窓口合同の会議時にケース検討やトピックスを共有(毎月) エ) 全体職員会議時に法人総合職員研修「研究発表」会の発表をビデオ鑑賞(2月) ②ア) 振り返りは未実施 ③ア) 各相談機関の事業関係の書類を整理・更新(各月) ④ア) 就労相談部門(就労推進センター)、就労移行支援事業(ワークセンターひょうご)、神戸市発達障害者中部相談窓口、ひょうご障害者地域生活支援センターの相談マニュアルを整備、回覧(3月) イ) 法人 QOL 部会による虐待防止基準表を用いた研修会に参加(5月) ロ) ワークセンターひょうごと合同で虐待防止事例検討会を実施(6、12月) ⑤ア) ひょうご障害者地域生活支援センターの満足度調査は、計画相談支援サービスの契約者9名を対象者に実施(12月)</p>	○
<p>事例検討の開催</p>	<p>①事例検討の継続</p>	<p>ア) 2 階フロアの全職員を対象に応用行動分析を用いた事例検討会を開催(7、1月) イ) 2 階フロアの全職員を対象に PCAGIP 法を用いた事例検討会を開催(1、2月) ロ) 野中式事例検討会に参加(10月)</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
大学、専門学校との関係構築	① 学校へのフォローアップ、個別ケース対応 ② 振り返り	①ア) 担当区内（兵庫区、中央区、長田区、須磨区）の定時制高校 5 校を訪問、1 校は電話にて窓口の紹介を行う（5、6、10、11 月） ②ア) 訪問記録を作成し、担当者間で振り返りを行う（12 月）	◎
教職員との勉強会の開催	① 勉強会の実施 ② 振り返り	①ア) 兵庫県専修学校各種学校連合会の教職員講習会で発達障害と就労支援について講演を行う（8 月） イ) 学校関係者と挨拶、気になる生徒の有無について確認するが、以降特に相談等はなし ②ア) 年間を通じた振り返りは行えなかった	○
児童福祉分野の知識の習得とそれらの関係機関との連携	①研修への参加と関係機関との交流	ア) 須磨区自立支援協議会総会に出席（5 月） イ) 須磨区自立支援協議会親子部会に参加（4、6、9、10、2 月） ウ) 須磨区自立支援協議会「動作法でリフレッシュ」に参加（10、2 月） エ) 「すまっこナビ」説明会に参加（7 月） オ) 友生支援学校の福祉学習会に出席（7 月） カ) 活性化部会「おしゃべり会」を特別支援学級に在籍している親御さんを対象に開催（7 月）	◎
市内特定相談支援事業者連絡会の充実	①連絡会及び研修会の開催、検証	ア) 第 1 回市内特定相談支援事業者連絡会【参加者 51 名】、第 2 回市内特定相談支援事業者連絡会【参加者 43 名】、第 3 回市内特定相談支援事業者連絡会【参加者 32 名】（7、11、2 月） イ) 毎回の研修会の内容を神戸市障害者支援課と協議、実施後は振り返りを行う（8、12、2 月）	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
スーパーバイズ(SV)の強化	① SVの定例実施	ア) 主任によるSV実施(9、12月) 課長面談を実施、記録を作成し上司に報告(6、9、12月) イ) 神戸市主催相談支援機能強化研修(ファシリテーション)に参加(11月)	○
相談支援従事者育成プログラムの作成	① 育成プログラムの作成と実施 ② 振り返り	① ア) 神戸市事務担当者研修、障害支援区分研修に新着職員が参加(5月) イ) 障害福祉新人研修に参加(6月) ウ) 育成プログラムに沿い、先輩職員と一緒に訪問同行、書類作成を行う(7月) ② ア) SV時に主任、課長と振り返りを行い進捗確認、振り返りを実施(6、9、12月)	△
内部研修の充実	① 施設内部研修の継続 ② 全体職員会議での基本理念の唱和 ③ 神戸聖隷ハンドブックの活用 ④ 法人内部研修への積極的な参加	① ア) 内部研修として応用行動分析、PCAGIP法による事例検討会を実施(7、1、2月) イ) 虐待防止基準表・判定表を用いた研修を実施(8、12月) ② ア) 全体職員会議で、基本理念の唱和を実施(各偶数月) ③ ア) ハンドブックの内容を確認、職員会議時に職員によるお話しを行う(7月以降毎月) ④ ア) 海外研修報告会(5月) イ) 一般職員研修(多職種間連携)(7月) ウ) 一般職員研修(中堅フォローアップ)(10月) エ) 上級一般職員研修(1月) オ) 課長研修(11月) カ) 総合職員研修(2月)	◎

2. 出来た事案
特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 ひょうごデイサービスセンター
 施設長 大嶋 信幸

第3期中期計画の最終年度は、人材確保、定着に非常に苦労した年度となりました。理学療法士不在に伴い8月下旬より機能訓練事業を休業し、関係機関や法人と連携しながら理学療法士の確保に努めて参りましたが確保に至らず、再開することができませんでした。再開を待ち望んでいる利用者様には大変申し訳なく、引き続きあらゆる手立てをもって確保に努めて参ります。また、6月に雇用した看護師の12月退職や、支援員の入れ替わりなど、定着に向けた取り組みの難しさを痛感しました。

このような状況の中、事業計画については最終年度のゴールを見据えて、各チームとも着実に推進しました。人材定着に向けての取り組みとして、エルダー制度のマニュアルが完成し、新着職員4名にマニュアルを用いての人材育成を行いました。また、新たな取り組みとして、外部講師を招いて全職員を対象にした理念研修を2回行い、理念の理解、浸透を図りました。支援員の身体的負担軽減のために昨年度から検討していた装着型介護ロボットの導入については、新たな機器の提案があり、2機種を用いてのデモンストレーションを行った結果、マッスルスーツ Every（11月発売）1台とエアロバック2台を年度末に導入することができました。次年度は導入した機器の円滑な運用を目指します。

障害者支援センターとして昨年8月から開始しました地域生活支援拠点の役割では、家族の高齢化に伴う体調不良等による緊急短期入所の要望が多く、なんとかお受けしようと対応に苦慮しました。その結果、延べ75人の緊急利用の方を受け入れることができました。併せて夜勤体制の見直しも行い、ご利用状況により一人夜勤体制での支援を行うことで短期入所事業の継続に努めました。

職員体制の都合により第4期に持ち越した計画もありますが、概ね遂行できました。ここ数年課題となっています収支状況については、入院による利用の低下が著しく、厳しい状況が続いています。細かい分析を行いつつも、利用者に寄り添った支援を継続していきます。

まだまだ多くの課題がありますが、職員全員で検討を行い策定した次年度からの第4期中期計画に向けて、一人ひとりが力を合わせて前向きに取り組んでいきたいと思えます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
緊急時の短期入所受入	①緊急時の受入体制（受入スペース・緊急時受入記録票）の整備 ②緊急時の受入実施	① ア) 受入スペース、ルールの整備（7月） イ) 地域生活支援拠点等の届出（7月） ウ) 神戸市へ緊急受入の定義を確認（9月） エ) 神戸市作成「緊急受入連絡票(案)」、マニュアル、意見票の共有（3月） ② ア) 緊急時受入実施 延べ55人（4～9月） イ) 緊急時受入実施 延べ20人（10～3月）	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
積極的参加	①役員定例会への出席 ②生活環境改善事業等への参加	① ア) 役員定例会に所長が出席(5月、9月、3月) イ) 実務者会議、総会に所長、担当課長が出席(4月、5月、6月、11月、2月、3月) ② ア) 生活環境改善事業へ中部在障職員が参加(4月1人、7月5人、3月1人)	○
ボランティアの募集から定着までのシステム確立	①受入マニュアル・カードの運用と更新(交通費とボランティア保険の検討)	ア) 登録ボランティアにボランティア保険加入の確認(5月、7月) イ) ボランティア募集の依頼: 神戸翔風高等学校・近隣小学校(6月) ウ) 台帳、マニュアルの確認と整理・更新(12月)	△
月次実績表内容を全職員と共に分析	①目標値達成状況月次チェック表、月次利用率実績表の活用 ②各事業実績共有会議の毎月開催 ③年度目標値(利用者延人数・給付費収入)の達成	① ア) 全体職員会議にて全事業の実績状況・分析を共有(6月、3月) イ) 各事業にて利用率実績表を活用することを共有 ② ア) 生活介護・就労B(6月、8月、11月) インクルージョン(7月、9月、10月)にて実績共有会議を開催 ③ ア) 就労B, アクシスは達成	○ ○ △
相談支援事業への広報、案内等の推進、支援学校進路担当者との連携	①神戸市中部地域各区支援センター、友生支援学校へ訪問 ②友生支援学校の在籍者と2022年3月までの卒業予定者(内利用見込み人数)の確認	① ア) 電話、面談にて情報収集(適宜) ② ア) 2020年度まで確認済み イ) 2021、2022年度友生支援学校在籍者・利用見込み者確認(3月)	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
職員配置・提供体制の見直し	①入浴サービス提供体制の見直し ②ひょうごデイ全体で効率的な送迎車運行 ③アクシスひょうご夜勤体制の見直し	① ア) 入浴サービス提供体制の見直しを検討(5月～9月) イ) 検討したが見直しには至らず ② ア) 効率的な送迎コースの検証(4月～9月) イ) 検証したが現在の状況では変更点なし ③ ア) 当日の利用予定人数により一人夜勤を実施(4月～9月) イ) 「一人夜勤について」定義の策定(12月～3月) ウ) 夜勤専任職員へ策定した定義を説明	△ △ ◎
「医務・理学療法」の機能強化	①ひょうごデイ医療ケア一覧表と各利用者医療ケアマニュアルの更新 ②看護師の役割と業務分担の見直し ③看護師の雇用・定着	① ア) 医療ケアマニュアルの更新(適宜実施) イ) 「医療的ケア指示書」書式作成(2月、3月) ② ア) 医務ミーティングを開催し、情報の共有と連携を強化(毎月) イ) 看護師協働体制検討(10月、12月) ③ ア) 常勤看護師の雇用(6月～)	○
夜勤専任看護師の配置	①夜勤専任看護師を配置し、要医療ケア利用者を受け入れる	ア) 要医療ケア利用者の受け入れ(延べ77人) イ) 要医療ケア利用者の情報共有のために夜勤専任看護師2人で夜勤を実施(9月) ウ) 要医療ケア利用者の緊急受入(看護師配置不可により家族に協力依頼)(3月)	○
吸引等医療行為資格保有支援員による医療ケア実施	①介護職員による医療行為実施施設の申請 ②資格保有者によるケアの実施	①② ア) 上半期は指導者異動により不在のため未実施。 イ) 下半期は看護師体制が整わず未実施 次年度内(2020)に実地演習を予定	×

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
マニュアル作成・マニュアル更新システムの整備	①防犯・面談マニュアル作成 ②法人マニュアルに沿った見直し ③マニュアルの周知徹底・更新システムの構築	① ア)未着手 ② ア)法人標準マニュアルに沿った、既存マニュアルの改訂作業実施(5月～7月) イ)既存のマニュアルの確認と整理(8月～11月) ウ)第2期神戸聖隷標準マニュアルの確認(12月～3月) ③ ア)職員会議にて進捗状況の共有(6月)	△
リスクマネジメント委員会の運営	①定例委員会の開催 ②ヒヤリ・事故報告の分析と啓発活動	① ア)委員会開催(毎月) ② ア)過去に発生した事案から傾向を掴み、各セクションで注意喚起(8月) イ)ヒヤリハット報告の書式改訂(3月)	○
虐待チェックと事例検討会の実施	①年2回の虐待チェック実施 ②虐待防止基準表を使用した学習会の実施	① ア)虐待セルフチェック実施(9月、2月) イ)課長ヒヤリング実施(10月) ② ア)学習会実施(7月、1月)	○
満足度調査の実施	①満足度調査の実施と結果検証・報告	ア)満足度調査実施(10月、11月) イ)満足度調査回収(12月) ウ)満足度調査集計・検証(1月)	○
研修計画に基づいた研修への派遣と事業所内研修の実施	①研修計画に基づいた法人内外研修への派遣 ②新着職員、虐待防止、専門等の研修の年4回以上の実施	① ア)法人研修派遣(14件 延べ27人) イ)外部研修派遣(22件 延べ25人) ウ)事業所内研修実施(12件) ② ア)新着職員研修(5月、7月) イ)虐待防止研修(7月、12月、1月) ウ)支援力向上のための研修(6月、7月、8月、10月、11月)	○
人事考課制度の確実な実施	①年間運用計画表の確実な実施	ア)目標設定、目標設定面接実施(4月) イ)目標進捗管理(毎月) ウ)自己評価(11月) エ)一次・二次評価実施(12月) オ)施設評価審議会実施(12月) カ)フィードバック面接実施(2月、3月)	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
エルダー制度確立	①エルダー制度マニュアルの作成・見直し	ア)エルダー制度マニュアル第1版完成(7月) イ)マニュアルを運用しながら見直し(8月～12月) ウ)マニュアル改訂(1月)	◎
課題の共有と解決力向上	①各部署会議の月1回開催 ②3か月に1回の全体職員会議開催	① ア)アクシス夜勤者会議・医務ミーティング(毎月) イ)食事サービス検討委員会(毎月) ② ア)全体職員会議開催(6月、10月、12月、3月)	○
有休休暇取得率の向上と残業の削減	①取得率50%以下の職員の前年度プラス1日取得のための現状把握、誕生日休暇の計画的取得 ②月30時間以上の時間外勤務の削減のための実態把握と業務分析	① ア)誕生日休暇取得予定月確認(5月) イ)誕生日休暇取得予定月を基に勤務表を作成(毎月) ウ)有休取得状況の確認及び状況に応じて取得に向けた声掛け実施(9月～3月) ② ア)月30時間以上の職員の把握(毎月) イ)月30時間以上の職員の業務内容の確認(5月、8月、9月、10月、11月、3月)	△
介護ロボット・IOT導入	①マッスルスーツの導入 ②送迎支援システムの検討	① ア)マッスルスーツ Edge、エアロバックのデモンストレーション、事後に職員向けアンケートを実施(8月、9月) イ)新型マッスルスーツの情報収集及び、デモンストレーションの調整(9月) ウ)新型マッスルスーツ Every のデモンストレーションを実施。(11月) エ)助成金の申請を神戸市へ提出。(1月) オ)マッスルスーツ Every 1台・エアロバック2台導入。(3月) ② ア)送迎支援システム(DLIVEBOSS)のデモンストレーション実施(6月～9月) イ)センターでは導入に至らず	◎
業務の見直し、課題の明確化	①各事業で業務見直し検討	ア)職制以上の決済欄を事業・内容に応じて見直し(9月) イ)業務の見直しは未着手	×

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
理念研修の実施	①神戸聖隷ハンドブックの活用 ②外部講師による理念研修の開催 ③法人理念研修への参加 ④毎週月曜日朝礼時に法人基本理念・ひょうごデイ基本方針の唱和	① ア)各セクションで輪読（毎月） ② ア)吉川講師による理念研修開催（8月、11月） イ)振り返りアンケート実施（8月、11月） ③ ア)他法人（イエス団）理念研修参加（6月） イ)他法人（聖隷福祉事業団）理念研修参加（1月） ④ ア)法人基本理念・ひょうごデイ基本方針の唱和（毎週月曜日）	○
接遇ハンドブックの活用	①接遇ハンドブックの年1回以上の勉強会実施	ア)各セクションで輪読 多機能（6月、8月、9月、11月、12月、2月、3月） インクルージョン（7月、9月、10月、12月、3月） アクシス（6月、8月、10月、12月、1月、3月）	○

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸市立自立センターひょうご
 施設長 大森 陽子

第3期中期計画の最終年度が終了し、計画していた内容は概ね達成することができました。

中期計画においての大きな課題は、ご利用者の重度化、高齢化への対応でしたが、今年度の成果としては、8月から理学療法士による機能訓練プログラム「エイジングマネジメント」をスタートできたことでした。希望者へのオプションプログラムという形ではありますが、高齢化に伴う身体機能の低下防止に役立つものと思われま。職員・家族向けにも、高齢化や機能訓練の意義と必要性について、勉強会を開催し、学びを深めることができました。

次に、ご利用者が安心・快適に過ごせるための取り組みとして、活動スペースの見直しや整備を工夫して行いました。開設から20年以上が経過したことによる老朽化や構造上の課題については、大規模な改修工事が必要なため、設計士による改修設計図案をもとに、12月に神戸市との話し合いを行いました。バリアフリーで安全性の高い環境整備のための大規模改修実現に向けて、今後も積極的にアプローチをすすめたいと思います。その他、空調設備の更新、以前から要望が強かったトイレの空調設備の新設、送迎用のマイクロバスの入れ替えなど、設備の充実を図りました。

サービスの根幹である支援力については、虐待防止チェックリストの分析をもとに、支援の振り返りのグループワークを実施し、支援で大切なことについて話し合い、守るべきことを決めました。他にも、基本理念や接遇向上についての内部研修の実施、専門性を高めるための外部研修の受講、第三者評価の改善計画で挙げられた支援マニュアルの整備などにより、職員の資質向上に努めました。

今年度の取り組みと成果を土台として、次年度からの第4期中期計画で掲げた「利用者・家族の今日と明日を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります」というビジョンの実現に繋げていきたいと思ひます。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
基本理念研修の開催	①吉川講師による基本理念研修の開催(年6回) ②基本理念ハンドブックの輪読と分かち合い	①年6回の基本理念研修を実施(5、7、9、11、1、3月) 研修ごとに吉川講師との打合せ、参加職員への振り返りアンケートを実施。 ② ア)毎週月曜日にハンドブックを輪読 イ)朝礼スピーチで各職員のハンドブックへの思いを分かち合い(7～8月、1～2月) ③タイでの海外研修(理念研修)に参加(11月)。聖隷福祉事業団の他法人理念研修に参加(1月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
事業計画に基づいた目標設定	<p>①各グループ目標の設定</p> <p>②年間目標に対して、1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月・10ヵ月ごとに達成目標を設定。進捗状況は支援力担当を交えたグループでの振り返りを行い、確実に目標達成できるようにする</p>	<p>①各グループで年間目標について話し合い、目標を設定(4月)。職員会議で共有。</p> <p>②</p> <p>ア)4月からの1ヵ月後(5月)・3ヵ月後(7月)・6ヵ月後(10月)、10ヵ月後(2月)の到達目標を各グループで設定。</p> <p>イ)1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月の目標達成度について各グループにて振り返りを実施(6、8、11月)したが、10ヵ月の振り返りは実施できず。</p>	△
研修体系の構築と外部研修への参加	<p>①支援マニュアル(QOL部会提示の16項目)の整備と更新</p> <p>②「強度行動障害支援者養成研修」「PECS研修」への参加(継続)</p> <p>③障害特性別研修への参加</p> <p>④第三者評価結果に基づいた改善計画の策定</p> <p>⑤接遇ハンドブックを活用した研修の開催</p> <p>⑥虐待防止基準表・判定表を用いた事例検討会の開催と結果報告</p> <p>⑦虐待防止チェックリストの年2回の実施</p> <p>⑧満足度調査の実施</p>	<p>①</p> <p>ア)QOL部会提示の6項目の標準マニュアルのうち、入浴を除く5項目のマニュアルを整備。職員会議で共有(6月)</p> <p>イ)QOL部会提示の第2期前期分6項目のマニュアルを作成。</p> <p>②</p> <p>ア)強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】(9月)【実践研修】(2月)に各1名参加。</p> <p>イ)PECS研修に職員2名が参加(6月)</p> <p>③</p> <p>ア)プラダーウィリー症候群支援者報告会に参加(6月)</p> <p>イ)てんかん基礎講座研修に参加(7月)</p> <p>④</p> <p>ア)改善計画についての話し合いを実施(4、8、9、11、1月)</p> <p>イ)改善計画を策定し、一部実施。</p> <p>⑤</p> <p>ア)毎週水曜日と接遇アップキャンペーン期間にハンドブックを音読</p> <p>イ)接遇向上研修を実施(7月)</p> <p>ウ)接遇チェック表を全職員に配布・回収(8月)</p> <p>⑥</p> <p>ア)虐待防止接遇向上委員会の立ち上げ(4月)</p> <p>イ)虐待防止基準表・判定表事例検討会を開</p>	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
		催(8、11月) ⑦上半期虐待防止チェックリストの実施と個別ヒアリング(9月)。下半期チェックリストの実施(2月)。 ⑧満足度調査を実施して結果を集計し、職員会議で共有。	
営業活動ツールの作成及び見直し	①HPの定期的な更新(アプリを使った動画の作成) ②Facebookの入稿 ③支援学校実習時の体験プログラムの充実 ④支援学校訪問(自立センターをアピール)	①HPの更新(月1回)。動画の作成は未実施。 ②Facebook入稿(5、7、8、11、3月) ③プログラムチームで、実習受入マニュアルを再確認(4月)。支援学校からの実習生2名を受け入れ(2月)。 ④支援学校訪問は未実施。支援学校からの見学を受け入れ(7月:友生支援学校、8月:青陽東養護学校)	△
利用率向上に向けた取組	①支援計画に基づいた活動内容の実施 ②魅力ある祝日プログラムと年間計画表の策定。ご利用者、ご家族へのアピールと周知 ③目標利用者のべ人数13,241人、給付費収入141,455千円の達成 ④共生型通所介護事業のアピール	①支援計画の確認とそれに基づいた活動内容の実施 ②祝日プログラムの実施。 ・カラオケ大会(5、8、10、2月) ・日帰り旅行のスライドショー(7月) ・ミニコンサート、映画祭り(9月) ・秋カフェ(11月) ・新春飾り作り(12月) ・バレンタインチョコ作り(2月) ・ゲーム大会(3月) ③利用者延べ人数12,934人(目標未達成)、給付費収入142,527千円(目標達成)。7月から、常勤看護職員等配置加算(11単位)、重度障害者支援加算(7単位)を取得。 ④ ア)共生型通所介護についてHPでアピール。 イ)共生型通所介護利用希望者1名の見学受け入れ(8月) ウ)兵庫区ケアネットワーク定例会に出席(1月) *利用希望者5名の見学受け入れ(4、5、6、8、9、10月)。うち1名が利用開始。	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
予算(事業費)の周知及び執行状況管理	<p>①事務消耗品の精査と計画に基づいた備品の購入管理</p> <p>②年間計画に基づいた事業の実施と支出の管理</p>	<p>①予算作成時の購入希望物品表に基づく備品の購入管理</p> <p>②</p> <p>ア)年間計画に基づいた事業実施の進捗確認</p> <p>イ)予算執行状況の確認</p>	○
有給休暇取得率の向上と残業の削減	<p>①取得率 50%以下の職員の前年度プラス1日取得。個人の目標値設定(継続)</p> <p>②月 30 時間以上の時間外勤務ゼロの実現</p> <p>③通知通達 119 号に基づいた勤怠管理の実施</p> <p>④業務の効率化への取組み(業務の棚卸)</p>	<p>①</p> <p>ア)前年度実績の把握(取得日数 5 日未満者、取得率 50%未満者の特定。誕生月の確認。</p> <p>イ)取得方法の共有(誕生日休暇を含めた目標値を有給管理表に記入)</p> <p>ウ)取得状況の確認(一覧表作成)。上半期の有休取得率は 24.6%だったが、年間の有休取得率は 73.3%。</p> <p>エ)前年度取得率 50%未満者 6 名中 5 名は前年度+1 日の取得達成。</p> <p>②月 30 時間以上の時間外勤務者なし。</p> <p>③</p> <p>ア)ノー残業デーの徹底</p> <p>イ)勤怠管理システムによる勤怠管理の実施</p> <p>④業務の効率化への取組みは未実施。</p>	○
合同勉強会の開催(家族と支援員)	<p>①理学療法、福祉制度についての勉強会の開催</p>	<p>ア)職員会議で理学療法(機能訓練)についての勉強会開催(6、10、2月)</p> <p>イ)家族会で理学療法(機能訓練)についての勉強会開催(7、11月)※3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料のみ配布</p>	◎
機能訓練の実施	<p>①理学療法士の選定</p> <p>②オプションプログラムとしての実施方法・料金等の確定</p> <p>③利用者アセスメント実施</p> <p>④機能訓練プログラムの提供</p>	<p>①理学療法士の選定と打合せ(4、5月)</p> <p>②実施方法、料金を決定し、希望アンケートを実施。利用希望者の確定。</p> <p>③利用希望者のアセスメントを実施。</p> <p>④</p> <p>ア)機能訓練プログラム「エイジングマネジメント」の本格実施(8月～)</p> <p>イ)12月に二次募集を行い、追加希望者への機能訓練プログラム実施(1月～)</p>	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
サポートブック携帯、ヘルプマークの提示の呼びかけ	<p>①サポートブック携帯、ヘルプマーク提示の呼びかけ（よつば寄席チラシと共に地域住民へのアピールの為の街頭ティッシュ配り）の実施</p> <p>②サポートブックの新規作成・更新の呼びかけ</p> <p>③自立支援協議会「防災部会」への参加</p>	<p>①</p> <p>ア) 街頭ティッシュ配りの実施(4、10月)</p> <p>イ) よつば寄席にてサポートブックとヘルプマークの説明(5、10月)</p> <p>②サポートブック新規作成・更新の呼びかけ(4、10月)</p> <p>③</p> <p>ア) 防災部会に参加(5、8、10、1月)</p> <p>イ) ほっとかへんネットの生活環境改善事業に参加(7月)</p>	○
新規定期ボランティアの確保	<p>①日中活動プログラム参加ボランティアの呼びかけ(地域清掃)</p> <p>②西松医師による地域住民向け落語会の開催(年間2回予定 5月、10月)</p>	<p>①地域清掃に神戸マツダのボランティアが参加(4、6、9～12月)。感謝状贈呈(3月)</p> <p>②</p> <p>ア) 第4回よつば寄席の開催(5月)26名参加</p> <p>イ) 第5回よつば寄席の開催(10月)47名参加</p> <p>ウ) 施設紹介の写真パネルを作成し、第5回よつば寄席で掲示。</p>	◎
活動スペースの現状分析・課題の明確化	<p>①利用者お一人おひとりが安心して過ごすことができる活動スペースの確保(構造化)</p> <p>②十分な見守りができる環境の整備</p>	<p>①</p> <p>ア) 2、3グループの活動スペースの見直し(5月)</p> <p>イ) 3グループの個人スペースの整備(8月)</p> <p>ウ) 4グループの個人スペースの整備(9月)</p> <p>エ) 4グループの静養スペースの整備(10月)</p> <p>オ) 2グループの活動スペースの整備(10月)</p> <p>②1、3グループの間の仕切りを撤去し、見守りしやすいよう整備(5月)</p>	○
設備整備	<p>①バリアフリー、スペース拡充整備の準備(神戸市と協議)</p> <p>②センター内美化への取組</p>	<p>①</p> <p>ア) 昨年度作成の改修図面の再確認。神戸市障害福祉課が来所し、話し合いを実施(12月)</p> <p>イ) 送迎用のマイクロバスの入れ替え(9月)</p> <p>ウ) 館内空調更新工事により、トイレの空調新設(6月)</p> <p>②</p> <p>ア) 事務所キッチン・トイレ清掃の当番表を作成し、毎日実施。</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
		ｲ) センター内美化活動を全職員で実施 (6月：加湿器・扇風機・和室の畳の清掃、 9月：利用者更衣室の大掃除、12月：更衣室、靴箱の清掃、3月：事務所内の清掃)	

2. 出来た事案

特にありません。

以上

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 木南 仁

ワークセンターわかまつの第3期中期計画の最終年、社会福祉充実計画の1つでもある「長田地区でのカフェの新設」に向けての取り組みは、物件の契約から工事助成を申請、8月から工事を実施、ついに10月28日にオープンに至りました。店舗工事を進めながらも、ハード面、ソフト面の準備を行い、店の名前を「まつぼっくり」としました。販売希望のご利用者には接客の練習等も行いました。開店から多くのお客様にお越しいただき、今後は地元の大正筋商店街とも連携しながら地域に根差した取り組みを行っていきます。

今年度は34名からのスタートになり、カフェ出店に合わせて利用者増を目指しました。新規利用もありましたが、利用終了の方もおり、十分な利用者増にはつながりませんでした。ようやく3月に神戸聖生園からの移行者を受け入れ37名で年度を終えることができました。次年度は支援学校からの卒業生を受け入れ39名からのスタートになります。ただ、障がい特性による欠席や体調不良による欠席が多くみられ、見込みの利用率に届かない状況でした。祝日の臨時営業等も実施しリカバーに努めましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により3月に予定していた宿泊活動の中止だけでなく、販売イベントの自粛や土日に予定していた活動日を休止したこともあり、出勤率のリカバーができませんでした。

作業面では、ベーカリー部門でカフェ(まつぼっくり)用の焼き菓子製造を始めました。また、原材料の小麦を国産にするなどこれまでの定番商品の商品改良を行いました。価格変更も実施しました。下請け作業については法人神戸地区の共同受注作業を引き続き行い、取引企業との作業請負契約のできていない企業と交渉し請負契約を順次行いました。作業工賃はカフェの収益も加わったことで、昨年度以上の支給を行うことができました。

職員の専門性向上のために、外部で行われた研修への参加だけでなく内部研修を実施し、協力牧師からはキリスト教理念講座を2回実施しました。また、利用者支援を自ら振り返る「虐待チェックリスト」を毎月実施し、セルフチェックを行いながら支援の質の維持、向上をめざす取り組みを行いました。

1. 推進状況

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
カフェの出店と地域住民に開放するスペースを提供	①カフェを出店・運用	ア) 物件契約(4月) イ) 理事会 工事实施設計、工事見積業者3社選定(5月) 工事業者決定(株正建工業)(7月) ウ) 出店工事 新長田まちづくり㈱ 工事助成申請打ち合わせ(4月) 工事助成金申請・決定(7月) 工事着工(8月)	◎

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
カフェの出店と地域住民に開放するスペースを提供	①カフェを出店・運用	法人完了検査・工事完了(9月) 工事助成金工事完了報告(10月) 黒田建築設計事務所とは随時打合せ エ)カフェプロジェクト(職員間共有)(随時) 店名「まつぼっくり」に決定(6月) オ)カフェマシン・製氷機業者決定(8月) カフェマシン・製氷機納品・設置(9月) カ)利用者：接客講習(随時) 友生支援学校カフェ見学(6月) いぶき明生支援学校カフェ見学(9月) キ)地域清掃(ゴミ拾い)(7月～) ク)カフェ「まつぼっくり」オープン(10月)	◎
地域の会合、イベントに参加	①長田区自立支援協議会、法人連絡協議会へ積極的に参加	① ア)長田区自立支援協議会関係 運営委員会(4,5,7,9,11,1月)、防災部会 (4,5,6,7,10,12,1,2月)避難訓練(2月) 長田区就労系連絡会(7月) イ)ほっとかへんねっと長田関係 役員会(4,5,7,9,11,2月)、イベント部会 (9,11,12,1月)、他事業所見学会(9月)、 一七市拡大版参加(11月)、炊き出し&福 祉相談会(12月)、実務者研修会(2月) ウ)須磨区自立支援協議会関係 すまいんど部会(4,7,10月)すまるしえ 会議(4,6,8,12月)、すまるしえ販売 (4,5,8,10,1月)、すましあ販売(11月) エ)一七市拡大版事前打合せ(7,8,10月)、 一七市拡大版販売(11月)	◎
	②商店街や自治会からの情報収集	② ア)大正筋商店街縁日参加(7月) ワンコイン商店街参加(11月) イ)大正筋商店街組合、近隣店挨拶(8,9月) 「ナガイク」子育て応援アプリ掲載(11月) 大正筋商店街ホームページ掲載(12月) ウ)クーポン付きショップガイド掲載(12月) エ)こども110番「青少年を守る店」登録(12月) オ)大正筋商店街総会(2月)	◎

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
稼働率 75%以上	①利用者 36 名以上の 登録	ア)新規利用者 2 名利用開始(5 月, 9 月) 6 月末で 2 名利用終了 神戸聖生園より移行 3 名(3 月) 3 月末現在利用者 37 名登録	△
就労事業 収入の安 定	①工賃収支を把握し、 工賃アップに向け た検証	ア)法人神戸地区共同受注作業 フレークシール、ネコ箱、圧縮袋実施 (6, 7, 8, 2, 3 月)、情報交換会実施(8 月) イ)作業の掘り起こし、内部検討実施 (4, 5, 8, 9 月) ウ)工賃単価交渉[消費税付与含む]作業請負 契約(8, 9 月)林タオル販売(株)、(有)神戸は しまん エ)まつぼっくり(飲料等価格設定)(10 月)	◎
事業支出 の見直し	①事業支出の見直し、 検証	ア)契約書等の重要書類の整理 書類の再ファイリング(7, 9 月) 書類棚の位置変更(7 月)	○
作業内容 の見直し	①自主生産品の工夫 と販路拡大及び新 規作業の獲得	ア)販路拡大に向けた取り組み 水産大学校へ新製品案内(4 月) イ)商品改良検討会(6, 8, 9 月) シュトーレン改良(7 月) オレンジパン試作(8 月) カフェ用ロッククッキー改良(9 月) 原材料(小麦を国内産へ)の変更(9 月) ウ)新メニューの賞味期限検査(3 月) 既存メニューの賞味期限延長検査(3 月) 食品表示法改定に伴う表示シールの改良 (3 月)	○
業務マニ ュアルの 整備	①業務マニュアルの 再整備 ②第三者評価受審	① ア)パッケージ班マニュアル[試作](4 月) 紙製品マニュアル作成(5, 6, 7 月) 救急車連絡マニュアル作成(6, 7 月) ② ア)第三者評価事前説明会(8 月) 利用者調査(1 月) 訪問調査(2 月)	○

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
利用者ニーズに即した支援	<p>①定例利用者自治会や行事(宿泊等)の開催</p> <p>②満足度調査の実施及びフィードバック</p>	<p>① 利用者自治会開催(4, 6, 8, 10, 12, 2月) イ)社会活動の利用者希望による行先調整(毎月) ウ)宿泊活動中止(3月)</p> <p>② ア)満足度調査実施(1月)</p>	△
防災対策の推進	<p>①防火・防災訓練の実施</p> <p>②災害用備蓄品の整備・確認</p> <p>③マニュアルの再整備</p>	<p>① ア)ジョイプラザ合同防災訓練参加(5, 11月)</p> <p>② ア)電池式ランタン整備(9月) 備蓄品在庫確認(10月)</p> <p>③ ア)家族向けに一斉メールテスト実施(7月) イ)緊急時対応マニュアル検証実施(2月)</p>	○
グループホーム設置の検討	<p>①グループホームのニーズ調査の実施・検証</p> <p>②グループホームの見学会や座学の実施(利用者向け・家族向け)</p>	<p>① ア)利用者満足度調査の項目内で確認(1月) 検証については未実施</p> <p>② ア)見学会や座学未実施</p>	△ ×
研修の実施と充実	<p>①内部/外部研修実施(接遇ハンドブックの活用)</p>	<p>ア)外部研修 福祉のイロハ[市民福祉大学], 感染症対策基礎講座, 障がい福祉施設新任研修[市民福祉大学](6月)ABA学習会[せいれいやさかだい](7月)安全衛生推進者講習[神戸西労働基準協会], 業務の進め方研修[市民福祉大学](8月)虐待対応力向上研修(9月)苦情解決セミナー, 事務職員講座[市民福祉大学](10月)サービス管理責任者更新研修(2月), 長田区ホームページ勉強会(3月)</p> <p>イ)内部研修 接遇ハンドブックの職員会議後輪読(毎月) 新任職員研修[記録の書き方](9月)</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
法人理念と支援指針の共有	①内部研修を通して理解共有	ア) 他法人研修参加(6月), 協力牧師によるキリスト教理念講座実施(7, 3月) イ) 法人キリスト教福祉基礎研修(10月), 法人主任研修, 法人成年後見制度研修(12月)	○
虐待・不適切ケアの防止	①事例検討の実施(年2回) ②虐待防止チェックリストの実施(毎月)	① ア) 虐待防止判定表による学習会実施(7, 1月) ② ア) 虐待防止チェックリスト実施(毎月)	◎
利用者・家族への情報提供	①家族、利用者向けに広報紙の発行(年3回)	① ア) わかまつ通信[第7号](7, 11, 3月) 発行	◎
全職員で中期計画の進捗管理	①職員会議で中期計画の進捗状況の確認(年4回)	① ア) 職員会議で進行状況の振り返り実施(6, 9, 12, 3月)	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2019 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 せいれいやさかだい
 施設長 岩井 誠一

第3期中期計画の最終年度である当年の事業計画(実行計画)の進捗について確認を行うと同時に、計画内容を見直しつつ修正を図りながら取り組みました。

林タオル・シミズ事業所の就労継続支援B型事業への完全移行は、就労移行準備事業からの撤退や、企業受注量の低下等から適切でないと判断し、次年度以降(第4期中期計画)も多機能型を継続する計画としました。

現企業だけに頼っている作業量・収入等を見直し、作業種を増やして利用者みなさんがそれぞれに仕事ができる環境創りを積極的に進めました。2019年11月からの竜が台7丁目ゴミステーション清掃はそのひとつです。

生活介護の拠点となる友が丘事業所では、地域住民の高齢化・健康面の悪化等により活動への協力者・ボランティアにも変化がみられ、活動内容を見直す時期に来ています。地域に対して出来ることを積極的に行う姿勢で近隣公園の除草作業を実施して地域に協力しました。

地域交流では、新たな関わりと関係づくりを行いました。各イベントへの参加、児童館(児童ら)との交流会などを行い、その内容をミニ広報紙でバス停留所に掲示し、活動を知っていただきました。

また、ご利用者の昼食について、食事提供体制加算の体制が整い、負担軽減を図り、ご家族にもご試食会を通して食事内容等について知る機会を提供しました。

職員の専門性向上を目指して、ABA学習会を年3回開催し、自閉症スペクトラム障害について法人内事業所の皆さんと共に学びました。

作業量の低下、利用者の減少、退園、精神面の病気による長期欠席など、年間を通して欠員が続いたため、法人内サービス移行希望者の実習受入れ、関係機関に空き情報の提供など、利用者獲得のため努力しましたが利用者数(総数)の回復には至らず、就労継続支援B型事業は76.4%、生活介護事業86.8%の利用率に留まりました。

1. 推進状況

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
地域貢献WGによるニーズ調査	①友が丘総合事業会議	① ア)友が丘プロジェクト会議出席(4月)以降は、友が丘3園で計画の進捗を図る イ)聖隷保護者協議会(7月)・家族会(9月)にて担当者より友が丘総合事業についての説明	△

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
地域貢献WGによるニーズ調査	<p>(友が丘プロジェクト会議) 参画</p> <p>② ニーズ調査の実施 (年1回)</p>	<p>②</p> <p>ア) 北須磨団地自治会への挨拶(4月)</p> <p>イ) 地域行事への参加(安全・安心コミュニティ・ささえ愛学習会・友愛まつり・夏祭り・慰霊祭・運動会反省会)</p> <p>ウ) おいでやすカーニバルの協力とポスター掲示を依頼(9月)</p> <p>エ) 北須磨団地自治会民生委員長から北須磨地区法人事業所の見学要望(ニーズ)があり、神戸愛生園・せいれいやさかだい・GHたいのはた東の見学会を実施(2020年1月)。</p> <p>オ) 多井畑東地区よりふれあいカフェの情報提供あり</p>	△
地域貢献計画の策定	<p>① 情報収集(地域での聞き取り)</p> <p>② 情報収集(先進的取り組み事業所への聞き取り)</p> <p>③ 須磨区ほっとかへんネットへの参画</p>	<p>①</p> <p>ア) 竜が台7丁目自治会のゴミステーション清掃について相談を受け、神戸聖生園と内容検討、調整(5~10月)、協同し週2回実施(11月~)</p> <p>イ) 北須磨団地自治会依頼の公園除草作業実施(4~11月)</p> <p>②</p> <p>ア) 北須磨団地自治会開催の支え愛学習会出席(5月)</p> <p>イ) 県主催の農福連携推進セミナーに出席(8月)</p> <p>ウ) 近畿地区知的障害関係施設職員研修会に参加し農福連携部会で情報取得を図る(2020年2月)</p> <p>③</p> <p>ア) 連絡協議会出席(7月)</p> <p>イ) 3区合同・福祉なんでも相談窓口相談員研修参加(6月)</p>	○
サロン活動の継続	① サロン活動の継続 (年11回)	<p>①</p> <p>ア) 地域の高齢者を迎えてのサロン活動を毎月実施、4月~2020年2月の開催(計10回)で総勢52名の参加を得る</p> <p>イ) 3月の活動は新型コロナウイルス感染拡大を受け自粛</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
広報紙・ミニ広報紙の発行	①広報紙の発行 ②ミニ広報紙の発行(年6回)	① ア) 広報紙の発行に向けた見積もりと構成を実施(6・7月) イ) 発行までには至らず ウ) 広報誌発行に向け見積もりを出す(2月) ②ミニ広報紙を5回発行(5・7・9・12・1月)	△
小・中・高生への発信・交流	①近隣の高校ボランティア部への呼びかけ ②友が丘中学校のトライやるウィーク受け入れ ③北須磨児童	① ア) 近隣高校へのボランティア呼びかけは未達成。 ② ア) トライやるウィーク受入れ調整(6月) イ) トライやるウィーク受入れ実施(11月) ③ ア) 児童館主催のミニコンサートに参加(6月) イ) 児童館と交流イベント夏祭りを友が丘事業所で実施(8月) ウ) 事業所クリスマス祝会を開催し児童館館長をゲストとして招待(12月)	△
移転計画の検討	①事業所移転の再考 ②林タオル事業所の方向性の検討	① ア) 部長を含めた職制で方向性を確認(4月) イ) 職制会議にて移転計画内容の確認を行い職員会議にて報告、職員共有を図る ウ) 林タオル事業所における建物改修課題点について黒田設計に確認(5月) エ) 流通会館物件を下見、不動産情報収集(6月) ② ア) 職制会で検討・現体制を継続。状況に応じて将来移転を図る準備(事業計画・資金調達面等)を整える方向とした イ) 消費税10%増税のため、先方と話し合いの上、契約更新を行う(10月)	△

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
事業対象となる方の呼び込み	<p><法人内連携></p> <p>①関係機関への広報</p> <p><社会参加の機会提供></p> <p>①厚生労働省の研修参加</p> <p><関係機関との連携強化></p> <p>①生活保護行政からの情報収集</p>	<p><法人内連携>①</p> <p>ア) すらま障害者地域生活支援センター・神戸聖隷総合相談センターへ希望者紹介を依頼(5月～)</p> <p>イ) 神戸聖生園に就労継続支援B型移行希望者の確認を行う(7月)</p> <p>ウ) 神戸聖生園利用者現場実習実施(4名受入れ)</p> <p><社会参加の機会提供>①</p> <p>ア) 未実施</p> <p><関係機関との連携強化>①</p> <p>ア) 生活保護行政からの情報収集を不定期で実施(西区)</p> <p>イ) 須磨区自立支援協議会「全体会」・「就労支援」・「まなぼー」各部会に出席(6・7・8月・11月・2月)</p> <p>ウ) いぶき明生支援学校実習生受入れ(6・8月)</p>	○
介護講習会の実施	<p>①介護講習会の開催</p> <p>②法人内外理学療法士によるスーパーバイズを受ける</p>	<p>①</p> <p>ア) 介護講習会を企画するが、費用・時期・他事業所への周知等から未実施</p> <p>組み予定</p> <p>②</p> <p>ア) 上記講習会の件で相談を実施(7月)</p> <p>イ) 看護師が講師となり、研修会を企画</p>	△
日中活動の見直し	<p>①健康活動プログラムの立案、実施、振り返り</p> <p>②齢化指標の実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 友が丘事業所職員間でプログラム見直しについて検討し週2回のウォーキングを実施(8月)</p> <p>イ) 下半期は体を動かすプログラムの継続と週間プログラムの構成実施</p> <p>②</p> <p>ア) 障害者の高齢化指標についての資料を検討(9月)</p> <p>イ) 認知症判別資料を配布し試行(1月)</p>	○
友が丘事業所の設備改修	<p>①生活環境のモニタリングを実施、改善につなげる</p>	<p>①</p> <p>ア) 改修希望箇所を確認し、溝蓋・ドアブ・トイレ鍵等の改善を実施</p>	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
外部講師による事例検討会の実施	①事例検討学習会の実施 (年3回)	① ア) ABA学習会を神戸地区事業所へ周知し実施(全3回、7・11・2月) イ) 研修での感想、質問を集約し、講師へ提出、講師より質問状の返答を各事業所に返す	○
利用者ニーズの確定	①モニタリングと満足度調査の実施 ②法人内業所との調整	① ア) モニタリングを実施 イ) 満足度調査はQOL委員会作成内容に当事業所設問を追加し10月に実施 ウ) 満足度調査内容を利用者、家族に回答 ② ア) 利用者ニーズを反映する自治会組織の仕組みと運営についてわかまつ事業所を訪問(6月) イ) 構造化の仕組み習得のため、自立センターひょうごを訪問(6月)	○
企業との連携	①企業の運営に沿った事業展開の検討 ②企業と連携した事業所の開所	① ア) (株)林タカ販売に対し新たな事業所価値を企画(4月)・提案(5月)・実施(5・8月) イ) 林タカ事業所の利用状況について、改善・注意点の指摘を受け対応を検討(9月) ② ア) 企業休日(ゴールデンウィーク・夏季休業・3連休など)への対応を実施	○
神戸地区送迎サービス事業への参画	①送迎サービスの利用状況の把握 ②希望者の確認 ③今後の生活を考え、送迎を検討する方の調整	① ア) 送迎バス利用の方に随時聞き取りを実施 ② ア) 新規送迎希望者のニーズを確認(須磨区1名、西区3名) ③ ア) 事業者内で検討し数名をピックアップ、経営強化推進部へ情報提供(9月) イ) 垂水区利用者1名の乗車を検討 ウ) 須磨区利用者1名の乗車パターンを検討中	○

実行計画	2019 年度計画	実施状況	達成度
給食システムの確立	① 宅配給食の実施 ② 提供給食の満足度調査実施	① ア) (株)クローバー・キッチンと契約、神戸市への申請を行い認可を受ける(7月) ② ア) 給食の満足度調査は10月に実施 イ) 家族会において試食会を提案(9月) 11・12・1月の家族会後に実施	○
意見交換・情報共有方法の検討	① 情報共有方法の確立 ② V P N 化に伴うネットワーク設定変更及び共有設定	① ア) 3事業所間での情報共有システム(共有ファイル)の構築と説明を実施、活用(4月) イ) ゲーグルカレンダーの予定表共有を開始(7月) ウ) LINEグループの構築によるタイムリーな情報共有を取り入れ活用を開始(8月) ② ア) 勤怠管理システムの導入と活用(7月)	○
事業所間交流	① 事業所間交流の立案と実施	① ア) 年間計画に沿って交流プログラムの担当を各事業所から選出 イ) 3事業所が協力して行う土曜活動を実施(クッキング・テイクアウト・ミニバザー等)	○
マニュアルの整備(業務指示書)	① マニュアル整備	① ア) QOL推進部からのマニュアル整備に順次対応 イ) 防災マニュアル・運転マニュアル等の整備を実施 ウ) 個別支援計画実施マニュアルの修正	○
	① 業務の見直し ② P C D A サイクルの確立	① ア) 行事企画書・計画書等の書式見直しと統一の働きかけを職員会議で随時伝達(8月～) イ) 業務見直しアンケート調査は未実施 ② ア) PCDA サイクルの提示は、未実施	△
研修計画の作成	① 階層別法人研修への積極的参加 ② 職員育成研修計画立案	① ア) 階層別研修の受講は適宜対応 ② ア) 年間の職員育成研修計画立案には至らず	△

実行計画	2019年度計画	実施状況	達成度
	① 専門性向上 研修計画立案	① ア) 計画立案は至っていないが研修希望があった者に対し受講支援を実施 ・ 行動障害者研修(5月・10月) ・ 防災対応力向上研修(6月) ・ 虐待対応力向上研修(7月・11月) ・ 生活を向上させるための介護技術(8月) ・ 虐待対応研修特別プログラム(11月) ・ アンガーマネジメント研修(1月) ・ 日中活動支援部会等職員研修会(1月) ・ サービス管理責任者更新研修(2月)	○
西神戸教会員の方より歴史を学ぶ	① 話を聞く会の開催 (年1回) ② 理念研修に参加	① ア) 神戸聖隷歴史資料館で越智顧問より歴史について伺い、但馬地区事業所(さくらの苑・恵生園)見学を実施(7月) ② ア) キリスト教福祉法人運営協議会(2月)	○
キリスト教福祉講座への参加	① 法人理念部会が企画する研修への参加 ② 法人主催のキリスト教福祉講座への出席 (年2名)	① ア) 海外研修企画、他事業所見学研修の案内を実施 イ) 参加希望者なし ② ア) キリスト教福祉講座に2名参加(10月)	△
理念に基づく支援観の共有	① 理念の唱和 ② ハンドブックの活用 ③ 伝達の場の開催(年2回)	① ア) 毎週明け初日に実施 ② ア) キャンペーン期間以外にも読み合せを実施 イ) キャンペーンのポスター掲示 ③ ア) クリスマス祝会を利用して実施	○

2、出来した事案

(1) 神戸市による事業運営に係る指導の対応

2019年1月29日神戸市より虐待に係る調査(実地指導)を受け8月中旬に「事業運営に係る指導」が届きました。個別支援計画の運用に課題が確認されたため9月27日までに指導項目への対策を講じ文書で提出するよう通知がありました。せいれいやさかだいにあった個別支援計画書策定に係る指示書(方針・流れ・手順)について見直しを図り、利用者・ご家族・支援者が共通認識を持ちながら個別支援計画の策定に当たることが出来るよう、より具体的な解

説等を加え 9 月 26 日に報告をいたしました。(上期にて報告済み)

2019年度 事業報告別表 1(事業実績)

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)	定員数	単位=人		単位=%		単位=人	
		利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
		2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績
特養 平生園	60	21,301	21,293	97.0	97.0		
〃 さくらの苑	29	10,188	10,406	96.0	98.0		
GH わらしべ	18	6,457	6,538	98.0	99.2		
入所 恵生園	60	21,301	21,218	97.0	96.6	0	0
〃 真生園	60	21,455	20,925	97.7	95.3	0	0
〃 神戸愛生園	50	17,385	16,894	95.0	92.3	0	0
〃 神戸明生園	70	23,156	22,459	90.4	87.7	0	1
GH グループホームもみの木	5	1,648	1,691	90.1	92.4		
〃 グループホームかしの木	7	2,407	2,394	94.0	93.4		
〃 グループホームかしの木Ⅱ	5	1,292	1,192	70.6	65.1		
〃 しおや	4	330	332	98.0	84.5		
〃 せいれいやまて	7	1,764	1,472	98.0	84.5		
〃 たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,564	1,571	85.5	85.8		
〃 南落合	5	774	735	84.6	80.3		
〃 アリエッタ北須磨	10	730	592	80.2	65.1		
〃 きたすま	5	1,698	1,729	92.8	94.5		
〃 みなみたもん	5	1,699	1,699	92.8	92.8		
〃 ふくだ	10	3,184	3,480	87.0	95.1		

4~7月 142日
8~3月 224日
10~3月 183日
1~3月 91日

短期入所支援事業		定員数	単位=人		単位=%	
			2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績
高齢	さくらの苑	10	3,552	3,407	97.0	93.1
障害	恵生園	3	426	427	38.8	38.9
〃	真生園	4	338	611	23.1	41.7
〃	神戸愛生園	5	1,098	1,057	60.0	57.8
〃	神戸明生園	10	2,970	2,768	81.1	75.6
〃	アクセスひょうご	6	2,160	2,430	98.4	110.7

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)		定員数	単位=人		単位=%		年間稼働日により算出
			2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	
通所	さくらの苑	18	4,908	4,589	88.0	82.2	310日
〃	デイセンターひょうご(共生型)	25	455	497	6.7	7.4	
〃	神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	99	98	0.6	0.6	
生活	恵生園	60	16,352	16,359	100.9	101.0	12.2
〃	真生園	60	16,103	15,786	99.4	97.4	
〃	神戸愛生園	60	15,639	15,076	96.5	93.1	
〃	神戸聖生園	47	10,334	10,981	81.4	86.5	
〃	せいれいやさかだい	25	6,264	5,818	92.8	86.2	
〃	神戸光生園	54	13,944	13,640	95.6	93.6	
〃	神戸明生園	80	20,734	20,316	96.0	94.1	
〃	デイセンターひょうご(多機能型)	25	5,173	4,559	76.6	67.5	
〃	自立センターひょうご	60	13,142	12,836	81.1	79.2	
〃	トゥモロー	8	1,210	1,116	63.6	58.6	市との協定日数により算出 238日
〃	インクルージョンひょうご	20	3,490	3,238	64.6	60.0	
日中	真生園	5	12	9	0.7	0.5	
〃	神戸明生園	10	48	69	1.3	1.9	
〃	アクセスひょうご	6	83	46	3.8	2.1	
児童	すまいる	20	2,959	2,949	64.6	64.4	市との協定日数により算出 229日
〃	らみい	10	1,683	1,732	64.5	66.4	市との協定日数により算出 261日
〃	エスポワールこじか	10	1,927	1,959	83.8	85.2	市との協定日数により算出 230日

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)		定員数	単位=人		単位=%		単位=人		就労定着支援	
			2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績
移行	和生園	6	1,180	1,525	72.8	94.1	2	0	64	15
〃	神戸光生園	6	656	778	40.5	48.0	1	1	57	48
〃	ワークセンターひょうご	30	5,261	5,920	65.0	73.1	16	14	384	323
相談	神戸市障害者就労推進センター	—	—	—	—	—	95	84	—	—
〃	神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)		定員数	単位=人		単位=%		単位=円		単位=円	
			2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績
就B	和生園	34	8,820	8,613	96.1	93.8	250	240	25,000	22,382
〃	神戸聖生園	22	5,043	4,804	84.9	80.9	83	69	5,500	4,569
〃	せいれいやさかだい	15	3,433	3,050	84.8	75.3	51	60	6,470	6,578
〃	神戸友生園	37	8,979	8,761	89.9	87.7	130	148	13,000	10,699
〃	神戸光生園	30	7,580	7,570	93.6	93.5	117	123	12,251	12,935
〃	デイセンターひょうご	10	2,800	3,183	103.7	117.9	90	123	2,000	2,639
〃	ワークセンターわかまつ	40	8,420	8,015	78.0	74.2	121	128	11,130	11,299

居宅介護支援・相談支援		支援内容・対象	支援件数	
			2019年度 目標	2019年度 実績
居宅	居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,148	1,091
障害	びあほくたん	障害者	395	519
"	発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	980	815
"	エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	220	271
"	恵生園相談支援事業所	障害者	263	231
"	神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	9,500	10,921
"	神戸市障害者就労推進センター	障害者		
"	ひょうご障害者地域生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	5,250	5,586
"	神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	1,110	1,095
"	すま障害者地域生活支援センター	相談・緊急対応	7,900	7,670
"	神戸聖隷総合相談センター	相談	2,900	2,845

生活援助・介護予防・職場開拓		項目	件数	
			2019年度 目標	2019年度 実績
障害	あったかプラザ(飲食店)	来店人数	7,100	7,150
"	障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	300	321

診療所		診療延べ人数	
		2019年度 目標	2019年度 実績
医療	真生園診療所	1,175	984
"	風クリニック	1,100	1,257
"	神戸愛生園診療所	3,000	3,167

法定年間稼働日数	366日
法定年間稼働日数	270日

注意: 利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×366日)
②日中型事業	利用延べ人数÷{定員数×(366日-8日×12ヶ月)}

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合
利用率=1250人÷(20人×(23日+22日+23日))=91.9%

2019年度 事業報告別表 2(設備整備実績)

No.	施設名	施設 件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額 (千円)	財源			
							サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
1	恵生園	1	恵生園 2019年度改修工事	経年劣化等による外壁、外構の整備	2019年12月	57,991	生活介護 施設入所 短期入所	人件費積立金取崩収入 修繕積立金取崩収入 減価償却積立金取崩収入		
2	恵生園	2	非常用自家発電設備更新	製造から31年間使用しており、製造20年を経過すると生産中止部品が多くなり不具合箇所によっては部品の調達ができず、修繕が困難になるため更新	2019年9月	6,480	生活介護	介護給付費収入 施設整備等補助金収入	平成30年度社会福祉施設等施設整備補助金	4,374
3	真生園	1	浴室改修(本館)・設計監理料	重度高齢化に伴い利用されていない一般浴槽を撤去する。また、浴室暖房の設置等や職員の労働環境改善等、快適な浴室環境に改善する。	2019年10月	22,000	生活介護	修繕積立資産取崩収入		
4	真生園	2	特殊浴槽(シャワーバス)等の導入	社会福祉充実計画施設・設備整備(先進福祉機器等の導入による利用者ケアの充実)を目的とした導入(重度高齢化に伴い一般浴室撤去による導入)	2019年10月	5,753	施設入所	備品積立資産取崩収入		1,438
5	真生園	3	特殊浴槽2台の更新	経年劣化による不具合と修理保証がないため更新	2019年10月	11,110	施設入所	備品積立資産取崩収入		
6	真生園	4	非常用発電設備の更新	製造より31年が経過し経年劣化による不具合と修理保証がないため更新	2019年9月	6,858	生活介護	修繕積立資産取崩収入		4,629
7	和生園	1	和生園製袋作業場改修工事	旧ノア・グループ和田山作業所1階部分の床・壁の張替えと製袋作業をするための電気・機械設備の改修	2020年1月	11,452	就労継続支援B型	修繕積立金取崩収入 備品積立預金取崩収入		
8	平生園	1	ほのぼの更新	NDソフトウェアほのぼのの更新	2019年5月	1,070	平生園(特別養護老人ホーム)	減価償却積立資産取崩収入		
9	平生園	2	平生園防犯設備整備工事	緊急通報装置(110番通報)設置及び人感センサーライト4台設置	2020年3月	1,903	平生園(特別養護老人ホーム)	減価償却積立資産取崩収入	朝来市社会福祉施設等の防犯設備整備費補助	340
10	わらしべ	1	2019年度高齢者グループホームわらしべ空調設備改修工事	全館の冷暖房更新(居室は単独型仕様、共有スペースは共用型仕様)	2020年3月	15,950	わらしべ	設備資金借入金	地域介護・福祉空間整備等施設整備事業	7,730
11	わらしべ	2	わらしべ防犯設備整備工事	緊急通報装置(110番通報)設置及び人感センサーライト4台設置	2020年3月	1,419	わらしべ	減価償却積立資産取崩収入	朝来市社会福祉施設等の防犯設備整備費補助	340
12	さくらの苑	1	個別浴槽対応型リフト導入	さくらの苑開設時導入していなかった個別浴槽対応型リフト1台を導入	2019年8月	1,468	さくらの苑(地域密着型特養)	減価償却積立資産取崩収入 施設整備等補助金収入	ハローワーク介護福祉機器助成	367
13	さくらの苑	2	介護保険請求ソフト5年間使用权	2014年に導入した介護保険請求ソフト「ほのぼのNEXT」使用权(5年間)更新	2019年5月	1,457	さくらの苑(地域密着型特養)	減価償却積立資産取崩収入		
14	神戸光生園	1	施設内改修工事	・多目的トイレ等1階トイレ改修工事 ・放送設備(非常・一般)更新工事 ・厨房内照明器具をLED化	2019年12月	6,215	就労継続支援B型	修繕積立資産取崩収入		
15	神戸明生園	1	2019年度神戸明生園新館大規模修繕工事	大規模修繕(外壁塗装・防水)工事に伴う設計管理費用	2020年9月	17,589	生活介護	施設整備補助金 介護給付費収入	神戸市民間社会福祉施設整備費等補助金	1,881
16	神戸明生園	2	勤務表作成ソフト整備	ソフト整備初期費用	2020年2月	1,284	生活介護	介護給付費収入		0
17	ワークセンターわかまつ	1	カフェの新設	新長田駅南地区でカフェを出店するための準備費用	2019年10月	13,240	就労継続支援B型	拠点区分間繰入金収入(社会福祉充実残額)	新長田街づくり株式会社 復興市街地再開発地域事業所開設支援事業助成金	4,000